国際的な観光指標の導入を踏まえた
持続可能な観光の推進に関する実証事業
実施報告書

令和２年３月

北海道運輸局

目次

1．事業の概要 2
(1) 事業の実施体制 3
(2) 事業計画 4
① 「1.関係者への情報共有及び類似事業調査」の実施プロセスと計画内容 4
② 「2.GSTC トレーニングプログラムの実施」の実施プロセスと計画内容 5
③ 「3.ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業」の実施プロセスと計画内容 6
④ 「4.セミナーの実施」 7
2．関係者への情報共有及び類似事業調査 8
3．GSTC トレーニングプログラムの実施 10
(1) ニセコ・阿寒における GSTC トレーニングプログラムの実施 10
① GSTC トレーニングプログラムの構成と申込状況 10
② GSTC トレーニングプログラム実施の様子 13
③ GSTC トレーニングプログラムのアンケート結果 20
(2) 認証取得に向けたアクションプラン案 28
① ニセコ町を想定したアクションプラン案 29
② 阿寒湖温泉を想定したアクションプラン案 32
4．ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業 35
(1) 実証事業内容の検討プロセス 35
① セミナー（持続可能な観光、SDGｓへの取り組みの必要性について） 36
② ペットボトルゴミ削減の取り組み例と案、考え方説明 37
③ グループディスカッションおよび全体ワークショップ 38
④ 実証内容に関する会議（10 月 24 日） 40
(2) 実証事業の実施結果 42
① 給水スポットに「美味しい」「飲める」が伝わる案内表示を設置する 42
② 猛禽類医学研究所とサーモスコラボのマイボトルの展示販売 45
③ 「飲める」「汲める」ことがわかる案内表示を宿内や地域内に設置 52
(3) 阿寒湖地域に向けての提言 53
① 試飲イベントのアンケート結果 53
② アンケート結果の考え方 62
③ 今回の取り組みを踏まえ、地域で継続していきたいこと 63
5．セミナーの開催 65
(1) セミナーの構成と申込状況 65
(2) セミナー実施の様子 66
① 導入セミナー 66
② 事例紹介 67
③ 今年度の事業報告とパネルディスカッション 68
(3) セミナーのアンケート結果 70
① セミナーを知ったきっかけ 71
② セミナーに参加した理由 72
③ セミナー参加による「SDGｓや持続可能な観光の推進」への取り組み意識の変化 73
④ セミナー参加を経て取り組みたいこと 74
⑤ セミナー参加の感想 75
⑥ 今後必要と考えるサポート 76
6．事業実施結果から考える今後の取り組み 77
7．参考資料一覧 79

1．事業の概要

本事業「国際的な観光指標の導入を踏まえた持続可能な観光の推進に関する実証事業」では、昨今、世界各地や日本全国はもとより道内でも意識が高まりつつある「持続可能な観光の推進」に向けて、下記（図 1-1）、北海道運輸局の対外部説明資料のとおり「1. 関係者への情報共有及び類似事業調査」「2. GSTC トレーニングプログラムの実施」「3. ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業」「4. セミナーの開催」について実施し、ニセコ町、釧路市阿寒湖温泉での取り組み結果やセミナー等を通して、道内に向けて取り組みの必要性や今後の具体的行動例について示し、各地での「持続可能な観光の推進」をさらに加速させるものと認識する。

（図1-1）

ニセコ町	阿寒地域	他道内地域等
1．関係者への情報提供及び類似事業調査		
・取り組みの必要性理解（事業開始時の事前説明） ・現状を踏まえ、現実的な取り組みに向けての意欲の創出（GSTCﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ案作成時における情報提供）		・取り組みの必要性の理解と現状を踏まえた取り組み意欲の創出（セミナー開催時における情報提供）
2．GSTCﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの実施		
・道内に先駆けた2地域での開催（ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞの実施） ・取り組みの必要性と国際基準（GSTC）の理解（座学ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ） ・ GSTC基準の視点で地域や各自の取り組みの見つめ直しや、今後の取り組みの方向性の明確化（屋外・座学ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ）	**3．ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙｺﾞﾐ削減に向けた実証事業** ・道内に先駆けた地域での具体的な取り組みによる地域全体の意識の底上げ（実証事業） ・SDGsや取り組みの方向性の地域内理解（地域内説明） ・継続的取組みの意欲創出（実証事業の実施）	
4．セミナーの開催		
・取り組みの必要性の理解と現状を踏まえ、より具体的な取り組み意欲の創出（セミナー）		

※北海道運輸局 対外部説明資料より

国際的な観光指標の導入を踏まえた持続可能な観光の推進に関する実証事業

国土交通省 北海道運輸局

【ニセコ町、釧路市（阿寒）】

○Ｇ２０観光大臣会合をはじめとした国際会議において、 持続可能な観光が大きなテーマとなるなど、持続可能な観光に対する国際的な関心が高まっている。

○北海道内では、ニセコ地域や阿寒地域において持続可能な観光への関心が高まっているが、具体的な取組方法がわからず、対応に苦慮していることから、グローバルサステナブルツーリズム協議会（GSTC）のトレーニングプログラムを実施し、地域の機運を高めた上で、実証的な取組を行う。

背景

○　観光地が長きにわたって当該旅行者を受け入れていくためには、経済、社会、文化、環境等の様々な観点から十分配慮された観光（持続可能な観光）となっているかが重要。

○持続可能な観光は、国際的にも関心の高いテーマとなっている。
※例えば、2018年イタリアで開催されたATWSにおいても、ほとんどの参加者がマイボトルを持参したりするなど、環境への配慮が徹底されていた。
※2019年10月に倶知安町で開催されるG20観光大臣会合においても持続可能な観光がテーマとなる予定。

○北海道内において二セコ町や釧路市阿寒町で持続可能な観光への関心が高まっているが、具体的な取組方法がわからず、対応に苦慮している。

事業概要

◆**ＧＳＴＣトレーニングプログラムの実施**(2019.6~9)　@二セコ、阿寒
・ＧＳＴＣの観光地向けの持続可能な観光水準に照らして、二セコ町及び釧路市阿寒町における現在の水準がどの程度であるかを分析
・二セコ町及び釧路市阿寒町において認証を受けるために必要な事項を整理し、認証に向けた数カ年のアクションプラン案を作成し、提案

※ＧＳＴＣ(Global Sustainable Tourism Council)
⇒UNWTOを含む約30の国際機関等から構成される組織。持続可能な観光に関する基準作りを行うとともに、これらに基づく国際認証を行う機関の認証を行っている。なお、日本において、GSTCの基準に基づく認証を得た観光地はない。



◆**ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業**(2019.10~2020.1)　@阿寒
・阿寒町の水道水の質の高さをブランド化し、阿寒町の水道水は直接飲むことができることを旅行者に周知
・旅行者が極力、ペットボトルを買わずに、阿寒町の水道水を飲むような仕組み（マイボトルの販売促進、水汲み場の設置等）を構築
・宿泊施設内における一日の廃棄物の量を測定するなどして、本実証事業の効果を測定

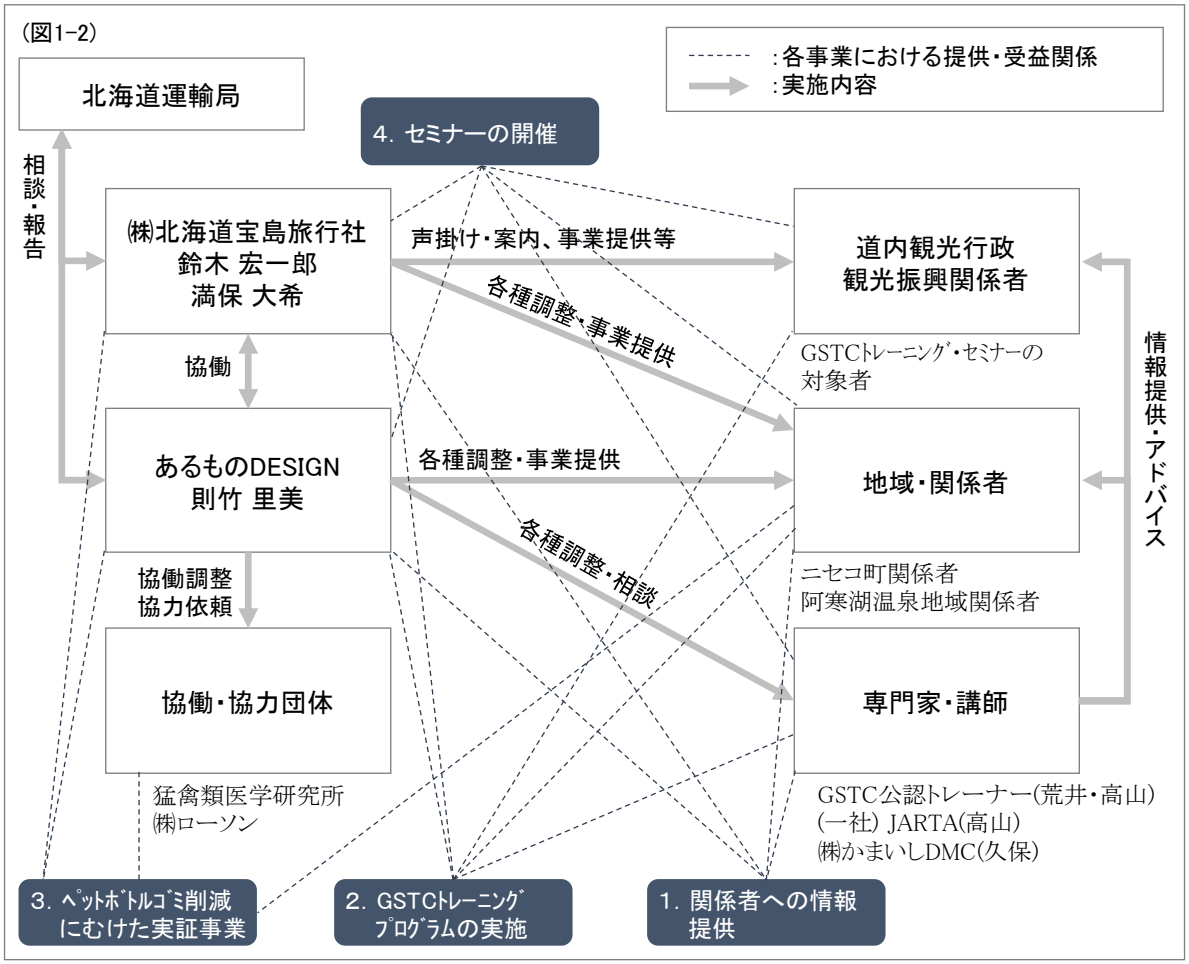
◆**セミナーの開催**(2020.2)　@札幌等
・上記で得た知見を北海道全体に普及することを目的としたｾﾐﾅｰを開催

本事業の仕様では「1.関係者への情報共有及び類似事業調査」「2.GSTC トレーニングプログラムの実施」「3.ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業」「4.セミナーの開催」の 4 つが挙げられているが、それぞれの実施については上記(図 1-1)のとおりとし「1.関係者への情報共有及び類似事業調査」については、他の 3 つの事業内容を通してそれらの関係者（参加者等含む）に対し実施することとした。また、「観光庁と連携した持続可能な指標検討」も当初は本事業からの意見として取りまとめ提示する想定であったが、当該検討は観光庁側の別事業として本事業に並走する形で実施されており、本事業で予定した専門家も観光庁側へ意見提示されていたことから、下記の実施をもって当該検討への提示は終了したものと認識する。

本事業における「観光庁と連携した持続可能な指標検討」に対する情報提供	
1.関係者への情報共有及び類似事業調査	GSTC ﾄﾚｰﾅｰ・(一社)JARTA 高山氏、㈱かまいし DMC 久保氏他による観光庁への意見提示(観光庁 持続可能な観光指標に関する検討会への出席)により、本事業では触れず
2.GSTC ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの実施	観光庁職員および観光庁事業受託者の GSTC ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ参加受入を持って実施したとみなす

(1) 事業の実施体制

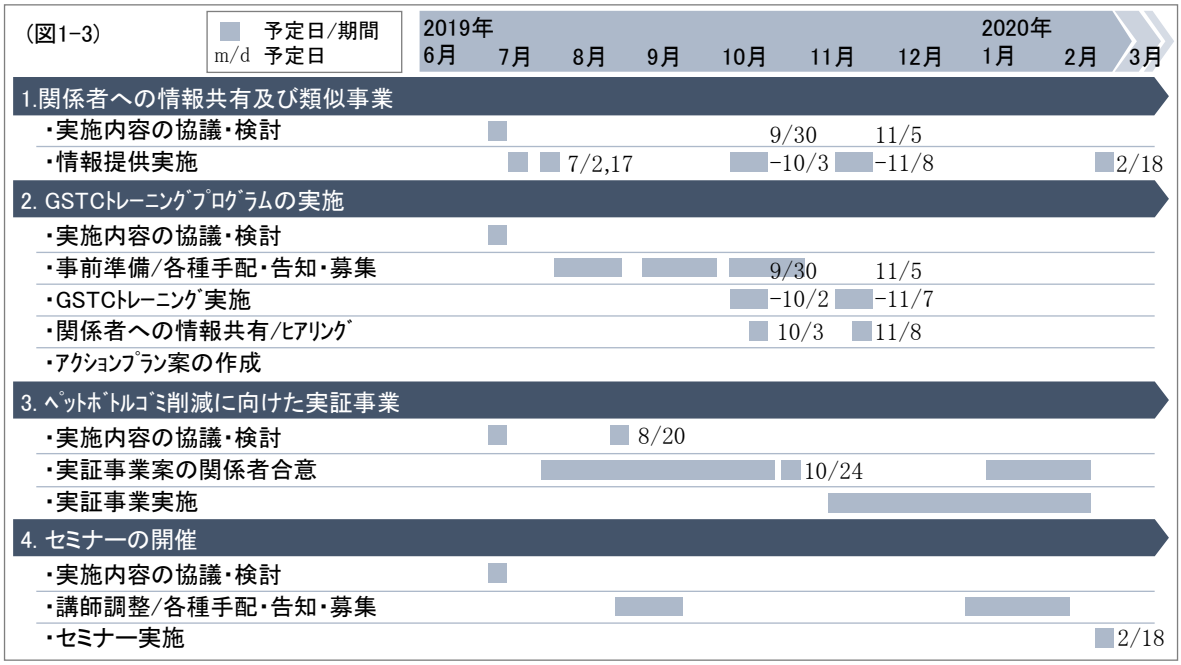
本事業の実施体制としては、企画提案時のとおり各事業を実施する為に必要な要件を整理し、適切な体制を考え、下記(図 1-2)のとおり実施した。



(2) 事業計画

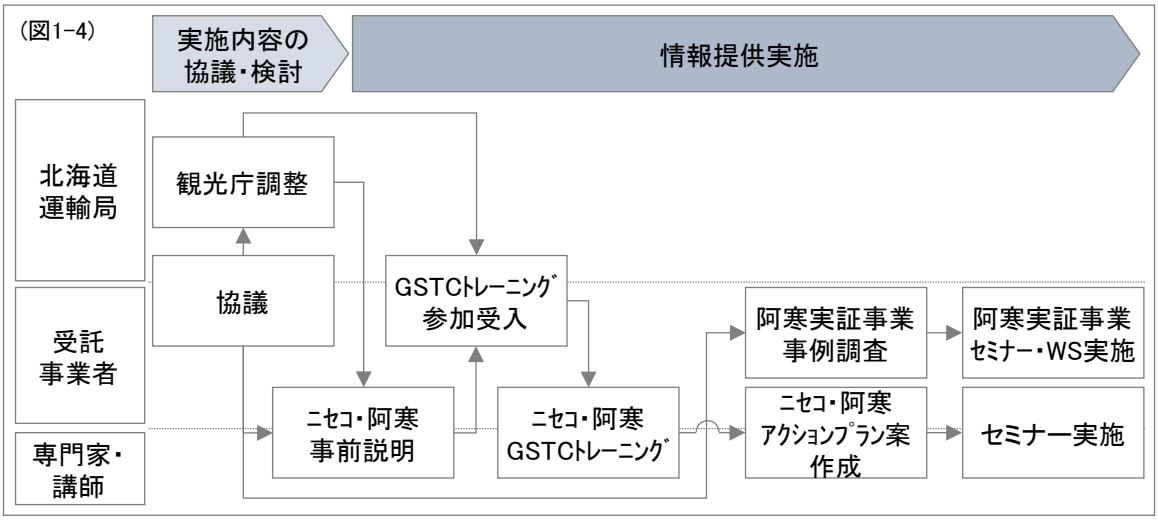
本事業を進めるにあたっては、下記(図 1-3)のスケジュールのもと、それぞれの実施プロセスのとおり計画し実行にあたった。

(図1-3)



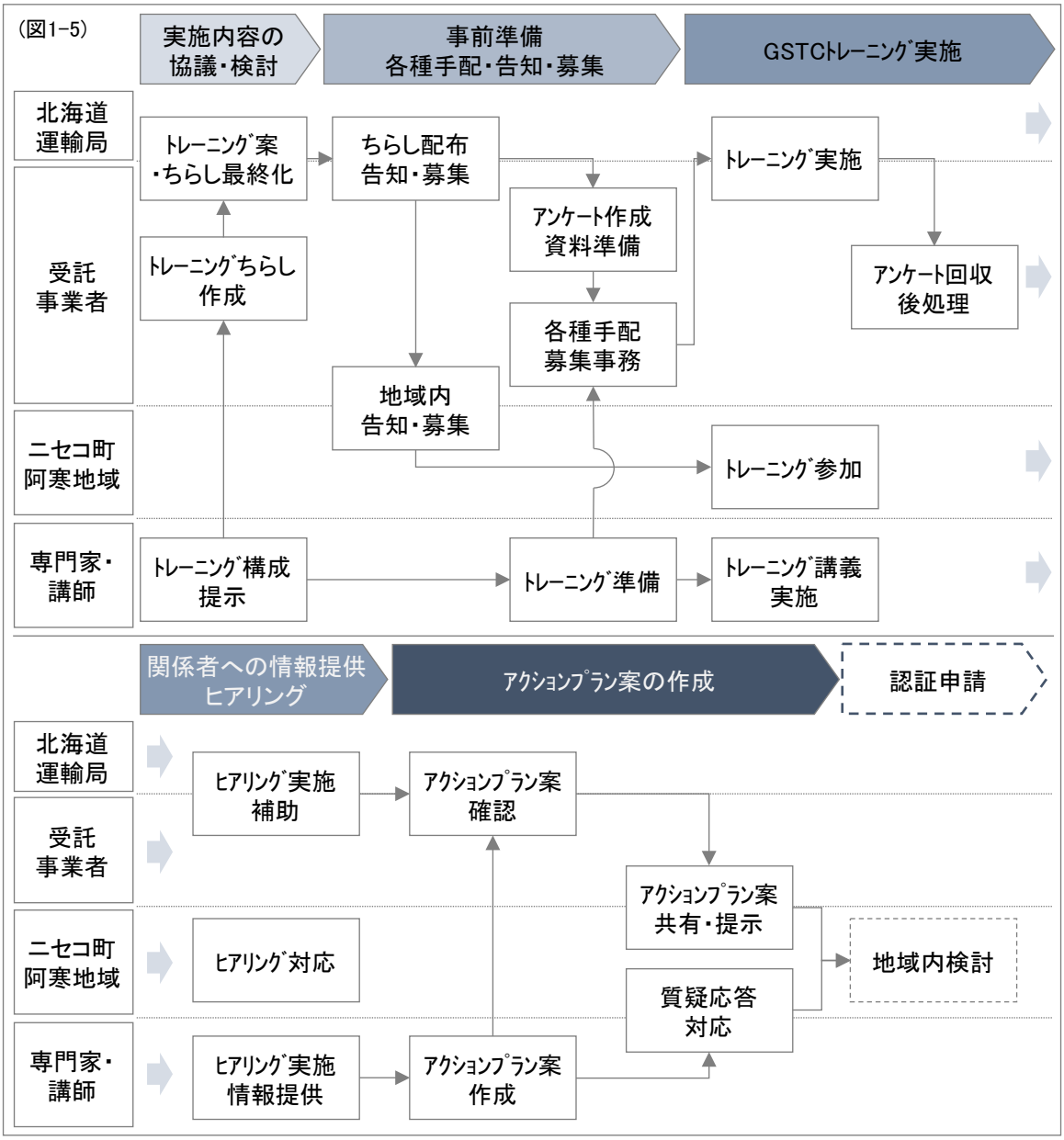
① 「1. 関係者への情報共有及び類似事業調査」の実施プロセスと計画内容

(図1-4)



情報提供の対象	提供内容
ニセコ町の関係者	・事業の事前説明の場(ニセコ町：令和元年 7/2、阿寒地域：7/17)にて、事業の背景説明とサスティナブルツーリズムの動向、国内の取り組み状況について説明を行う。 ・GSTC トレーニング・アクションプラン案作成時に必要に応じて説明を行う。(ニセコ町：9/30-10/3、阿寒湖温泉：11/5-11/8)
阿寒湖温泉の関係者	・ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業において地域内関係者に向けたセミナー・WS にて事例紹介として説明を行う。
道内地域・観光関係者等	・セミナー開催時(令和 2 年 2/18)において、講師による講演の他、質疑応答対応を行う。
観光庁が取り組む「持続可能な指標検討」の関係者	・観光庁職員および観光庁事業受託者について GSTC トレーニングでの参加受入を行い、トレーニングを通して必要な情報提供を行う。

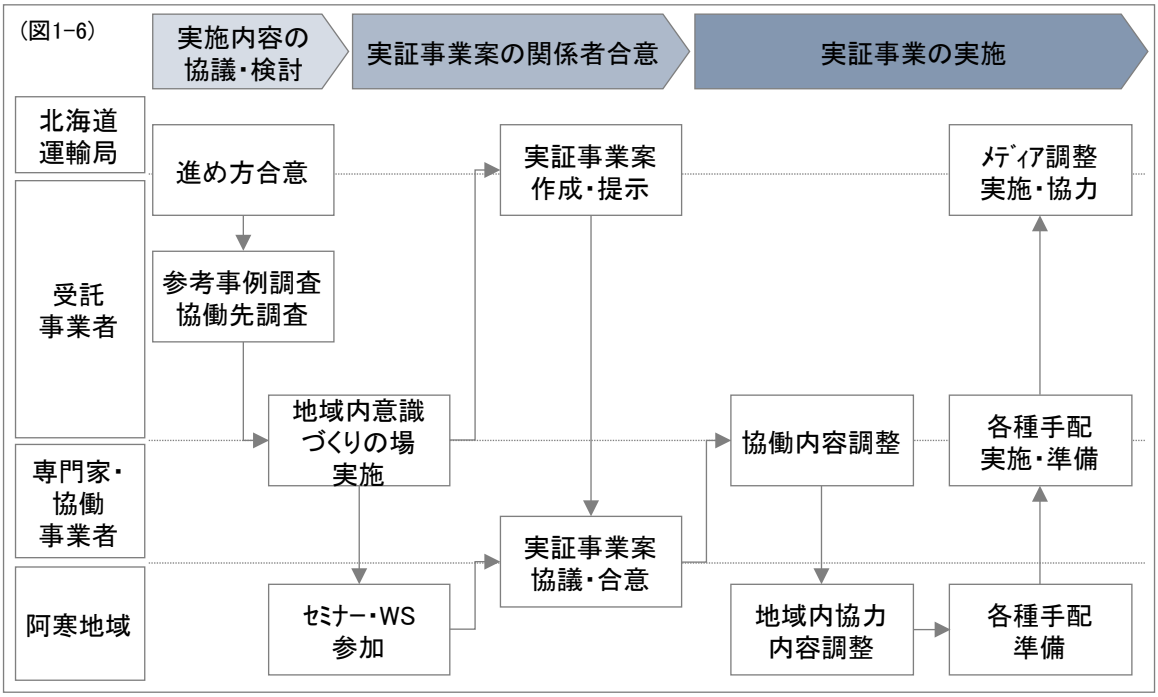
② 「2.GSTC トレーニングプログラムの実施」の実施プロセスと計画内容



実施地	GSTC トレーニングプログラムの内容
ニセコ町 阿寒湖温泉	・現時点の様々な国際基準と GSTC 基準について理解する。 ・認証機関ｸﾞﾘｰﾝ・ﾃﾞｨｽﾃｨﾈｰｼｮﾝｽﾞと認証の STEP について理解し、申請にあたり地域での具体的な行動定義と必要な証跡について理解する。 ・屋外ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸを通して、各地域や個人の取り組みにおいて持続可能性を担保する為に必要な行動について理解する。 ・GSTC ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを修了した後の試験制度について理解する。
実施地	認証に向けたアクションプラン案の作成
ニセコ町 阿寒湖温泉	・GSTC ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞにて理解を深めた後に、GSTC 基準の各項目(100 項目中の 30 項目)を満たす地域の取り組みについてヒアリングを行う。 ・地域の取り組み意欲によっては、具体的なｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ案への落とし込みを行うが、取り組み意欲が具体化していない場合は、汎用的なｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ案について提示する。 ・ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ案の作成前後において、本事業内にて各地域から GSTC 基準および申請ﾌﾛｰ等について相談を受けた場合は、専門家（GSTC 公認ﾄﾚｰﾅｰ）が情報提供を行う。

③ 「3.ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業」の実施プロセスと計画内容

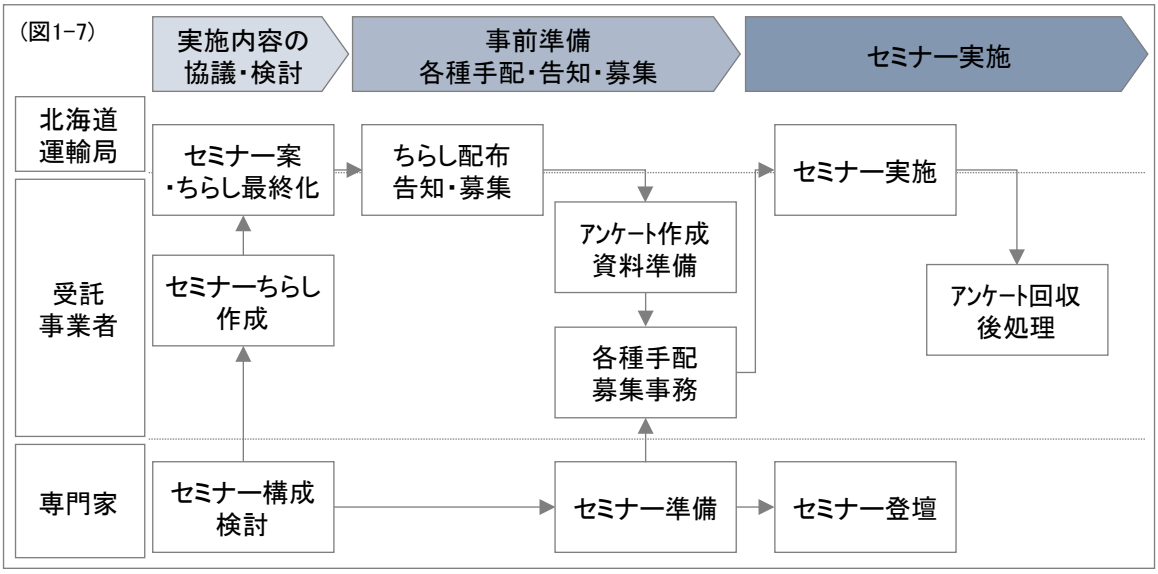
(図1-6)



対象	実証事業の実施において想定する役割
受託事業者	・実証事業の企画・関係各所との調整・実施内容の主導
釧路市 阿寒観光協会まちづくり推進機構	・実証内容に関わる地域内事業者、住民等への説明 （期待する役割：実証事業後も継続し地域内に取り組みを定着させる）
地域内事業者 住民等	・受託者が主導するｾﾐﾅｰ・WS への参加および実証内容の検討 ・実証内容の実施協力
協働先事業者等	・地域側の意向を踏まえ、受託者と合意した協働内容の実施協力
調査対象	参考事例調査・協働先調査の内容
参考事例調査	・給水スポットの取り組み(奈良県生駒市等)や給水スポット MAP を展開する取り組みの調査を行う。 ・ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ削減、ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙｺﾞﾐのﾘｻｲｸﾙに関する取り組みの調査を行う。
協働先調査	・地域と親和性の高いﾏｲﾎﾞﾄﾙ関連の取り組みを行う事業者の調査を行う。 ・ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ飲料の販売等、製品の提供事業者のうち、阿寒湖温泉に関連性があり、CSR や SDGs の観点から利害が一致する事業者の調査を行う。
合意対象	実証事業案の関係者合意の内容
釧路市 阿寒観光協会まちづくり推進機構	・実証事業について、一過性の取り組みとしない為に本事業をきっかけに DMO と行政が連携して継続的な取り組みが進められるよう、受託者と協働して役割分担の上、事業推進していくことについて合意する。（地域内事業者、個人等への案内や地域内合意を得る事等）
地域内事業者 住民等	・地域内意識づくりの場として設定するｾﾐﾅｰ・WS にて本実証事業に取り組む事の必要性の理解と実証事業を進めていくことでどういう地域を目指せるのか等、実証事業をきっかけとした地域の将来像について合意する。 ・地域内事業者の利害に配慮しつつ、最初のｽﾀｰﾄとして着手可能な実施内容について協議の上、合意する。
協働先事業者等	・実証事業について、協働する内容が地域と協働先の相互にメリットがあるかどうかについて検討し合意する。 ・協働する内容が実証事業として一過性の取り組みに留まらず、継続的に実施できる内容かどうかについて検討し合意する。

④ 「4. セミナーの実施」

(図1-7)



受講対象	セミナーの目的	
観光振興に関わるDMO、道内行政および事業者・個人等	(1)「持続可能な観光の推進」や「国際的な観光指標の導入」の必要性について理解を深め、取り組みへの意欲向上を目指す (2)GSTC 認証の国内先進事例（㈱かまいし DMC）や本事業（ニセコ町、阿寒湖温泉）の先行事例から取り組み内容や成果について理解を深め、より具体的な各自の取り組み意欲向上を目指す (3)道内における現状取り組み意識の把握と地域等が必要としている情報・支援策の把握	
目的	セミナーでの構成	講師想定
(1)必要性の理解	「持続可能な観光の推進」について専門的知見や経験値を保有する講師による講演	(一社)JARTA 代表理事 GSTC 公認ﾄﾚｰﾅｰ 観光庁 持続可能な観光指標に関する検討会参画 高山 傑氏
(1)必要性の理解 (2)取り組み意欲の向上	講師陣によるパネルディスカッションと質疑応答	①（所属等上記に同じ） 高山 傑氏 ②GSTC 公認ﾄﾚｰﾅｰ NPO 法人大雪山自然学校代表理事 荒井 一洋氏 ③㈱かまいし DMC 久保 竜太氏 ※ﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ：㈱北海道宝島旅行社 鈴木 宏一郎氏
(2)取り組み意欲の向上	GSTC 認証の国内先進事例（㈱かまいし DMC）での取り組みの経緯、GSTC 認証までの歩みと今後に向けての意欲等、実践者による講演	（所属等上記に同じ） 久保 竜太氏
(3)道内の現状把握	終了後アンケートにて実施	

２．関係者への情報共有及び類似事業調査

関係者への情報共有及び類似事業調査においては、前述の事業計画「①「1.関係者への情報共有及び類似事業調査」の実施プロセスと計画内容」のとおりニセコ町・阿寒湖温泉の関係者、道内地域・観光関係者等、観光庁が取り組む「持続可能な指標検討」の関係者に対し、それぞれ以下の形式にて情報共有を実施した。

情報提供の対象	情報提供の内容	情報提供の方法
ニセコ町・阿寒地域	事業の背景説明とｻｽﾃｨﾅﾌﾞﾙﾂｰﾘｽﾞﾑの動向、国内の取り組み状況	各地域での事業の事前説明会
	GSTC ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ・ｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ案作成時に各地域で必要とする情報	(※1)GSTC ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞおよびｱｸｼｮﾝﾌﾟﾗﾝ案作成の為のﾋｱﾘﾝｸﾞ
阿寒地域	ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙｺﾞﾐ削減にむけた実証事業の為の事例紹介	(※1)実証事業検討の為の事前説明
道内地域・観光関係者等	持続可能な観光の推進に向けて、必要とする情報	(※1)セミナーにおける質疑応答
観光庁が取り組む「持続可能な指標検討」の関係者	持続可能な指標検討に必要な情報提供	(※1)GSTC ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞでの参加受入

(※1)各事業において実施している為、以下に詳細は記載せず

＜各地域での事業の事前説明会＞

ニセコ町､阿寒地域にて本事業で実施する GSTC トレーニングの実施やアクションプラン案作成に向けて下記の日程で事前説明会を行ったが、この場にて事業の背景とサスティナブルツーリズムの動向、国内の取り組み状況について GSTC 公認ﾄﾚｰﾅｰの荒井氏より情報提供を実施した。

(参考資料：[00_事前説明資料]参照)

事前説明実施日	事前説明実施場所	事前説明の対象
令和元年 7 月 2 日(火) 13:00-15:00	ニセコ町役場 2F 会議室	ニセコ町 商工観光課
令和元年 7 月 17 日(水)	阿寒湖まりむ館 2F 会議室	釧路市 阿寒観光振興課 釧路市 上下水道部経営企画課 釧路市 産業振興部観光振興室 NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構 阿寒摩周国立公園管理事務所 鶴雅リゾート㈱アドベンチャー事業部

以下に講師が提供した情報について転載する。

「持続可能な観光」の必要性について
・観光業が世界的に伸びており（年率 4～6%、国際線旅客数 13 億人等)、観光は世界経済的にも重要。 ・観光は資源を消費するのではなく「観る・体験する」等で経済を動かすことから持続可能なはずだった。 ・一方、オーバーツーリズムをはじめとする環境・文化・経済への悪影響も見え始めている。 ・そこで、持続可能な観光を定義し、その理想像達成に向けた具体的な活動のためのガイドラインを作成し、推進することになったのが、“Global Sustainable Tourism Council” 「持続可能な観光推進協議会」である。

「持続可能な観光の国際認証」について
・欧米では、持続可能な観光への関心が高まり、消費者もそうした旅行を選び始めている。 ・消費者が持続可能な観光を選べるように、認証制度が 200 個ほどできた。(Green Wash) ・Green Wash を防ぐために、国連等が「GSTC 国際認証」を作った。GSTC は、持続可能な観光の認証制度を認証する組織である。GSTC が直接、地域やホテルやツアー会社を認証することはない。
持続可能な観光地になるとお客は増えるの？
・「お客は簡単には増えません。しかし、持続可能でないとお客は来ません」 ・トリップアドバイザー利用者の 1/3 が環境配慮のある観光地を選んでいる ・法人旅行企画協会に加盟する旅行企画会社は、「グリーンビジネストラベルガイドライン」の実践のために年間 1000 万ドルをかけている。 ・上記のように、マーケットが持続可能な観光を選び始めてはいる。 ・裏を返せば、持続可能な観光ではない所には、旅行会社は人を送れない、消費者も行く訳にはいかない。なぜなら、その行為が観光地の破壊に加担することになるから。
世界の動き
・オーバーツーリズム(クルーズ船と停泊地での観光、AirB&B による家賃高騰) ・持続可能な観光基準を採用する自然の多い観光地(アゾレス諸島、アイスランド) ・Adventure Travel Trade Association の課題は、どのように AT=ST を作るか ・DASTA(Designated Areas for Sustainable Tourism Administration)持続的観光特別地域開発管理機構が設置され、Royal Project として様々な観光政策を実行。 ・使い捨てペットボトルの禁止、プラスチック製品の排除の加速
日本国内の動き
・SDGs の認知度が高まり、観光分野における具体的なアクションとして GSTC が注目を浴びている。 ・NPO 日本エコツーリズムセンターが 2014 年から GSTC の翻訳は国際会議への出席を始めた。 ・2018 年 6 月に観光庁に持続可能な観光の推進本部が設置され、観光業界が動き始めた。 ・2018 年に GSTC 認証を受けた Green Destination という認証団体の基準の日本語訳が出来たことで、日本でも「観光地」として、持続可能な観光の国際認証を取れる環境が整った。 ・2019 年に GSTC 認証を受けた Travelife という認証団体の基準が日本語訳される予定。これにより、日本でも「ツアーオペレーター」や「ホテル」などの組織として、国際認証を取れる環境が整う。
日本国内における取組事例
＜秋田県仙北市＞ ・平成 29 年 2 月に持続可能な観光を目指す「仙北市宣言」 ＜岩手県釜石市＞ ・平成 29 年 3 月発行の釜石市観光振興ビジョンに GSTC が明記され、その年に“Green DestinationTop100“に選ばれた。 ・平成 30 年には三陸ジオパークと合わせて持続可能な観光のキックオフミーティングを開催。 ＜島原半島(島原市・南島原市・雲仙市)＞ ・ 平成 29 年 11 月「持続可能な観光地域づくり宣言」 ＜オホーツク総合振興局(保健環境部環境生活課 知床分室) ＞ ・平成 31 年 1 月に持続可能な観光に関する勉強会を斜里町と網走市にて実施。

３．GSTC トレーニングプログラムの実施

GSTC トレーニングプログラムの実施においては、ニセコ町・阿寒地域（阿寒湖温泉）での本事業の事前説明の場にて GSTC トレーニング実施およびアクションプラン案の作成までの流れが「持続可能な観光地域づくり」に向けてどういう位置づけとなるのかを説明し、GSTC トレーニングの実施と、認証取得に向けたアクションプラン案を作成した。

(1) ニセコ・阿寒における GSTC トレーニングプログラムの実施

① GSTC トレーニングプログラムの構成と申込状況

ニセコ町・阿寒地域（阿寒湖温泉）での GSTC トレーニングプログラムの構成については、それぞれ下記の構成で実施した。

GSTC ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの主な受講対象者	ニセコ町・阿寒地域および周辺にて観光振興に関わる DMO、観光地域づくり団体、行政、宿泊事業者、滞在ｻｰﾋﾞｽ提供事業者、商工業および商工団体等			
定員	20 名			
対応講師	GSTC 公認ﾄﾚｰﾅｰ　荒井　一洋氏			
日程	実施内容	地域	実施日	実施場所
1 日目 13:00 ～18:00	①オリエンテーションおよび座学トレーニング ・GSTC とは ・GSTC-観光地域用 「観光地」における持続可能な観光の基準と指標を学ぶ	ニセコ町	令和元年 9 月 30 日 （月）	ニセコ町民センター
		阿寒地域	令和元年 11 月 5 日 （火）	阿寒湖まりむ館
2 日目 9:00 ～17:00	①座学トレーニング ・GSTC-観光事業者用 宿泊業、旅客業、小売業、ガイド業、農業など、観光に関わる全ての事業者における、持続可能な観光の基準と指標を学ぶ ②屋外トレーニング	ニセコ町	令和元年 10 月 1 日 （火）	ﾗｲｵﾝｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰ
		阿寒地域	令和元年 11 月 6 日 （水）	阿寒湖まりむ館 鶴雅ｸﾞﾙｰﾌﾟ（SIRI）
3 日目 9:00 ～17:00	①屋外フィールドワーク ※2,3 日目のフィールドワークでは現地を訪ね、GSTC の基準をどのように活用できるかを学ぶ	ニセコ町	令和元年 10 月 2 日 （水）	神仙沼 道の駅ﾆｾｺﾋﾞｭｰﾌﾟﾗｻﾞ
		阿寒地域	令和元年 11 月 7 日 （木）	阿寒湖畔ｴｺﾐｭｰｼﾞｱﾑｾﾝﾀｰ ｱｲﾇｺﾀﾝ ｱｲﾇｼｱﾀｰ「ｲｺﾛ」

GSTC トレーニングの参加者募集については、下記の方法で告知・募集を実施した。

実施区分	ニセコ町	阿寒地域
ちらし配布	・ニセコ町および周辺事業者へのメール送付と訪問説明 ・協力行政（ニセコ町）および観光協会からの町内関係者への案内	・阿寒地域および周辺事業者へのメール送付と電話説明 ・DMO からの町内関係者への案内
SNS での案内	・受託者および講師の Facebook アカウントからの情報発信	
個別声掛け	・各地域内および周辺地域にて活動する受講対象者に対し、電話・メール・SNS メッセージ等での個別案内	

上記の他、北海道運輸局による北海道、全市町村通知及びプレスリリースを実施し、受講者

を募った。

告知・募集時の案内チラシは A4 サイズ両面の形式で下記の様式とした。

＜ニセコ町での告知・募集ちらし＞


観光事業関係者様必見！

日本のスタンダードはニセコから！
全国に先駆けて持続可能な観光を学ぶ！

GSTC Sustainable Tourism Training Program
受講者募集

修了者にはAsian Ecotourism Networkと日本エコツーリズムセンターから修了証を授与！

世界中で着実に広がるSDGsへの理解。持続可能な観光を学び、選ばれる観光地へ。
日本のサステイナブル・ツーリズムは国際観光地ニセコから進めていきましょう！

国連「持続可能な開発目標（SDGs=Sustainable Development Goals）」は2016年から2030年までの世界全体の開発目標です。これは観光においても例外ではなく、2017年が国連「開発のための持続可能な観光の国際年」に指定されるなど、現在「サステイナビリティ（持続可能性）」が世界共通のキーワードとなっています。

特定の場所に人が集中し過度な環境負荷がかかる、地域本来の持つ魅力を伝えきれない、大量の通過型のスポットとなりごみだけが残される、いわゆる消費収奪型の観光となるなど、これまで地域の持続可能性を損なう観光が問題になってきました。地域の文化や歴史遺産、自然環境を守りながら観光の質を保ちつつ、教育・福祉・コミュニティの活性化などの課題とつなげ、観光を手法に地域づくりに貢献することが重要と考えらます。

「サステイナブル・ツーリズム国際認証」は、国連が進める観光での持続可能性を指標化したものです。なにをもってサステイナブルとするか、具体的にどんな活動が伴うのかを、世界基準のチェック項目で示しています。国際年を機に今後求められる「持続可能な観光地域づくり」とは何か、どう取り組んでいくかを考えていきます。

2019年9月30日(月)～10月2日(水)

会　場　ニセコ町民センター　ニセコ町字富士見９５
※3日間通してのご参加が難しい方は、1日目2日目のみのご参加もお受けしております。
※修了証の授与は3日間ご参加の方のみとなります。

主催　北海道運輸局

共催　Asian Ecotourism Network / NPO法人日本エコツーリズムセンター
※NPO法人日本エコツーリズムセンターはAsian Ecotourism Networkの日本サテライトオフィスです。

講　師　荒井　一洋 氏（GSTC公認トレーナー・Asian Ecotourism Network理事・日本エコツーリズムセンター理事）

参加費　無料

定員　20名(先着)

お問い合わせ　株式会社 北海道宝島旅行社
TEL：011-252-2115（担当：満保）
E-mail:mambo@hokkaido-takarajima.com


■サステイナブル・ツーリズム国際認証とは■

2008年、国際自然保護連合「第5回世界自然保護会議」において、世界初のサステイナブル・ツーリズム（持続可能な旅行形態）のための基準「世界規模での持続可能な観光クライテリア（GSTCクライテリア）」が発表され、世界中でGSTC（※）が定める国際基準を満たす認証制度づくりが進んでいます。日本国内では、こうした認証・認定制度が普及しておらず、各地で「エコ」や「ほんもの」の名を利用して集客・実施される観光形態は、消費者の混同を招くだけでなく、取り組み内容や提供するツアーの質を見極める事は難しいのが現状です。
NPO日本エコツーリズムセンターでは、国際基準であるGSTCクライテリアを満たす認証制度づくりに取り組んでいます。
（※）GSTC=Global Sustainable Tourism Council(グローバル・サステイナブル・ツーリズム協議会)

GSTCトレーニングプログラム　スケジュール

9月30日（月）	12:30	受付開始
	13:00	トレーニング開始（座学） ・GSTCとは ・GSTC-観光地域用 *「観光地」における持続可能な観光の基準と指標を学びます。
	18:00	終了
10月1日（火）	9:00	トレーニング開始（座学） ・GSTC-観光事業者用 ＊宿泊業、旅客業、小売業、ガイド業、農業など、観光に関わる全ての事業者における、持続可能な観光の基準と指標を学びます。
	17:00	終了
10月2日（水）	9:00	トレーニング開始（フィールドワーク） ・現地を訪ね、GSTCの基準をどのように活用できるか、を学びます。
	17:00	閉会挨拶

講師：荒井　一洋 氏
（GSTC公認トレーナー・Asian Ecotourism Network理事・日本エコツーリズムセンター理事）
1977 年生まれ。札幌市出身。ニュージーランド・Lincoln University・Bachelor of Parks, Recreation, Tourism Management(国立公園管理と自然保全専攻) を 2000 年に卒業。2010 年、北海道大学大学院・観光創造専攻修士課程にて「エコツアーのコスト構造とシャドーワーク」について研究。北海道東川町に移住し、2001 年に「大雪山自然学校」を設立し、2015 年に NPO 法人化。GSTC国際認証公認トレーナーとしても、秋田県仙北市、長崎県島原半島、北海道東川町でGSTC研修を実施。

参加申込書（株式会社 北海道宝島旅行社/担当:満保宛）

申込締切：9月20日（金）

お一人様1枚、下記、申込書に必要事項を記入のうえ、FAXかメールにてお申込みください。なお、こちらからの折り返しの連絡をもって申込完了とさせていただきますので、必ず電話番号かメールアドレスをご記入ください。
9月20日の締切前に連絡がない場合はお手数ですが、お問合せをお願いします。

FAX　011－252－2117　E-mail　mambo@hokkaido-takarajima.com

フリガナ お名前	会社名／ 所属団体名
〒 住所	
TEL	メール アドレス

＜阿寒地域での告知・募集ちらし＞


観光事業関係者様必見！

全国に先駆けて持続可能な観光を学ぶ！

GSTC Sustainable Tourism Training Program
受講者募集

修了者にはAsian Ecotourism Networkと日本エコツーリズムセンターから修了証を授与！

世界中で着実に広がるSDGsへの理解。持続可能な観光を学び、選ばれる観光地へ。
国際リゾート地「阿寒湖温泉」から日本のサステイナブル・ツーリズムを進めていきましょう！

国連「持続可能な開発目標（SDGs=Sustainable Development Goals）」は2016年から2030年までの世界全体の開発目標です。これは観光においても例外ではなく、2017年が国連「開発のための持続可能な観光の国際年」に指定されるなど、現在「サステイナビリティ（持続可能性）」が世界共通のキーワードとなっています。

特定の場所に人が集中し過度な環境負荷がかかる、地域本来の持つ魅力を伝えきれない、大量の通過型のスポットとなりごみだけが残される、いわゆる消費収奪型の観光となるなど、これまで地域の持続可能性を損なう観光が問題になってきました。地域の文化や歴史遺産、自然環境を守りながら観光の質を保ちつつ、教育・福祉・コミュニティの活性化などの課題とつなげ、観光を手法に地域づくりに貢献することが重要と考えらます。

「サステイナブル・ツーリズム国際認証」は、国連が進める観光での持続可能性を指標化したものです。なにをもってサステイナブルとするか、具体的にどんな活動が伴うのかを、世界基準のチェック項目で示しています。国際年を機に今後求められる「持続可能な観光地域づくり」とは何か、どう取り組んでいくかを考えていきます。

2019年11月5日(火)～11月7日(木)

会　場　阿寒湖まりむ館　阿寒町阿寒湖温泉２丁目６－２０
※3日間通してのご参加が難しい方は、1日目2日目のみのご参加もお受けしております。
※修了証の授与は3日間ご参加の方のみとなります。

主催　北海道運輸局

共催　Asian Ecotourism Network / NPO法人日本エコツーリズムセンター
※NPO法人日本エコツーリズムセンターはAsian Ecotourism Networkの日本サテライトオフィスです。

講　師　荒井　一洋 氏（GSTC公認トレーナー・Asian Ecotourism Network理事・日本エコツーリズムセンター理事）

参加費　無料

定員　20名(先着)

お問い合わせ　株式会社 北海道宝島旅行社
TEL：011-252-2115（担当：満保）
E-mail:mambo@hokkaido-takarajima.com


■サステイナブル・ツーリズム国際認証とは■

2008年、国際自然保護連合「第5回世界自然保護会議」において、世界初のサステイナブル・ツーリズム（持続可能な旅行形態）のための基準「世界規模での持続可能な観光クライテリア（GSTCクライテリア）」が発表され、世界中でGSTC（※）が定める国際基準を満たす認証制度づくりが進んでいます。日本国内では、こうした認証・認定制度が普及しておらず、各地で「エコ」や「ほんもの」の名を利用して集客・実施される観光形態は、消費者の混同を招くだけでなく、取り組み内容や提供するツアーの質を見極める事は難しいのが現状です。
NPO日本エコツーリズムセンターでは、国際基準であるGSTCクライテリアを満たす認証制度づくりに取り組んでいます。
（※）GSTC=Global Sustainable Tourism Council(グローバル・サステイナブル・ツーリズム協議会)

GSTCトレーニングプログラム　スケジュール

11月5日（火）	12:30	受付開始
	13:00	トレーニング開始（座学） ・GSTCとは ・GSTC-観光地域用 *「観光地」における持続可能な観光の基準と指標を学びます。
	18:00	終了
11月6日（水）	9:00	トレーニング開始（座学） ・GSTC-観光事業者用 ＊宿泊業、旅客業、小売業、ガイド業、農業など、観光に関わる全ての事業者における、持続可能な観光の基準と指標を学びます。
	17:00	終了
11月7日（木）	9:00	トレーニング開始（フィールドワーク） ・現地を訪ね、GSTCの基準をどのように活用できるか、を学びます。
	17:00	閉会挨拶

講師：荒井　一洋 氏
（GSTC公認トレーナー・Asian Ecotourism Network理事・日本エコツーリズムセンター理事）
1977 年生まれ。札幌市出身。ニュージーランド・Lincoln University・Bachelor of Parks, Recreation, Tourism Management(国立公園管理と自然保全専攻) を 2000 年に卒業。2010 年、北海道大学大学院・観光創造専攻修士課程にて「エコツアーのコスト構造とシャドーワーク」について研究。北海道東川町に移住し、2001 年に「大雪山自然学校」を設立し、2015 年に NPO 法人化。GSTC国際認証公認トレーナーとしても、秋田県仙北市、長崎県島原半島、北海道東川町でGSTC研修を実施。

参加申込書（株式会社 北海道宝島旅行社/担当:満保宛）

申込締切：10月31日（木）

お一人様1枚、下記、申込書に必要事項を記入のうえ、FAXかメールにてお申込みください。なお、こちらからの折り返しの連絡をもって申込完了とさせていただきますので、必ず電話番号かメールアドレスをご記入ください。
10月31日の締切前に連絡がない場合はお手数ですが、お問合せをお願いします。

FAX　011－252－2117　E-mail　mambo@hokkaido-takarajima.com

フリガナ お名前	会社名／ 所属団体名
〒 住所	
TEL	メール アドレス

尚、上記は募集時の構成となっており、実際の座学・屋外トレーニングの時間配分について

は、屋外トレーニング時の最適性を考慮し、前後の入れ替え等を行っている。
GSTC トレーニングは、上記のとおり定員を各地域 20 名としたが、情報共有目的およびオブザーバー的参加を含め、参加予定者は下記のとおりとなった。

ア．ニセコ町での開催日程（9/30～10/2）での参加予定者

（以下単位：人）

所属区分	所属	参加予定者
DMO・観光協会等	㈱ニセコリゾート観光協会	3
	(一社)倶知安観光協会	1
	(一社)黒松内観光協会	1
観光行政等	ニセコ町役場（※ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ参加）	2
	倶知安町役場	2
	共和町役場	1
	観光庁（※情報共有参加）	2
	北海道運輸局（※主催：ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ参加）	2
観光事業者等	ヒルトンニセコビレッジ	2
	ニセコワイス観光㈱ ホワイトアイル	1
	HTM㈱	1
	Sotoasobu	1
	黒松内ぶなの森自然学校	1
	三田農林(㈱三田牧場	1
	㈱JTB 総合研究所（※情報共有参加）	1
その他団体等	北海道庁　滝川保健所	1
	参加予定者数　計	23

イ．阿寒湖温泉での開催日程（11/5～11/7）での参加予定者

（以下単位：人）

所属区分	所属	参加予定者
DMO・観光協会等	NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構	3
	(一社)釧路観光コンベンション協会	1
	(一社)摩周湖観光協会	1
観光行政等	釧路市役所	2
	弟子屈町役場	2
	環境省 阿寒摩周国立公園管理事務所	2
	釧路運輸支局（※ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ参加）	1
	北海道運輸局（※主催：ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ参加）	2
観光事業者等	ノースイーストカヌーセンター	1
	Matatabi（マタタビ）	2
	阿寒ネイチャーセンター	1
	てしかが自然学校	1
その他団体等	てしかがえこまち推進協議会	1
	参加予定者数　計	20

② GSTC トレーニングプログラム実施の様子

GSTC トレーニングプログラムは、修了認定の条件として全日程について参加したこととしている。3 日間の日程の全てまたはいずれかへの参加者数、全ての日程に参加した修了者数は下記のとおりとなった。また、各地域でのトレーニングの様子についても以降に記載する。

ア. ニセコ町での開催日程（9/30～10/2）での参加者および修了状況

ニセコ町での開催においては、参加率が 95.7%となり、修了率は 54.5%となった。

（以下単位：人）

所属区分	所属	参加者数	修了者数
DMO・観光協会等	㈱ニセコリゾート観光協会	3	-
	(一社)倶知安観光協会	1	-
	(一社)黒松内観光協会	1	1
観光行政等	ニセコ町役場（※ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ参加）	1	-
	倶知安町役場	2	-
	共和町役場	1	1
	観光庁（※情報共有参加）	2	2
	北海道運輸局	1	1
観光事業者等	ヒルトンニセコビレッジ	2	1
	ニセコワイス観光㈱ ホワイトアイル	1	1
	HTM㈱	1	-
	Sotoasobu	1	1
	黒松内ぶなの森自然学校	1	1
	三田農林(㈱三田牧場	1	1
	㈱JTB 総合研究所（※情報共有参加）	1	1
その他団体等	北海道庁　滝川保健所	1	1
参加者数および修了者数　計		21	12
参加者数/参加予定数=参加率：91.3%	修了者数/参加者数=修了率：57.1%		

イ. 阿寒地域での開催日程（11/5～11/7）での参加者および修了状況

阿寒地域での開催においては、参加率が 100.0%となり、修了率は 70.0%となった。

（以下単位：人）

所属区分	所属	参加者数	修了者数
DMO・観光協会等	NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構	3	2
	(一社)釧路観光コンベンション協会	1	-
	(一社)摩周湖観光協会	1	1
観光行政等	釧路市役所	2	-
	弟子屈町役場	2	2
	環境省 阿寒摩周国立公園管理事務所	2	2
	釧路運輸支局（※ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ参加）	1	-
	北海道運輸局（※主催：ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ参加）	2	2
観光事業者等	ノースイーストカヌーセンター	1	1
	Matatabi（マタタビ）	2	2
	阿寒ネイチャーセンター	1	1
	てしかが自然学校	1	1
その他団体等	てしかがえこまち推進協議会	1	-
参加者数および修了者数　計		20	14
参加者数/参加予定数=参加率：100.0%	修了者数/参加者数=修了率：70.0%		

ウ．ニセコ町における GSTC トレーニングプログラムの様子

ニセコ町では、屋外トレーニングについて、ライオンアドベンチャー、道の駅ニセコビュープラザの協力を得て実施した為、概要として記載した募集時とは異なり下記のスケジュールで実施した。

日程		実施内容
1 日目	13:00～18:00	座学トレーニング（ニセコ町民センター）
2 日目	9:00～12:00	座学トレーニング（ニセコ町民センター）
	13:00～17:00	屋外トレーニング（ライオンアドベンチャー訪問）
3 日目	9:00～12:00	屋外トレーニング（神仙沼、道の駅ニセコビュープラザ訪問）
	13:00～17:00	座学トレーニング（ニセコ町民センター）

以下に 3 日間のトレーニングの様子を記載する。

（1 日目：座学トレーニング（ニセコ町民センター））




（2 日目：座学トレーニング（ニセコ町民センター）




（2 日目：屋外トレーニング（ﾗｲｵﾝｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰ））








（3 日目：屋外トレーニング（神仙沼・道の駅ﾆｾｺﾋﾞｭｰﾌﾟﾗｻﾞ）


















（3 日目：座学トレーニング（ニセコ町民センター））




エ．阿寒湖温泉における GSTC トレーニングプログラムの実施の様子

阿寒地域では、屋外トレーニングについて、鶴雅グループ（SIRI）、阿寒湖畔エコミュージアムセンター、アイヌコタン、アイヌシアター「イコロ」の協力を得て実施した為、概要として記載した募集時とは異なり下記のスケジュールで実施した。

日程		実施内容
1 日目	13:00～18:00	座学トレーニング（阿寒湖まりむ館））
2 日目	9:00～12:00	座学トレーニング（阿寒湖まりむ館）
	13:00～17:00	屋外トレーニング（鶴雅グループ（SIRI） 訪問）
3 日目	9:00～12:00	屋外トレーニング（阿寒湖畔ｴｺﾐｭｰｼﾞｱﾑｾﾝﾀｰ，ｱｲﾇｺﾀﾝ，ｱｲﾇｼｱﾀｰ「ｲｺﾛ」訪問）
	13:00～17:00	座学トレーニング（阿寒湖まりむ館）

以下に 3 日間のトレーニングの様子を記載する。

（1 日目：座学トレーニング（阿寒湖まりむ館））

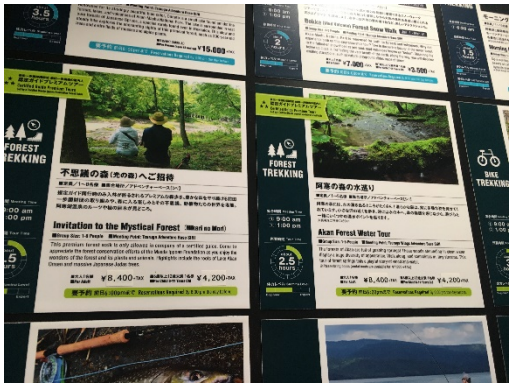





（2 日目：座学トレーニング（阿寒湖まりむ館））




（2 日目：屋外トレーニング（鶴雅ｸﾞﾙｰﾌﾟ（SIRI）））









（3 日目：屋外トレーニング（阿寒湖畔ｴｺﾐｭｰｼﾞｱﾑｾﾝﾀｰ, ｱｲﾇｺﾀﾝ, ｱｲﾇｼｱﾀｰ「ｲｺﾛ」））














（3 日目：座学トレーニング（阿寒湖まりむ館））




ニセコ町、阿寒湖温泉のいずれも座学トレーニングでは、オリエンテーションに始まり、講師による講義およびグループワークを取り入れた形式で講義が進められた。講義では現時点における国際基準の現状や、その 1 つである GSTC が定める国際基準の位置づけや基準の各項目について学び、実際に GSTC 基準を満たす取り組みを行う地域に対して認証を行う機関であるグリーン・ディスティネーションズの取り組みについても理解を深めた。グループワークでは、GSTC 基準を踏まえ参加者同士で自らの取り組みに照らし合わせて「持続可能な観光地域づくり」の在り方について話し合う場も設けられ、参加者それぞれが「自分事」として考えることができた。2 日目と 3 日目に構成された屋外トレーニングでは、フィールドワークを通して地域資源や地域で展開されている取り組みが GSTC 基準に照らし合わせた時にどのようにあるべきかを考えることができた。

③ GSTC トレーニングプログラムのアンケート結果

GSTC トレーニングプログラムの参加者を対象に下記の様式にてアンケートを実施した。アンケートは全日程参加および日程のいずれかに参加した人を対象に実施した。

＜GSTC トレーニングプログラムのアンケート様式＞※下記はニセコの例 阿寒湖温泉も同様式

北海道運輸局事業　国際的な観光指標の導入を踏まえた持続可能な観光の推進に関する実証事業
GSTC トレーニング受講アンケート　　令和元年 9 月 30 日～10 月 2 日
受託：㈱北海道宝島旅行社

1．ご所属等

ご所属名：	お名前：

2．「持続可能な観光の推進」「観光振興」におけるお立場（主として該当する数字に○をつけてください）

1．DMO や観光協会にて主体的に関わりがある　2．宿泊事業者として関わりがある
3．道の駅や特産品、土産品等、販売事業者として関わりがある　4．行政として関わりがある
5．ガイド等、滞在サービス事業者として関わりがある　6．ツアー造成等、旅行代理店として関わりがある
7．地域商工団体・組合等として関わりがある　8．地域住民として関わりがある
9．その他（　　）

3．今回の参加日程（参加された日程について該当する数字にすべて○をつけてください）

1．9/30（1 日目）　2．10/2（2 日目）　3．10/3（3 日目）

4．今回のトレーニングを知ったきっかけ

1．地域の行政や観光協会等からの案内　2．受託事業者からの案内（メール・電話・対面・SNS 等）
3．北海道運輸局の HP 告知　4．新聞　5．知人・友人からの案内
6．その他（　　）

5．トレーニングの受講によって「GSTC や持続可能な観光の推進」に関する知識はどのように変化しましたか
（それぞれ該当する数字に○をつけてください）

受講前）GSTC、持続可能な観光の推進について		受講後）GSTC、持続可能な観光の推進について
1．まったく知らなかった	→	1．あまり理解できなかった
2．少し知っていた		2．少し理解できた
3．概ね知っていた		3．概ね理解できた
4．十分知っていた		4．十分理解できた

6．トレーニングの受講によって「GSTC や持続可能な観光の推進」への取り組み意識はどのように変化しましたか
（それぞれ該当する数字に○をつけてください）

受講前）取り組んでいくことについて		受講後）取り組んでいくことについて
1．まったく意識していなかった	→	1．今も特に取り組む意識はない
2．少し意識し始めていた		2．少し意識し始めた
3．意識して検討を始めていた		3．意識して検討してみようと思う
4．意識して検討し計画も立てた		4．意識して検討を進め、計画を立てたいと思う
5．意識して検討し計画を立て、実行していた		5．意識は高まり、実行現場で役立てたいと思う

7．トレーニング参加のご感想（それぞれ該当する数字に○をつけてください）

1．とてもよかった　2．まあまあよかった　3．ふつう　4．あまりよくなかった　5．よくなかった

選択された理由や感想

8．今回のトレーニングに対するご意見・今後の同様の取り組みに向けてのご要望を自由にお書きください。

トレーニングお疲れ様でした。アンケートへのご協力ありがとうございました。

ア．アンケートの回収状況

アンケートはオブザーバー的参加者を除き、できる限りすべての参加者に協力を求めたが、回答の回収状況は下記のとおりとなった。

ニセコ町(回答不要 1 人)			阿寒湖温泉			全体		
参加者数	回答数	回収率	参加者数	回答数	回収率	参加者数	回答数	回収率
21 人	20 人	100.0%	20	19	95.0%	41	39	95.1%

以降、アンケートの集計結果においては、分母を回答数とし回答不要等の理由により未提出者については含めないものとする。

イ．参加者の「持続可能な観光の推進」「観光振興」における主な立場

「持続可能な観光の推進」「観光振興」における主な立場別の参加者数は下記のとおりとなった。

（以下単位：人）

GSTC トレーニング参加者の内訳	ニセコ	阿寒	総計
1.DMO や観光協会にて主体的に関わりがある	4	5	9
2.宿泊事業者として関わりがある	3	0	3
3.道の駅や特産品、土産品等、販売事業者として関わりがある	1	0	1
4.行政として関わりがある	7	7	14
5.ガイド等、滞在サービス事業者として関わりがある	3	6	9
7.地域商工団体・組合等として関わりがある	0	1	1
8.地域住民として関わりがある	1	0	1
9.その他	1	0	1
総計	20	19	39

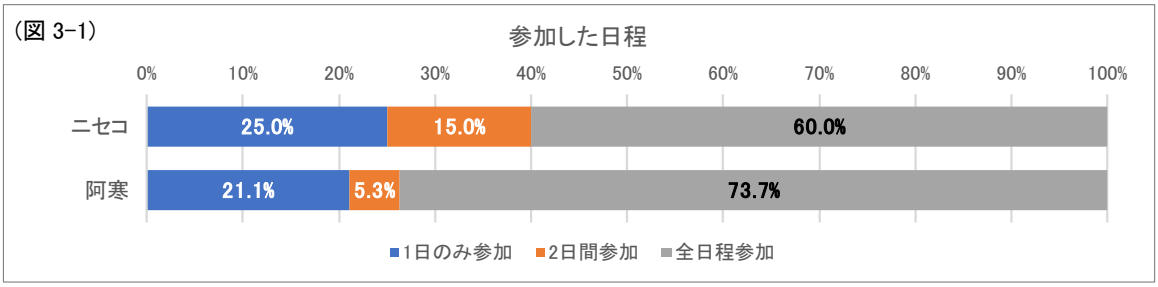
ウ．参加者が参加した日程

全 3 日間の GSTC トレーニングプログラムのうち、参加者が参加した日は下記のとおりとなった。1 日のみの参加は、ニセコ(5 人)、阿寒(4 人)の計 9 人、2 日間のみの参加はニセコ(3 人)、阿寒(0 人)の計 3 人、全日程参加はニセコ(12 人)、阿寒(14 人)の計 26 人となっていた。

（以下単位：人）

参加日程	ニセコ	阿寒	総計
1 日目のみ参加	3	3	6
2 日目のみ参加	2	0	2
3 日目のみ参加	0	1	1
1 日目と 2 日目に参加	2	1	3
2 日目と 3 日目に参加	1	0	1
1 日目と 3 日目に参加	0	0	0
3 日間全日程に参加	12	14	26
総計	20	19	39

(図 3-1)



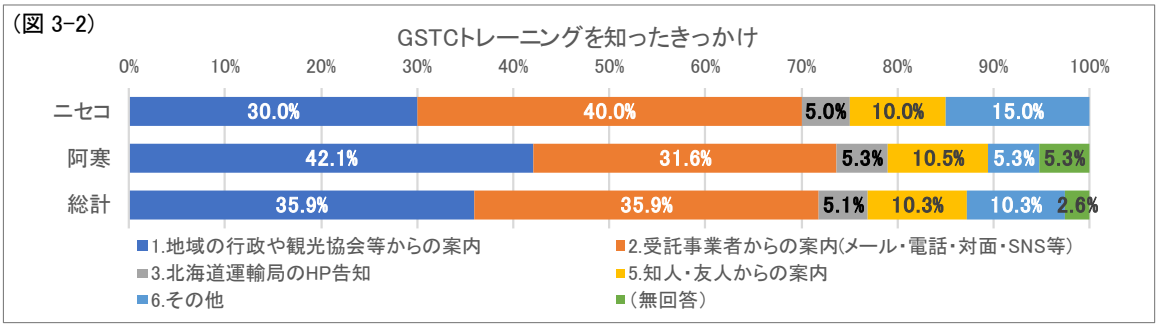
エ．GSTC トレーニングを知ったきっかけ

GSTC トレーニングを知ったきっかけについては、下記のとおりとなった。「6. その他」の内訳としては北海道運輸局から「持続可能な指標検討」への情報提供の位置づけで受入調整した観光庁職員および観光庁事業受託者の 3 人となっている。

（以下整数：人/%表示：回答数に占める割合）

GSTC トレーニングを知ったきっかけ	ニセコ		阿寒		総計	
1. 地域の行政や観光協会等からの案内	6	30. 0%	8	42. 1%	14	35. 9%
2. 受託事業者からの案内(ﾒｰﾙ・電話・対面・SNS 等)	8	40. 0%	6	31. 6%	14	35. 9%
3. 北海道運輸局の HP 告知	1	5. 0%	1	5. 3%	2	5. 1%
4. 新聞	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. 知人・友人からの案内	2	10. 0%	2	10. 5%	4	10. 3%
6. その他	3	15. 0%	1	5. 3%	4	10. 3%
（無回答）	0	0. 0%	1	5. 3%	1	2. 6%
総計	20	100. 0%	19	100. 0%	39	100. 0%

（図 3-2）



トレーニングの告知については、「1. 地域の行政や観光協会等からの案内」や「2. 受託事業者からの案内」が最も有効であったが、こうした繋がりが無ければ知ることは無く、また会員等で繋がりがあっても身近な存在かどうかによって知られないこともある。意識の高まりとともに SNS 等で繋がりも広がり、より多くの人に届けられるようになる為、こうした取り組みは継続的に実施し、情報収集しやすい環境にしていくことが望ましい。

オ．GSTC トレーニング受講による「GSTC や持続可能な観光の推進」に関する知識の変化

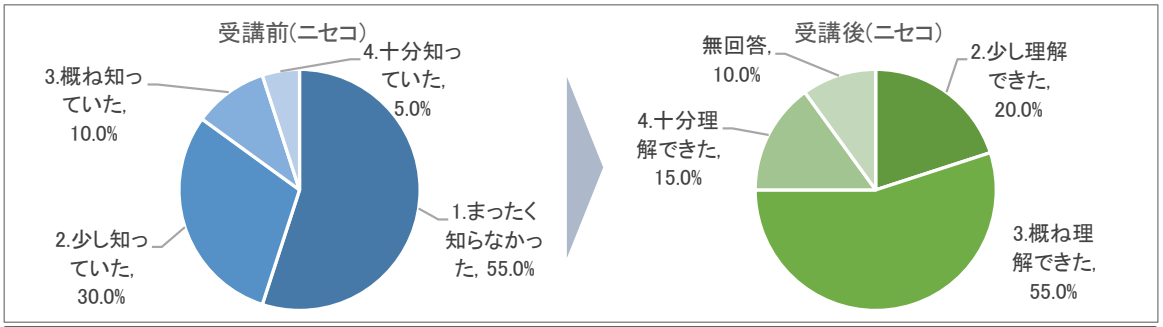
「GSTC や持続可能な観光の推進」に関する知識について、「受講前」と「受講後」の回答は、下記のとおりとなった。

（以下整数：人/%表示：回答数に占める割合）

受講前の知識	ニセコ		阿寒		総計	
1. まったく知らなかった	11	55. 0%	8	42. 1%	19	48. 7%
2. 少し知っていた	6	30. 0%	10	52. 6%	16	41. 0%
3. 概ね知っていた	2	10. 0%	1	5. 3%	3	7. 7%
4. 十分知っていた	1	5. 0%	0	0. 0%	1	2. 6%
総計	20	100. 0%	19	100. 0%	39	100. 0%

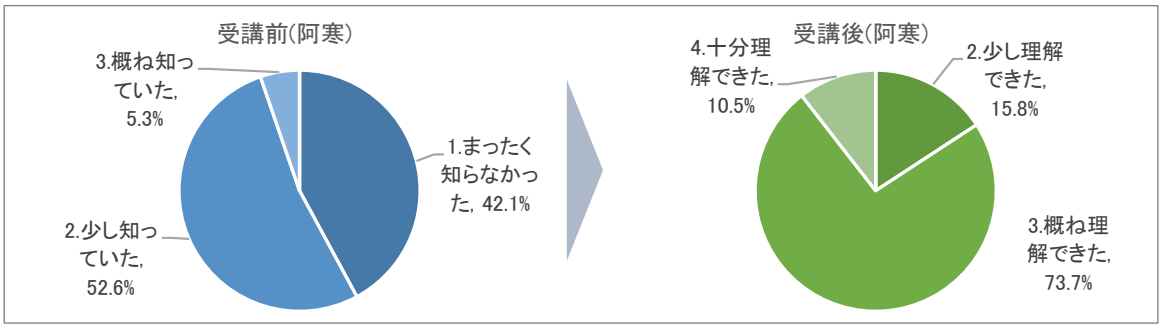
受講後の知識	ニセコ		阿寒		総計	
1. あまり理解できなかった	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
2. 少し理解できた	4	20. 0%	3	15. 8%	7	17. 9%
3. 概ね理解できた	11	55. 0%	14	73. 7%	25	64. 1%
4. 十分理解できた	3	15. 0%	2	10. 5%	5	12. 8%
（無回答）	2	10. 0%	0	0. 0%	2	5. 1%
総計	20	100. 0%	19	100. 0%	39	100. 0%

（図 3-3） ニセコでの「受講前」→「受講後」の知識の変化



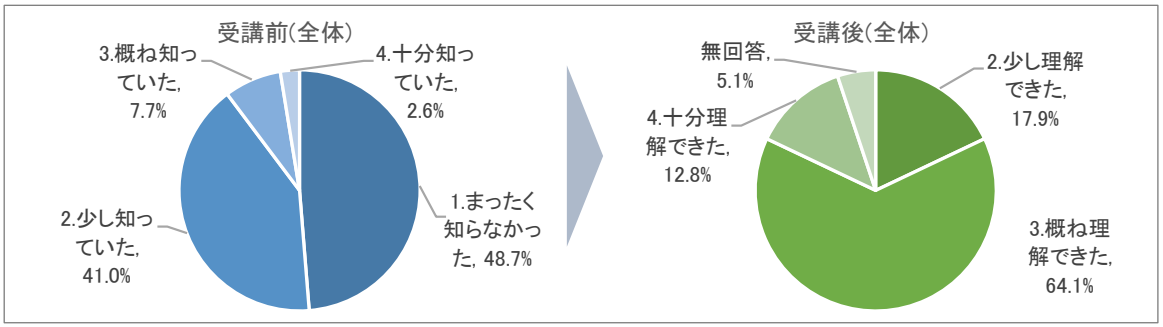
ニセコ	1.まったく知らなかった	2.少し知っていた	3.概ね知っていた	4.十分知っていた	総計
1.あまり理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.少し理解できた	**27.3%**	**16.7%**	0.0%	0.0%	20.0%
3.概ね理解できた	**54.5%**	**83.3%**	0.0%	0.0%	55.0%
4.十分理解できた	0.0%	0.0%	**100.0%**	**100.0%**	15.0%
無回答	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（図 3-4） 阿寒での「受講前」→「受講後」の知識の変化



阿寒	1.まったく知らなかった	2.少し知っていた	3.概ね知っていた	4.十分知っていた	総計
1.あまり理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.少し理解できた	**25.0%**	**10.0%**	0.0%	0.0%	15.8%
3.概ね理解できた	**75.0%**	**80.0%**	0.0%	0.0%	73.7%
4.十分理解できた	0.0%	**10.0%**	**100.0%**	0.0%	10.5%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	---	100.0%

（図 3-5） 全体の「受講前」→「受講後」の知識の変化



全体	1.まったく知らなかった	2.少し知っていた	3.概ね知っていた	4.十分知っていた	総計
1.あまり理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.少し理解できた	**26.3%**	**12.5%**	0.0%	0.0%	17.9%
3.概ね理解できた	**63.2%**	**81.3%**	0.0%	0.0%	64.1%
4.十分理解できた	0.0%	**6.3%**	**100.0%**	**100.0%**	12.8%
無回答	10.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

上記(図 3-3)(図 3-4)(図 3-5)のとおりニセコ町、阿寒湖温泉のいずれにおいても、受講前に「1. まったく知らなかった」人の 8 割以上が「2. 少し理解できた」「3. 概ね理解できた」と回答し、「2. 少し知っていた」人は、全員が理解の深さに差はあるものの理解を深めたことがわかる。また「3. 概ね知っていた」「4. 十分知っていた」とする人も、その全員が「4. 十分理解できた」と回答しており、今回の GSTC トレーニングの受講によって、「受講後」の無回答を除き参加者全員が「GSTC や持続可能な観光の推進」について理解を深めたことがわかった。

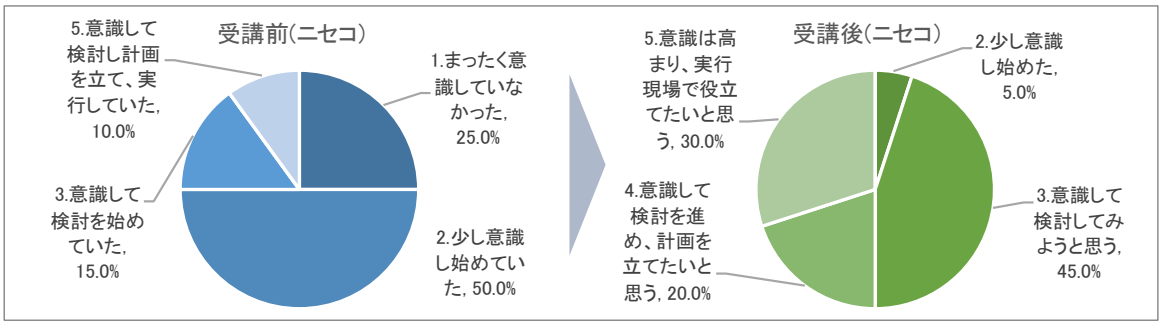
カ. GSTC トレーニング受講による「GSTC や持続可能な観光の推進」への取り組み意識の変化

「GSTC や持続可能な観光の推進」への取り組み意識について、「受講前」と「受講後」の回答は、下記のとおりとなった。　（以下整数：人/%表示：回答数に占める割合）

受講前の取り組み意識	ニセコ		阿寒		総計	
1. まったく意識していなかった	5	25. 0%	3	15. 8%	8	20. 5%
2. 少し意識し始めていた	10	50. 0%	11	57. 9%	21	53. 8%
3. 意識して検討を始めていた	3	15. 0%	4	21. 1%	7	17. 9%
4. 意識して検討し計画も立てた	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
5. 意識して検討し計画を立て、実行していた	2	10. 0%	1	5. 3%	3	7. 7%
総計	20	100. 0%	19	100. 0%	39	100. 0%

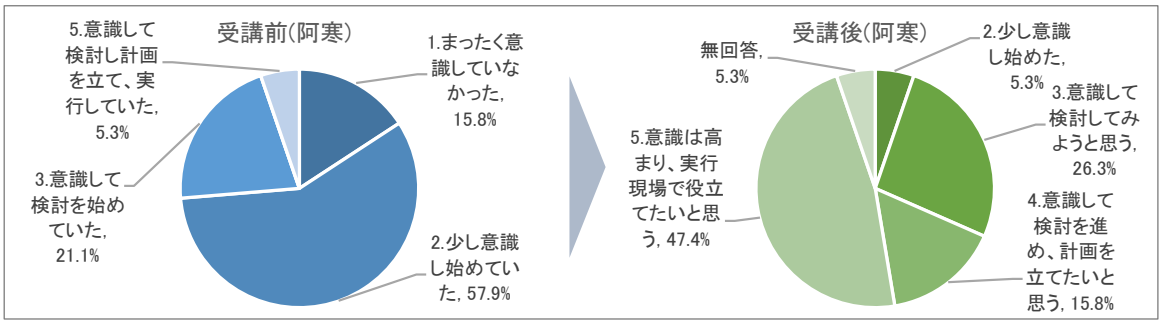
受講後の取り組み意識	ニセコ		阿寒		総計	
1. 今も特に取り組む意識はない	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
2. 少し意識し始めた	1	5. 0%	1	5. 3%	2	5. 1%
3. 意識して検討してみようと思う	9	45. 0%	5	26. 3%	14	35. 9%
4. 意識して検討を進め、計画を立てたいと思う	4	20. 0%	3	15. 8%	7	17. 9%
5. 意識は高まり、実行現場で役立てたいと思う	6	30. 0%	9	47. 4%	15	38. 5%
（無回答）	0	0. 0%	1	5. 3%	1	2. 6%
総計	20	100. 0%	19	100. 0%	39	100. 0%

（図 3-6） ニセコでの「受講前」→「受講後」の取り組み意欲の変化



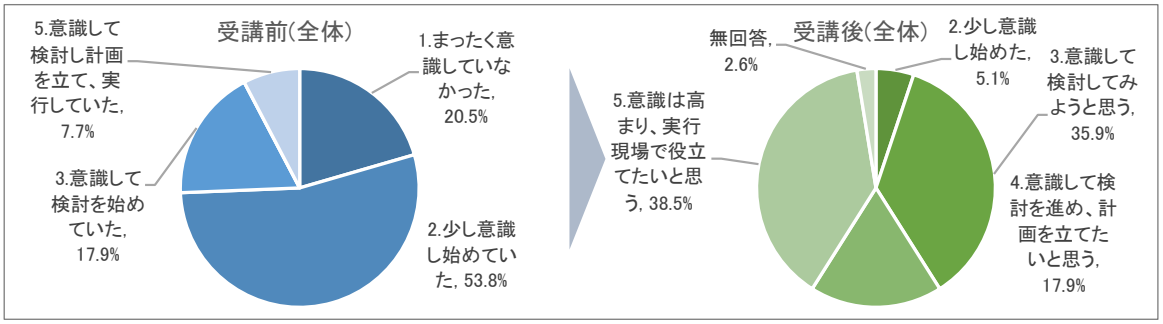
ニセコ	1.まったく意識していなかった	2.少し意識し始めていた	3.意識して検討を始めていた	4.意識して検討し計画も立てた	5.意識して検討し計画を立て、実行していた	総計
1.今も特に取り組む意識はない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%
2.少し意識し始めた	0.0%	**10.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	45.0%
3.意識して検討してみようと思う	**80.0%**	**50.0%**	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
4.意識して検討を進め、計画を立てたいと思う	0.0%	**20.0%**	**66.7%**	0.0%	0.0%	30.0%
5.意識は高まり、実行現場で役立てたいと思う	**20.0%**	**20.0%**	**33.3%**	0.0%	**100.0%**	100.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	---	100.0%	100.0%

（図 3-7）阿寒での「受講前」→「受講後」の取り組み意欲の変化



阿寒	1.まったく意識していなかった	2.少し意識し始めていた	3.意識して検討を始めていた	4.意識して検討し計画も立てた	5.意識して検討し計画を立て、実行していた	総計
1.今も特に取り組む意識はない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.少し意識し始めた	**33.3%**	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%
3.意識して検討してみようと思う	**33.3%**	**36.4%**	0.0%	0.0%	0.0%	26.3%
4.意識して検討を進め、計画を立てたいと思う	0.0%	**18.2%**	**25.0%**	0.0%	0.0%	15.8%
5.意識は高まり、実行現場で役立てたいと思う	**33.3%**	**45.5%**	**50.0%**	0.0%	**100.0%**	47.4%
無回答	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	5.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	---	100.0%	100.0%

（図 3-8）全体の「受講前」→「受講後」の取り組み意欲の変化



全体	1.まったく意識していなかった	2.少し意識し始めていた	3.意識して検討を始めていた	4.意識して検討し計画も立てた	5.意識して検討し計画を立て、実行していた	総計
1.今も特に取り組む意識はない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.少し意識し始めた	**12.5%**	**4.8%**	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%
3.意識して検討してみようと思う	**62.5%**	**42.9%**	0.0%	0.0%	0.0%	35.9%
4.意識して検討を進め、計画を立てたいと思う	0.0%	**19.0%**	**42.9%**	0.0%	0.0%	17.9%
5.意識は高まり、実行現場で役立てたいと思う	**25.0%**	**33.3%**	**42.9%**	0.0%	**100.0%**	38.5%
無回答	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	2.6%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	---	100.0%	100.0%

上記（図 3-6）（図 3-7）（図 3-8）のとおりニセコ町、阿寒湖温泉のいずれにおいても、「受講後」の無回答を除き参加者全員が「GSTC や持続可能な観光の推進」の取り組み意欲が向上したことがわかる。特に「受講前」において「1. まったく意識していなかった」という無意識段階や「2. 少し意識し始めていた」という未検討段階の人のうち、「受講後」に「3. 意識して検討を進め、計画を立てたいと思う」や「5. 意識は高まり、実行現場で役立てたいと思う」等、積極的に行動に繋げようとする急激な意識の変化も見られ、今回の GSTC トレーニングの受講によって、「受講後」の無回答を除き参加者全員が「GSTC や持続可能な観光の推進」について取り組み意欲が向上したことがわかった。

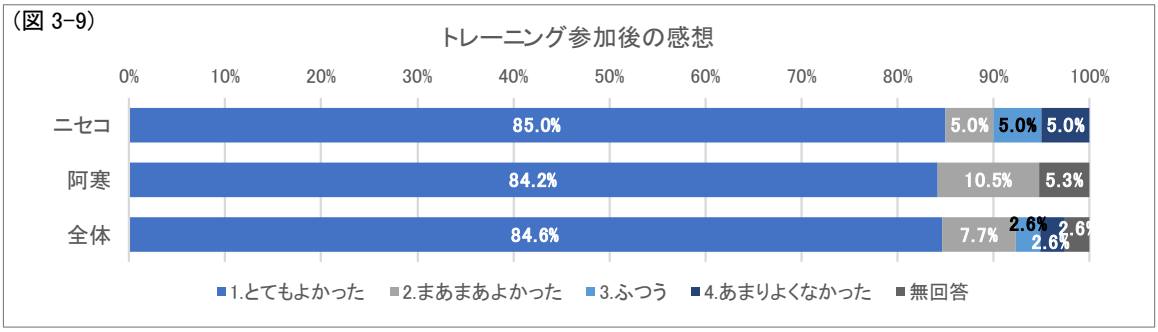
キ．トレーニング参加後の感想

今回のトレーニング参加後の感想として 5 段階評価形式で回答を得たところ、下記の結果となった。

（以下整数：人/%表示：回答数に占める割合）

参加後の感想	ニセコ		阿寒		総計	
1. とてもよかった	17	85. 0%	16	84. 2%	33	84. 6%
2. まあまあよかった	1	5. 0%	2	10. 5%	3	7. 7%
3. ふつう	1	5. 0%	0	0. 0%	1	2. 6%
4. あまりよくなかった	1	5. 0%	0	0. 0%	1	2. 6%
5. よくなかった	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
（無回答）	0	0. 0%	1	5. 3%	1	2. 6%
総計	20	100. 0%	19	100. 0%	39	100. 0%

（図 3-9）



ニセコ町、阿寒湖温泉のいずれも「1. とてもよかった」と回答した人が 8 割以上となっており、「2. まあまあよかった」と回答した人と合わせて「よかった」と満足回答した人の割合は 9 割以上となった。満足感が感じられなかったと思われる「3. ふつう」「4. あまりよくなかった」は全体でそれぞれ 1 名ずつ存在し、無回答も 1 名存在した。

参加後の感想について、参加日数別に見た場合、下記の結果となった。

（以下整数：人/%表示：回答数に占める割合）

参加後の感想	1 日のみ参加		2 日間参加		全日程参加		総計	
1. とてもよかった	6	66. 7%	2	66. 7%	25	92. 6%	33	84. 6%
2. まあまあよかった	1	11. 1%	1	33. 3%	1	3. 7%	3	7. 7%
3. ふつう	1	11. 1%	0	0.　0%	0	0. 0%	1	2. 6%
4. あまりよくなかった	1	11. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%	1	2. 6%
5. よくなかった	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
（無回答）	0	0. 0%	0	0. 0%	1	3. 7%	1	2. 6%
総計	9	100. 0%	3	100. 0%	27	100. 0%	39	100. 0%

（※1 日のみ参加：3 日間のうちいずれか 1 日間の参加/2 日間参加：3 日間のうち連続した 2 日間のみ参加）

参加者都合により本人の希望に反して全日程参加ができない場合があったが、「1 日のみ参加」「2 日間参加」「全日程参加」で満足感を見ると、「1 日のみ参加」「2 日間参加」の「1. とてもよかった」と回答した人の割合が 6 割強に留まっているのに対し、「全日程参加」の場合、「1. とてもよかった」と回答した人の割合は、9 割強となっている。また、「3. ふつう」「4. あまりよくなかった」と回答した人は「1 日のみ参加」であった。日程について連続 3 日間の参加は難しいという声も一部で聞こえてきたが、連続 3 日間であっても全日程参加による満足感は非常に高いトレーニング内容であったと思われる。

トレーニング参加の感想として得られたコメントを以下に記載する。

トレーニング参加の感想コメント
・意識が高まった。ある程度、整理ができた。 ・SDG s のゴールと自分の仕事や生活をどう結び付けて考え、行動していったら良いのか？をここ数年ぼんやりと意識していたが、今回のトレーニングを受けて、少し具体的な形が見えてきた。 ・各規準の項目へのアプローチ方法がわかった。 ・持続可能な観光について意識付けできたと思う。 ・GSTC の取り組みについて理解が深まりました。サスティナビリティな観光と環境をどう定義づけ、理解していくか深く落とし込みたいと思います。 ・今まで見たことが無かった指標の存在を知れたのが良かった。ただ、実行するだけでなく、きちんとモニターする事が大事だという事もわかった。 ・指標について詳しく理解し、具体的に地域や事業者が、どう活用できるのか知りたかったから。 ・今まで全く意識したことがなかった、知らなかった事ばかりだったので、自分を意識が変わるのをはっきりと感じました。 ・持続可能な社会を実現するために具体的にどのようなアクション起こすべきなのか自分の職場、地域でやれることの可能性もたくさん感じました。 ・DMO 組織に所属する立場としての取り組む内容が明確になった。 ・今までは興味がある人だけ気にしたらいいのでは・・・と思っていたが、やらなければならないことが知れ、かつポジティブに取り組んでいきたいという気持ちになれた。 ・やった方が良い、ではなくやらなくてはいけない。という認識を新たにしました。国際的なものさしを知ることができて有意義でした。 ・GSTC 全体についての理解が深まるとともに留意点がよく理解できました。 ・具体的な事例の紹介があり、実際のフィールドも GSTC の視点で見ることができた。 ・基準について１つ１つ丁寧に解説してもらえて理解が深まった。持続可能な観光の重要性について認識が強まった。 ・新しい視点を見つけることができた。改めて地元を見直すきっかけになった。

今後に向けて参加者から要望として挙げられた内容については以下のとおりとなった。

今後の同様の取り組みに向けての要望
・今回のようなトレーニングをなるべく多くの観光事業者（ホテル関係者、商店街関係者）、自治体、DMO に受講してもらいたい。 ・業務の関係で 1 日だけの参加だった為、次回も実施していただきたい。 ・事前の周知があまりなかった（他の方も情報を見つけるのが大変だったとおっしゃっていた）ので、必要な人に講座の開催の案内が届くようにしていただけたらうれしいです。 ・今後も続けて皆の意識を高めてほしい。 ・アフターフォローの研修があると良いのではないでしょうか。資料は英文と日本文があると理解しやすくなると感じました。 ・認証をとるための段階を踏んだ講習や相談サイト、相談会（計画、運営と実行、モニタリングの補助）などがあると心強いと思いました。 ・実際に GSTC を受講したことから、実践に向けて作成作業の取り組みを冬にできるような企画が良い ・継続的取組みのしくみが大切であると思います。併せて、広域での連携・取り組みが今後重要であり、そうした機会を作っていただけるとありがたいと思います。 ・今回のような初歩的なトレーニングは継続し、GSTC を普及させていく取り組みは必要だと思う。その先に進んだトレーニングもあればいいと思う。例えば GSTC に興味（取り組む意思）のある地域、企業でのトレーニングを行う、内容は具体的にその地域（企業）を評価し、参加者で改善点などを考えるなど。 ・AT 誘致に伴い、全道的に重要な内容なので回数を増やしてはどうでしょうか。

(2) 認証取得に向けたアクションプラン案

認証取得に向けたアクションプラン案を作成するにあたり、GSTC トレーニングの終了後、ニセコ町、阿寒湖温泉にそれぞれにてヒアリングの機会を設け、GSTC 公認トレーナーの荒井氏より申請とその後の流れ、申請に必要な 30 項目の基準に沿った様式について説明した。

地域	実施日	実施場所	対象
ニセコ町	10 月 3 日	ニセコ町役場	ニセコ町役場・㈱ﾆｾｺﾘｿﾞｰﾄ観光協会
阿寒地域	11 月 8 日	阿寒湖まりむ館	釧路市(阿寒)・NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構

説明時の資料は以下のとおり　（参考資料：[02_00_アクションプラン]参照）

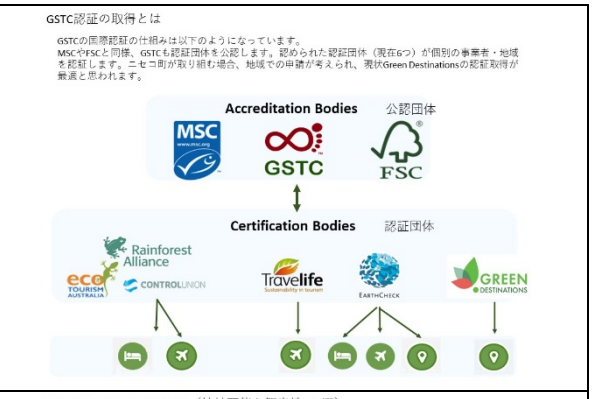

ニセコ町　アクションプラン案

Green Destinations Sustainable Destinations TOP100

申請とその後に向けて

2020年　月　日

株式会社　北海道宝島旅行社


GSTC認証の取得とは

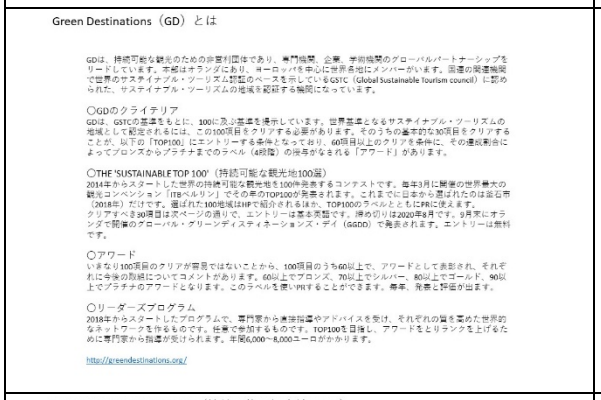
GSTCの国際認証の仕組みは以下のようになっています。
MSCやFSCと同様、GSTCも認証団体を公認します。認められた認証団体（現在6つ）が個別の事業者・地域を認証します。ニセコ町が取り組む場合、地域での申請が考えられ、現状Green Destinationsの認証取得が最適と思われます。

Accreditation Bodies　公認団体

GSTC

Certification Bodies　認証団体

Rainforest Alliance / CONTROLUNION / Travelife / EARTHCHECK / GREEN DESTINATIONS


Green Destinations（GD）とは

GDは、持続可能な観光のための非営利団体であり、専門機関、企業、学術機関のグローバルパートナーシップをリードしています。本部はオランダにあり、オーロッパを中心に世界各地にメンバーがいます。国連の関連機関で世界のサステイナブル・ツーリズム認証のベースを示している GSTC（Global Sustainable Tourism council）に認められた、サステイナブル・ツーリズムの地域を認証する機関になっています。

○GDのクライテリア
GDは、GSTCの基準をもとに、100に及ぶ基準を提示しています。世界基準となるサステイナブル・ツーリズムの地域として認定されるには、この100項目をクリアする必要があります。そのうちの基本的な30項目をクリアすることが、以下の「TOP100」にエントリーする条件となっており、60項目以上のクリアを条件に、その達成割合によってブロンズからプラチナまでのラベル（4段階）の授与がなされる「アワード」があります。

○THE 'SUSTAINABLE TOP 100'（持続可能な観光地100選）
2014年からスタートした世界の持続可能な観光地を100件発表するコンテストです。毎年3月に開催の世界最大の観光コンベンション「ITBベルリン」にてその年のTOP100が発表されます。これまでに日本から選ばれたのは金石市（2018年）だけです。選ばれた100地域はHPで紹介されるほか、TOP100のラベルとともにPRに使えます。クリアすべき30項目は次ページの通りで、エントリーは基本英語です。締め切りは2020年8月です。9月末にオランダで開催のグローバル・グリーンディスティネーションズ・デイ（GSDD）で発表されます。エントリーは無料です。

○アワード
いまなり100項目のクリアが常見ではないことから、100項目のうち60以上で、アワードとして表彰され、それぞれに今後の対応コメントがあります。60以上でブロンズ、70以上でシルバー、80以上でゴールド、90以上でプラチナのアワードとなります。このラベルを使い内することができます。毎年、発表と評価が繰り返されます。

○リーダーズプログラム
2018年からスタートしたプログラムで、専門家から直接指導やアドバイスを受け、それぞれの皆を高めた世界的なネットワークを作るものです。任意で参加するものです。TOP100を目指し、アワードをとりランクを上げるために専門家から指導が受けられます。半周6,000～8,000ユーロがかかります。

http://greendestinations.org/


THE 'SUSTAINABLE TOP 100'（持続可能な観光地100選）
に必要な30のクライテリア

1.1 Sustainability Coordinator（サステイナビリティ・コーディネーター）
持続可能な観光地運営を、適正に実施し責任する責任と権限が与えられた担当者がいる。

1.3 Vision（ビジョン）
観光地がステークホルダーと協議して策定したビジョンは、持続可能性に関する原則を含み、一般に公開している。

1.6 Inventory（観光資源のリストアップ）
各地や文化に関する観光資源のリストは一般に公開されており、また定期的に更新されている。

1.8 Tourism Policy（観光施策）
観光政策や観光戦略は環境保全計画として位置され、常に更新され一般に公開されている。これらの政策や戦略は、雇用、参加、社会、文化、環境、経済、福祉と安全などの事項に対応している。

2.1 Nature Protection（環境の保護）
自然環境、景観地、地物質、海岸帯（海洋、水域を含む）の保全に効果的に取り組んでいる。自然環境の悪化を抑制し、必要に応じて対応し、回復または補償の措置を行っている。

2.2 Natural resource protection（自然資源の保護）
自然資源の保護と適切に計画され、実施されている。持続可能でない利用は避けている。

2.7 Animal ethics（動物に対する倫理）
観光における動物の扱いにおいて、不必要な苦痛、病気、殺害のリスクを減らすための適切な管理ができている。

2.8 Landscape & Scenery（景観と景観）
自然と自然の美しい景観が保護され、その土地らしさが維持されている。景観の悪化や、都市の無秩序な拡大から効果的に守られている。

3.2 Air pollution（大気汚染）
BA（ベースライン・アセスメント）に基づいて、大気汚染の影響とリスクへの適切な対策がとられている。観光が事業の大気汚染について、適切にコントロールされている。

3.9 Waste water treatment（排水処理）
適切な排水処理の方策がある。しかも環境への影響が最小化されるよう装置の規制当局などが整備されている。この計画には、浄化槽の配置、保守管理、場所の衛生度なども含まれる。

3.10 Soft mobility（地球に優しい移動手段）
観光客がネットワークでは（自転車について）環境への影響を低減し、環境保全の高い交通手段を意心掛けおく、徒歩や自転車の利用を促進するソフト・モビリティ戦略がある。

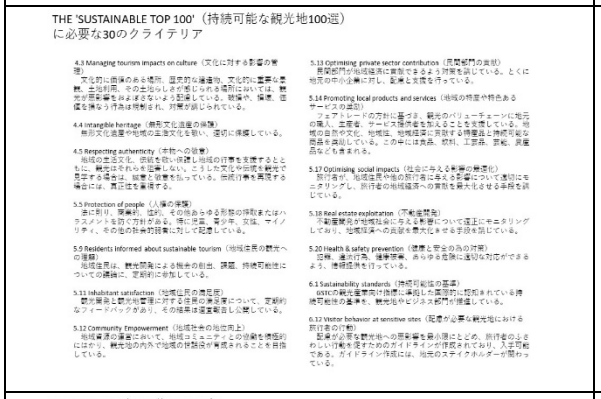
3.14 Solid waste reduction（固形廃棄物の減量）
廃棄物は適切にモニターされ、減量化、分別、リサイクル化を進めている。とくにプラスチック廃棄物の減量化に重点をおき、量的目標を設定している。

3.15 Waste separation（廃棄物の分別）
自治体や国内する廃棄物と廃棄廃棄物をそれぞれ分別できる施設が備えられている。

3.17 Energy consumption（エネルギー消費量のモニタリング）
観光において省エネ化が進められている。公民と観光客に対し、安全性やサービスの質を落とさない範囲でエネルギー消費量の削減を推奨している。

3.18 Reduction fossil fuel dependency（化石燃料への依存度の低減）
化石燃料への依存度を低減し、再生可能エネルギー技術を採用する適切な対策となっている。

4.1 Cultural heritage conservation（文化遺産の保護）
文化遺産の保護と、文化的資源（たとえば建造物とその敷地、特別的あるいは伝統的な建築物、都市設計、独自の文化が反映される場所、都市景観、考古学的な遺跡など）の本物の姿からの楽しさを表す見せ方法、国際的に認識されている標準に基づいて適切に管理され、対策が講じられている。


THE 'SUSTAINABLE TOP 100'（持続可能な観光地100選）
に必要な30のクライテリア

4.3 Managing tourism impacts on culture（文化に対する影響の管理）
文化的に価値のある場所、固有的な建造物、文化的に重要な景観、生活様式、その土地らしさが感じられる場所においては、観光が悪影響をおよぼさないよう配慮している。観光や、保護、価値を損なう行為は規制され、対策が講じられている。

4.4 Intangible heritage（無形文化遺産の保護）
無形文化遺産や地域の生活文化を尊い、認知に保護している。

4.5 Respecting authenticity（本物への敬意）
地域の生活文化、伝統を尊い保護し地域の行事を支援するとともに、観光目的のみを目標しない、こうした文化や伝統を観光で見学する場合は、敬意を払っている。伝統行事を再現する場合には、真正性を重視する。

5.5 Protection of people（人権の保護）
法に反り、奴隷や、性的、その他あらゆる形態の搾取またはハラスメントを防ぐ方針がある。特に児童、青少年、女性、マイノリティ、その他の社会的弱者に対して配慮している。

5.9 Residents informed about sustainable tourism（地域住民の観光への理解）
地域住民は、観光開発による機会の創出、課題、持続可能性についての議論に、定期的に参加している。

5.11 Inhabitant satisfaction（地域住民の満足度）
観光開発と観光地管理に対する住民の満足度について、定期的なフィードバックがあり、その結果は適宜公表している。

5.12 Community Empowerment（地域社会の地位向上）
地域資源の審査において、地域コミュニティとの協働を積極的にはかり、観光地の内外で地域の技能が育成されることを目指している。

5.13 Optimising private sector contributions（民間部門の貢献）
民間部門が地域経済に貢献できるよう対策を講じている。とくに地元の中小企業に対し、助言と支援を行っている。

5.14 Promoting local products and services（地域の特産や特色あるサービスの振興）
ショッピングの方針に基づき、観光のバリューチェーンに地元の職人、工芸者、サービス提供者を加えることを支援している。地域の自然や文化、地域性、地域経済に貢献する特産品と持続可能な商品を奨励している。このには食品、飲料、工芸品、装飾、美術品などを含まれる。

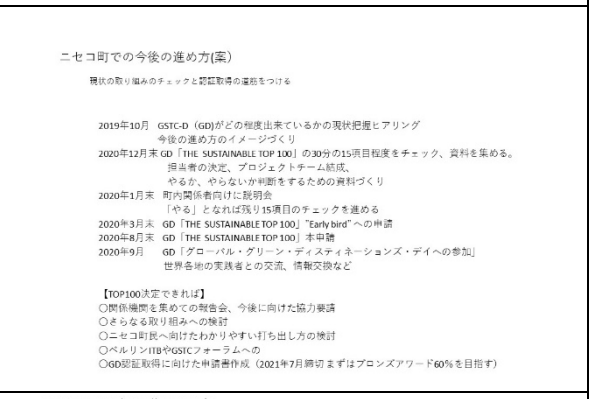
5.17 Optimising social impacts（社会に与える影響の最適化）
訪問者が、地域住民や地の訪行者に与える影響について連絡にもモニタリングし、訪行者の地域経済への貢献を最大化させる手段を講じている。

5.18 Real estate exploration（不動産開発）
不動産開発が地域社会に与える影響について適正にモニタリングしており、地域経済への貢献を最大化させる手段を講じている。

5.20 Health & safety prevention（健康と安全の為の対策）
訪問、通訳行為、健康関連、あらゆる危険に適切な対応ができるよう、機関提供を行っている。

6.1 Sustainability standards（持続可能な基準）
GSTCの観光産業向け指標に準拠した国際的に認知されている持続可能性の基準を、観光地やビジネス部門が推進している。

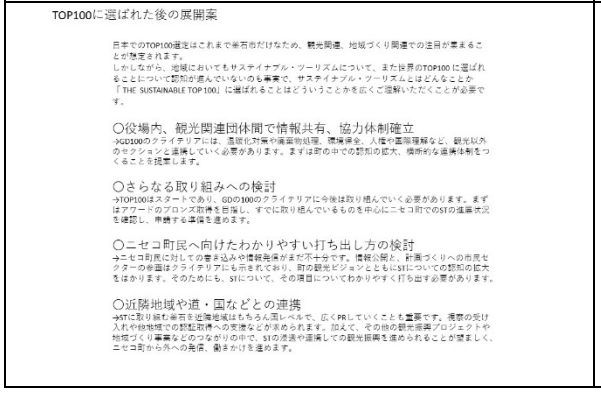
6.12 Visitor behavior at sensitive sites（配慮が必要な観光地における旅行者の行動）
配慮が必要な観光地への訪問者を最小限にとどめ、訪行者のふさわしい行動を促すためのガイドラインが作成されており、入手可能である。ガイドラインを作成には、地元のステイクホルダーが関わっている。


ニセコ町での今後の進め方(案)

現状の取り組みのチェックと認証取得の道筋をつける

2019年10月　GDC-D（GD)がどの程度出来ているかの現状把握ヒアリング
今後の進め方のイメージづくり
2020年12月末 GD「THE SUSTAINABLE TOP 100」の30分の15項目程度をチェック、資料を集める。
担当者の決定、プロジェクトチーム結成、
やるか、やらないか判断をするための資料づくり
2020年1月末　町内関係者向けに説明会
「やる」となれば残り15項目のチェックを進める
2020年3月末　GD「THE SUSTAINABLE TOP 100」"Early bird"への申請
2020年8月末　GD「THE SUSTAINABLE TOP 100」本申請
2020年9月　GD「グローバル・グリーン・ディスティネーションズ・デイへの参加」
世界各地の実践者との交流、情報交換など

【TOP100決定できれば】
○関係機関を集めての報告会、今後に向けた協力要請
○さらなる取り組みへの検討
○ニセコ町民へ向けたわかりやすい打ち出し方の検討
○ベルリンITBやGSTCフォーラムへの
○GD認証取得に向けた申請書作成（2021年7月締切まずはブロンズアワード60%を目指す）


TOP100に選ばれた後の展開案

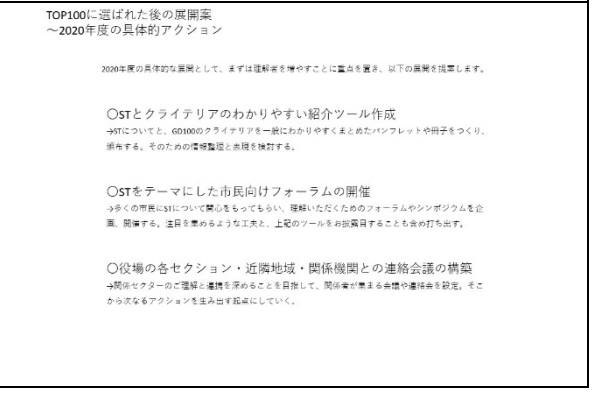
日本でのTOP100選定はこれまで釜石市だけなため、観光関連、地域づくり関連での注目が集まることが想定されます。
しかしながら、地域においてもサステイナブル・ツーリズムについて、また世界のTOP100に選ばれることについて認知が進んでいないのも事実で、サステイナブル・ツーリズムとはどんなことか「THE SUSTAINABLE TOP 100」に選ばれることはどういうことかを広くご理解いただくことが必要です。

○役場内、観光関連団体間で情報共有、協力体制確立
→GD100のクライテリアには、温暖化対策や廃棄物処理、環境保全、人権や国際理解など、観光以外のセクションと連携していく必要があります。まずは町の中での認知の拡大、横断的な連携体制をつくることを提案します。

○さらなる取り組みへの検討
→TOP100はスタートであり、GDの100のクライテリアに今後は取り組んでいく必要があります。まずはアワードのブロンズ取得を目指し、すでに取り組んでいるものを中心にニセコ町でのSTの達成状況を確認し、申請する準備を進めます。

○ニセコ町民へ向けたわかりやすい打ち出し方の検討
→ニセコ町民に対しての巻き込みや情報発信がまだ不十分です。情報公開と、計画づくりへの市民セクターの参画はクライテリアにも示されており、町の観光ビジョンとともに対についての認知の拡大をはかります。そのためにも、STについて、その項目についてわかりやすく打ち出す必要があります。

○近隣地域や道・国などとの連携
→STに取り組む釜石を近隣地域はもちろん国レベルで、広くPRしていくことも重要です。視察の受け入れや他地域での認証取得への支援などが求められます。加えて、その他の観光振興プロジェクトや地域づくり事業などのつながりの中で、STの達成や連携しての観光振興を進められることが望ましく、ニセコ町から外への発信、働きかけを進めます。


TOP100に選ばれた後の展開案
～2020年度の具体的アクション

2020年度の具体的な展開として、まずは理解者を増やすことに重点を置き、以下の展開を提案します。

○STとクライテリアのわかりやすい紹介ツール作成
→STについて、GD100のクライテリアを一般にわかりやすくまとめたパンフレットや冊子をつくり、頒布する。そのための情報整理と表現を検討する。

○STをテーマにした市民向けフォーラムの開催
→多くの市民にSTについて関心をもってもらい、理解いただくためのフォーラムやシンポジウムを企画、開催する。注目を集めるような工夫と、上記のツールをお披露目することも含め打ち出す。

○役場の各セクション・近隣地域・関係機関との連絡会議の構築
→関係セクターのご理解と連携を深めることを目指して、関係者が集まる会議や連絡会を設定。そこから次なるアクションを生み出す起点にしていく。

① ニセコ町を想定したアクションプラン案

ニセコ町でのヒアリングおよび説明時点では、行政および観光協会の取り組み姿勢として認証機関であるグリーン・ディスティネーションズへ申請する為の具体的行動を起こす段階にない為、ニセコ町での具体的な取り組みや事情を反映したアクションプラン案には至らないものの、今後検討を進める上で参考にしたい汎用的なアクションプラン案について提示した。

（以下参考資料：[02_01_アクションプラン]参照）

Green Destinations（GD） 認定に向けたアクションプランについて

Green Destinationsは、GSTC国際認証基準に準拠して、100基準を提示しています。国際的に持続可能な観光地として認定されるには、この100項目をクリアすることになります。

最終的なGD認定を取るまでの中長期的な流れは
1年目：基本的な30項目をクリアし、「Green DestinationsTOP100」に選定
国際的に「阿寒が持続可能な観光地を目指している」と認知される。
2年目：60項目以上をクリアし、ブロンズアワードを受賞
3年目：70項目以上をクリアし、シルバーアワードを受賞
4年目：80項目以上をクリアし、ゴールドアワードを受賞
5年目：90項目以上をクリアし、プラチナアワードを受賞
6年目：100項目をクリアし、Green Destinations認定
「Top100」やアワードを受賞した時は、Green Destinationsの年次イベントと、ITBベルリン（ドイツベルリンで行われる国際旅行博）にて紹介され、世界の旅行関係者に「持続可能な観光地を目指す地域」として認知されることになります。

ここでは、一番初めに行う「Top100」に選ばれるまでのアクションプランをご提示します。100項目中の指定された30項目をどのように書くかについて、説明いたします。

Top100（30項目）の申請書はOn Lineで作成し、申請します。GD事務局に連絡し、申請書作成のログインIDとパスワードを貰います。

ログインをした後は、以下の30項目に関する質問がありますので、その質問に答え、その答えを証明する証明資料を添付します。申請書に打ち込む時の対応言語は英語だけです。添付資料は日本語のもので構いません。

番号	タイトル	説明	実施内容	必要書類
1.1	Sustainability Coordinator（サステイナビリティ・コーディネーター）	持続可能な観光地運営を、適正に実施し報告する責任と権限が与えられた担当者がいる。	担当者氏名を記入する。	その仕事の職務明細書と担当者の職務経歴書を添付する。
1.3	Vision(ビジョン)	観光地がステークホルダーと協議して策定したビジョンは、持続可能性に関する原則を含み、一般に公開している。	観光地を定義する（自治体単位が考えやすい）	そのビジョンを添付する。
			自治体や観光協会で策定したビジョンが対象となる。そこには「持続可能性」に関することが書かれている。	またそのビジョンやビジョン策定のプロセスが示されている資料が公開されているWebのリンクを張る。
			その観光地のビジョンと、ビジョンが出来るまでのプロセスを書き出す。ビジョン策定検討会議の議事録などが対象となる。	
2.1	Inventory(観光地のリストアップ)	自然や文化に関する観光資源のリストは一般に公開されており、また定期的に更新されている。	観光資源として、景観資源、自然環境自然、歴史文化資源、観光アトラクション、観光インフラ、利害関係者等がリストアップされていること。	観光資源のリストが書かれているWebのリンクを張る。
2.3	Tourism Policy（観光施策）	観光政策や観光戦略は複数年計画として立てられ、常に更新され一般に公開されている。これらの政策や戦略は、環境、美観、社会、文化、経済、品質、健康と安全などの事項に対応している。	対象とする既存の観光政策を選ぶ。	その観光政策を添付する。公開されているWebのリンクを張る。
			それがどのような目的とプロセスで作成され、何か年計画で、何年ごとに更新されているか等を説明する。	
5.1	Nature Protection（環境の保護）	自然環境、生息地、生物種、生態系（海洋、水域を含む）の保全に効果的に取り組んでいる。自然環境の悪化を抑制し、必要に応じて対応し、回復または補償の措置を行っている。	いくつかの対象(自治体指定の保護区、国定公園・国立公園・天然記念物・世界遺産等)を選び、環境保護に関する問題点や課題について説明すること。	それらの証明書類を添付する。例えば、自然公園の管理計画、天然記念物の保護に関する管理計画、現場のゴミ拾い活動の実施報告書など。理想とされる実施内容と証拠資料は4ステップ、①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
			どのように自然が保護されているかを説明すること。	
			方針、実施計画、法律、条例には、環境問題がどのように言及されているかを説明すること。	
5.2	Natural resource protection（自然資源の保護）	自然資源の保護は適切に計画され、実施されている。持続可能でない利用は避けている。	自然資源とは、石炭や天然ガスや水など産業に活用できる資源をさしている。温泉も含まれる。	それらの証明書類を添付する。例えば、砂利採掘場の管理計画など。理想とされる実施内容と証拠書類は4ステップで①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
			いくつかの対象（水資源・木材資源・鉱物資源等）を選び、環境保護に関する問題点や課題について説明すること。	
			方針、実施計画、法律、条例には、環境問題がどのように言及されているかを説明すること。	
6.2	Animal Ethics（動物に対する倫理）	観光における動物の扱いにおいて、不必要な苦痛、病気、致死のリスクを減らすための適切な管理ができている。	対象となる動物を書く(キタキツネ・エゾシカ・ヒグマ・オオハクチョウ等)。或いは地域が、その地域の動物全般を対象としている場合は、そのように書く。	それらの証明書類を添付する。例えば、北海道動物の愛護及び管理に関する条例など。理想とされる実施内容と証拠書類は4ステップで①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
			方針、管理計画、法律、条例において、動物の福祉がどのように保障されているかについて言及する。	
7.1	Landscape & Scenery（風景と景観）	自然と田舎の美しい景観が保護され、その土地らしさが維持されている。景観の悪化や、都市の無秩序な拡大から効果的に守られている。	風景や景観がどのように保全されているかを、具体的な地域名をあげて説明する。	それらの証明書類を添付する。例えば、景観条例など。理想とされる実施内容と証拠書類は4ステップで①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
			方針、管理計画、法律、条例において、景観保全がどのように保障されているかについて言及する。	
8.2	Air pollution（大気汚染）	BA（ベースライン・アセスメント）に基づいて、大気汚染の影響とリスクへの適切な対策がとられている。観光が要因の大気汚染について、適切にコントロールされている。	BA(現状を把握するための基礎調査）を行い、どのような大気汚染が起きているかを確認し、明示する。	それらの証明書類を添付する。例えば、大気汚染に関する調査報告書など。その問題について、地域へ発信している新聞や広報誌にある記事などを添付する。
			その大気汚染がどのように地域として認識されているかを説明する。	

9.4	Waste water treatment（排水処理）	適切な排水処理の計画があり、人々や環境への影響が最小化されるよう関連の規制条例などが整備されている。この計画には、浄化槽の配置、保守管理、廃水の水質検査なども含まれる。	観光地においてどのように排水処理が行われているかを説明する。 最近はどのような課題があるかを説明する。 それらがどのように対応されているかを説明する。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。 住民説明会などの議事録を添付する。
10.1	Soft mobility（地球に優しい移動手段）	観光客が多いゾーンでは、（BAに基づいて）環境への影響を考慮し、環境負荷の高い交通手段を最小限に抑え、徒歩や自転車の利用を促進するソフト・モビリティ戦略がある。	移動手段についてどのような環境への悪影響があるかを説明する。改善に向けた計画などを説明する。 環境に影響の少ない乗り物やエンジンを使わない乗り物を推進することについて、どのように行動しているかを説明する。	観光計画においてソフトモビリティに関する方針が書かれている箇所などを添付する。実行計画として、ソフトモビリティの研修会やモデルツアー等を実施した場合はその報告書を添付する。
11.1	Solid waste reduction（固形廃棄物の減量）	廃棄物は適切にモニターされ、減量化、分別、リサイクル化を進めている。とくにプラスチック廃棄物の減量化に重点をおき、量的目標を設定している。	固形廃棄物の処理方法や、どのように固形廃棄物が減らされているかを説明する。 最近の課題は何かを説明する。	固形廃棄物の減量に関する資料（廃棄物処理の条例や実施計画など）を添付する。
11.2	Waste separation（廃棄物の分別）	自治体が回収する廃棄物と産業廃棄物をそれぞれ分別できる施設が備えられている。	どのような廃棄物処理のインフラが整っているかを説明する。 それらの施設はどのようなものがあるかをリストアップする。	自治体が実施する廃棄物分別表などを添付する。廃棄物処理施設のリストやWebサイトを添付する。
12.1	Energy consumption（エネルギー消費量のモニタリング）	観光地において省エネ化が進められている。住民と観光客に対し、安全性やサービスの質を落とさない範囲でエネルギー消費量の削減を推奨している。	どのようにエネルギーの消費量を減らしているかを説明する。観光協会として各事業者にガイドラインを出しているなども対象となる。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。
12.2	Reduction fossil fuel dependency（化石燃料への依存度の低減）	化石燃料への依存度を低減し、再生可能エネルギー技術を振興する適切な対策をとっている。	化石燃料への依存を減らすために、どのような対策をしているかをあげる。 どのようなステイクホルダーが関わっているかを説明する。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などを添付する。
14.1	Cultural heritage conservation（文化遺産の保護）	文化遺産の保護と、文化的資源（たとえば建造物とその敷地、特徴的あるいは伝統的な建築物、都市設計、独自の文化が感じられる場所、都市景観、考古学的な遺跡など）の本物の魅力や美しさを表す見せ方は、国際的に認識されている標準に基づいて適切に管理され、対策が講じられている。	このような文化遺産はどのように保護されているかを説明する。 方針、管理計画、法律、条例においてどのような悪影響が懸念されているかを書く。（対象外の場合もある。その時はN/A（Not Applicable:対象外と書く）	それらの証明書類を添付する。例えば、天然記念物の保護に関する計画など。理想とされる実施内容と証拠資料は4ステップ、①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
14.3	Managing tourism impacts on culture（文化に対する影響の管理）	文化的に価値のある場所、歴史的な建造物、文化的に重要な景観、土地利用、その土地らしさが感じられる場所においては、観光が悪影響をおよぼさないよう配慮している。破損や、損壊、価値を損なう行為は規制され、対策が講じられている。	観光地は、文化遺産の価値や「ほんもの」であることが、観光によって悪影響を受けていない状態であることを、どのように保証しているかを説明する。	文化的に価値のある場所などのリストを添付する。「悪影響を受けないことを保証している状態」を証明するのは難しいが、悪影響を受けないようにパトロールやモニタリングをしているその記録を添付するなどでも良い。
15.1	Intangible heritage（無形文化遺産の保護）	無形文化遺産や地域の生活文化を敬い、適切に保護している。	どのように無形文化遺産(お祭りやアイヌ文化等)が保護されているかを説明する。 方針、管理計画、法律、条例においてどのような悪影響が指摘されているかを説明する（対象外の場合もある。その時はN/A（Not Applicable:対象外と書く）	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。
15.2	Respecting authenticity（本物への敬意）	地域の生活文化、伝統を敬い保護し地域の行事を支援するとともに、観光はそれらを阻害しない。こうした文化や伝統を観光で見学する場合は、誠意と敬意を払っている。伝統行事を再現する場合には、真正性を重視する。	観光がその地域の生活文化に悪影響を与えないように、何をしているかを説明する。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。
16.5	Protection of people（人権の保護）	法に則り、商業的、性的、その他あらゆる形態の搾取またはハラスメントを防ぐ方針がある。特に児童、青少年、女性、マイノリティ、その他の社会的弱者に対して配慮している。	人権保護に関する最近の課題は何かを説明する。 人権保護について、方針、実施計画とその評価について説明する。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。
17.2	Residents informed about sustainable tourism（地域住民の観光への理解）	地域住民は、観光開発による機会の創出、課題、持続可能性についての議論に、定期的に参加している。	「地域住民の観光への理解」に関する方針とアクションについて説明する。	証拠書類として、住民会議や観光協会総会の議事録を添付する。
17.4	Inhabitant satisfaction（地域住民の満足度）	観光開発と観光地管理に対する住民の満足度について、定期的なフィードバックがあり、その結果は適宜報告し公開している。	地域住民の満足度はどのようにモニタリングされているかを説明する。	満足度調査の報告書や、他者(大学の研究など）が実施した研究報告書などを添付する。それが公開されているWebのリンクを張る。
17.5	Community Empowerment（地域社会の地位向上）	地域資源の運営において、地域コミュニティとの協働を積極的にはかり、観光地の内外で地域の世話役が育成されることを目指している。	観光によって、地域住民の地位向上やはどのようになされてるかを説明する。	世話役として活動している人、候補者のリストがある。地域活動の記録や、地位向上と考えられる調査結果を添付する。
18.1	Optimising private sector contribution（民間部門の貢献）	民間部門が地域経済に貢献できるよう対策を講じている。とくに地元の中小企業に対し、配慮と支援を行っている。	地域の起業家をどのようにサポートしているかを説明する。自治体の制度や、商工会の支援事業や制度も対象と考えられる。	商工会の支援事業のチラシや、実績を添付する。
18.2	Promoting local products and services（地域の特産や特色あるサービスの奨励）	フェアトレードの方針に基づき、観光のバリューチェーンに地元の職人、生産者、サービス提供者を加えることを支援している。地域の自然や文化、地域性、地域経済に貢献する特産品と持続可能な商品を奨励している。この中には食品、飲料、工芸品、芸能、農産品なども含まれる。	経済貢献に留まらず、どのような「地域に責任ある貢献」がなされているかを説明する。適切な対価を払うことで職人の技術を継承するなども想定される。	DMOや観光協会でガイドラインなどがあれば添付する。個別の活動の場合は、その記録やイベントのチラシなどを添付する。
19.1	Optimizing social impacts（社会に与える影響の最適化）	旅行者が、地域住民や他の旅行者に与える影響について適切にモニタリングし、旅行者の地域経済への貢献を最大化させる手段を講じている。	旅行者の不適切な行動を最小化する方策を説明する。研究機関との共同研究や、大学生の論文のテーマとして取り上げてもらうことも考えられる。 旅行者の地域経済への貢献を最大化する方策を説明する。 それらをどのようにモニタリングしているかを説明する。	調査報告書を添付する。

19.2	Real estate exploitation（不動産開発）	不動産開発が地域社会に与える影響について適正にモニタリングしており、地域経済への貢献を最大化させる手段を講じている。	不動産開発の現状について説明する。 負の影響をどのように回避しているかを説明する。（対象外の場合もある。その時はN/A（Not Applicable:対象外と書く）	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。
20.10	Health & safety prevention and responce（健康と安全の為の対策と対応）	犯罪、違法行為、健康被害、あらゆる危険に適切な対応ができるよう、情報提供を行っている。	現状の犯罪、安全、健康に関するリスクをあげる。 それらを防ぐためにどのような対策が取られているかを説明する。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。
21.1	Sustainability standards（持続可能性の基準）	GSTCの観光産業向け指標に準拠した国際的に認知されている持続可能性の基準を、観光地やビジネス部門が推進している。	民間事業者に対して、どのように持続可能性の基準を推進しているかを説明する。	GSTCの研修会に参加した人のリストや、それ以外の研修会の実施報告書を添付する。
22.3	Visitor behavior at sensitive sites（配慮が必要な観光地における旅行者の行動）	配慮が必要な観光地への悪影響を最小限にとどめ、旅行者のふさわしい行動を促すためのガイドラインが作成されており、入手可能である。ガイドライン作成には、地元のステイクホルダーが関わっている。	配慮が必要な観光地でどのように旅行者の行動が管理されているかを説明する。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。

この他、ニセコ町として今後取り組む上では、下記について留意し具体的なアクションプランの策定に向けて取り組まれることを期待する。

ヒアリング時に得られた情報から具体的なアクションプランに含めたい要素

- 「ニセコ」といえば「乱開発のイメージ」ができていることに対し、ニセコ町としてのスタンスを示していく必要がある。町内・町民・町議会も一緒に取り組むインナーブランド作りが必要。
- アクションプランに策定される内容の多くは町の観光振興計画や観光を含む町の長期計画に集約されている必要がある。
- 町内に国定公園が存在する場合、その資源保全の為の条例等がある為、そうした条例や条例に紐づく取り組みもアクションプランに含められると考える。文化財保護法に準拠した取り組み等もこれにあたる。こうした条例等への対応は観光行政の管理下にあるとは限らない為、各幹事課や関係行政との連携も必要となる。
- 「イトウ保全の会がある」等、町内に資源の持続可能性を担保しようとする活動がある場合、これも町の取り組みとしてアクションプランに含められる。この場合、活動の証跡等がその実績に値する。
- 天然資源に関しては、羊蹄山系の水源に関する取り組み等、水源や水産資源に関する条例や、ゴミの分別収集やそのリサイクルに関して、燃えるゴミは固形燃料化し生ごみは堆肥化し、といった取り組みも条例や実績等を含めることができる。
- 町の事業者においては、体験農場や見学農場等において、馬や牛の労働時間を決めている等の取り組みがあった場合、事業者の方針や計画、実績記録などもアクションプランに反映することができる。
- サービス業において、域内調達率や顧客へ提供する価値について一定のガイドライン等に沿った制限遵守、品質管理などを実施している場合も取り組みとして含めることができる。
- 来訪者や外国人在住者を含むダイバーシティに対応可能な医療および医療連携体制が構築されている場合も、リスクマネジメントの意味でも含めることができる。

また、ヒアリングの場では、ニセコ町から今後検討を進めるにあたり、釜石での取り組み予算や、取り組みによる釜石での効果について質問があったが、予算感については荒井氏よりニセコ町に対し、個別に情報提供がなされ、釜石での取り組みについては、大まかな情報として伝えつつも 2 月に実施するセミナー時に直接講師（㈱かまいし DMC 久保氏）から話を聞く機会があることを伝えた。

② 阿寒湖温泉を想定したアクションプラン案

阿寒湖温泉においてもヒアリングおよび説明時点では、行政および DMO の取り組み姿勢として認証申請する為の具体的行動を起こす段階になく、今後国内での指標策定を待ちたい意向も見られた為、阿寒湖温泉での具体的な取り組みや事情を反映したアクションプラン案には至らず、ニセコ町同様に汎用的なアクションプラン案について提示した。

（以下参考資料：[02_02_アクションプラン]参照）

Green Destinations（GD） 認定に向けたアクションプランについて

Green Destinationsは、GSTC国際認証基準に準拠して、100基準を提示しています。国際的に持続可能な観光地として認定されるには、この100項目をクリアすることになります。

最終的なGD認定を取るまでの中長期的な流れは
1年目：基本的な30項目をクリアし、「Green DestinationsTOP100」に選定.国際的に「阿寒が持続可能な観光地を目指している」と認知される。
2年目：60項目以上をクリアし、ブロンズアワードを受賞
3年目：70項目以上をクリアし、シルバーアワードを受賞
4年目：80項目以上をクリアし、ゴールドアワードを受賞
5年目：90項目以上をクリアし、プラチナアワードを受賞
6年目：100項目をクリアし、Green Destinations認定
「Top100」やアワードを受賞した時は、Green Destinationsの年次イベントと、ITBベルリン（ドイツベルリンで行われる国際旅行博）にて紹介され、世界の旅行関係者に「持続可能な観光地を目指す地域」として認知されることになります。

ここでは、一番初めに行う「Top100」に選ばれるまでのアクションプランをご提示します。100項目中の指定された30項目をどのように書くかについて、説明いたします。

Top100（30項目）の申請書はOn Lineで作成し、申請します。GD事務局に連絡し、申請書作成のログインIDとパスワードを貰います。

ログインをした後は、以下の30項目に関する質問がありますので、その質問に答え、その答えを証明する証明資料を添付します。申請書に打ち込む時の対応言語は英語だけです。添付資料は日本語のもので構いません。

番号	タイトル	説明	実施内容	必要書類
1.1	Sustainability Coordinator（サステイナビリティ・コーディネーター）	持続可能な観光地運営を、適正に実施し報告する責任と権限が与えられた担当者がいる。	担当者氏名を記入する。	その仕事の職務明細書と担当者の職務経歴書を添付する。
1.3	Vision(ビジョン)	観光地がステークホルダーと協議して策定したビジョンは、持続可能性に関する原則を含み、一般に公開している。	観光地を定義する（釧路市/阿寒町/阿寒湖畔のいずれか）	そのビジョンを添付する。
			市や観光協会で策定したビジョンが対象となる。そこには「持続可能性」に関することが書かれている。	またそのビジョンやビジョン策定のプロセスが示されている資料が公開されているWebのリンクを張る。
			その観光地のビジョンと、ビジョンが出来るまでのプロセスを書き出す。ビジョン策定検討会議の議事録などが対象となる。	
2.1	Inventory(観光地のリストアップ)	自然や文化に関する観光資源のリストは一般に公開されており、また定期的に更新されている。	観光資源として、景観資源、自然環境自然、歴史文化資源、観光アトラクション、観光インフラ、利害関係者等がリストアップされていること。	観光資源のリストが書かれているWebのリンクを張る。
2.3	Tourism Policy（観光施策）	観光政策や観光戦略は複数年計画として立てられ、常に更新され一般に公開されている。これらの政策や戦略は、環境、美観、社会、文化、経済、品質、健康と安全などの事項に対応している。	対象とする既存の観光政策を選ぶ。	その観光政策を添付する。公開されているWebのリンクを張る。
			それがどのような目的とプロセスで作成され、何か年計画で、何年ごとに更新されているか等を説明する。	
5.1	Nature Protection（環境の保護）	自然環境、生息地、生物種、生態系（海洋、水域を含む）の保全に効果的に取り組んでいる。自然環境の悪化を抑制し、必要に応じて対応し、回復または補償の措置を行っている。	いくつかの対象(自治体指定の保護区、国定公園・国立公園・天然記念物・世界遺産等)を選び、環境保護に関する問題点や課題について説明すること。	それらの証明書類を添付する。例えば、国立公園の管理計画、天然記念物の保護に関する管理計画、現場のゴミ拾い活動の実施報告書など。理想とされる実施内容と証拠資料は4ステップ、①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
			どのように自然が保護されているかを説明すること。	
			方針、実施計画、法律、条例には、環境問題がどのように言及されているかを説明すること。	
5.2	Natural resource protection（自然資源の保護）	自然資源の保護は適切に計画され、実施されている。持続可能でない利用は避けている。	自然資源とは、石炭や天然ガスや水など産業に活用できる資源をさしている。温泉も含まれる。	それらの証明書類を添付する。例えば、砂利採掘場の管理計画など。理想とされる実施内容と証拠書類は4ステップで①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
			いくつかの対象（水資源・木材資源・鉱物資源等）を選び、環境保護に関する問題点や課題について説明すること。	
			方針、実施計画、法律、条例には、環境問題がどのように言及されているかを説明すること。	
6.2	Animal Ethics（動物に対する倫理）	観光における動物の扱いにおいて、不必要な苦痛、病気、致死のリスクを減らすための適切な管理ができている。	対象となる動物を書く(キタキツネ・エゾシカ・ヒグマ・オオハクチョウ等)。或いは地域が、その地域の動物全般を対象としている場合は、そのように書く。	それらの証明書類を添付する。例えば、北海道動物の愛護及び管理に関する条例など。理想とされる実施内容と証拠書類は4ステップで①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
			方針、管理計画、法律、条例において、動物の福祉がどのように保障されているかについて言及する。	
7.1	Landscape & Scenery（風景と景観）	自然と田舎の美しい景観が保護され、その土地らしさが維持されている。景観の悪化や、都市の無秩序な拡大から効果的に守られている。	風景や景観がどのように保全されているかを、具体的な地域名をあげて説明する。	それらの証明書類を添付する。例えば、景観条例など。理想とされる実施内容と証拠書類は4ステップで①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
			方針、管理計画、法律、条例において、景観保全がどのように保障されているかについて言及する。	
8.2	Air pollution（大気汚染）	BA（ベースライン・アセスメント）に基づいて、大気汚染の影響とリスクへの適切な対策がとられている。観光が要因の大気汚染について、適切にコントロールされている。	BA(現状を把握するための基礎調査）を行い、どのような大気汚染が起きているかを確認し、明示する。	それらの証明書類を添付する。例えば、大気汚染に関する調査報告書など。その問題について、地域へ発信している新聞や広報誌にある記事などを添付する。
			その大気汚染がどのように地域として認識されているかを説明する。	

9.4	Waste water treatment（排水処理）	適切な排水処理の計画があり、人々や環境への影響が最小化されるよう関連の規制条例などが整備されている。この計画には、浄化槽の配置、保守管理、廃水の水質検査なども含まれる。	観光地においてどのように排水処理が行われているかを説明する。 最近はどのような課題があるかを説明する。 それらがどのように対応されているかを説明する。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。 住民説明会などの議事録を添付する。
10.1	Soft mobility（地球に優しい移動手段）	観光客が多いゾーンでは、（BAに基づいて）環境への影響を考慮し、環境負荷の高い交通手段を最小限に抑え、徒歩や自転車の利用を促進するソフト・モビリティ戦略がある。	移動手段についてどのような環境への悪影響があるかを説明する。改善に向けた計画などを説明する。 環境に影響の少ない乗り物やエンジンを使わない乗り物を推進することについて、どのように行動しているかを説明する。	観光計画においてソフトモビリティに関する方針が書かれている箇所などを添付する。実行計画として、ソフトモビリティの研修会やモデルツアー等を実施した場合はその報告書を添付する。
11.1	Solid waste reduction（固形廃棄物の減量）	廃棄物は適切にモニターされ、減量化、分別、リサイクル化を進めている。とくにプラスチック廃棄物の減量化に重点をおき、量的目標を設定している。	固形廃棄物の処理方法や、どのように固形廃棄物が減らされているかを説明する。 最近の課題は何かを説明する。	固形廃棄物の減量に関する資料（廃棄物処理の条例や実施計画など）を添付する。
11.2	Waste separation（廃棄物の分別）	自治体が回収する廃棄物と産業廃棄物をそれぞれ分別できる施設が備えられている。	どのような廃棄物処理のインフラが整っているかを説明する。 それらの施設はどのようなものがあるかをリストアップする。	自治体が実施する廃棄物分別表などを添付する。廃棄物処理施設のリストやWebサイトを添付する。
12.1	Energy consumption（エネルギー消費量のモニタリング）	観光地において省エネ化が進められている。住民と観光客に対し、安全性やサービスの質を落とさない範囲でエネルギー消費量の削減を推奨している。	どのようにエネルギーの消費量を減らしているかを説明する。観光協会として各事業者にガイドラインを出しているなども対象となる。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。
12.2	Reduction fossil fuel dependency（化石燃料への依存度の低減）	化石燃料への依存度を低減し、再生可能エネルギー技術を振興する適切な対策をとっている。	化石燃料への依存を減らすために、どのような対策をしているかをあげる。 どのようなステイクホルダーが関わっているかを説明する。	その法律、条例、実行計画、モニタリング結果を添付する。
14.1	Cultural heritage conservation（文化遺産の保護）	文化遺産の保護と、文化的資源（たとえば建造物とその敷地、特徴的あるいは伝統的な建築物、都市設計、独自の文化が感じられる場所、都市景観、考古学的な遺跡など）の本物の魅力や美しさを表す見せ方は、国際的に認識されている標準に基づいて適切に管理され、対策が講じられている。	このような文化遺産はどのように保護されているかを説明する。 方針、管理計画、法律、条例においてどのような悪影響が懸念されているかを書く。（対象外の場合もある。その時はN/A（Not Applicable:対象外と書く）	それらの証明書類を添付する。例えば、天然記念物の保護に関する計画など。理想とされる実施内容と証拠資料は4ステップ、①法律・条例がある、②実施計画がある、③実行している、④結果をモニタリングしている。
14.3	Managing tourism impacts on culture（文化に対する影響の管理）	文化的に価値のある場所、歴史的な建造物、文化的に重要な景観、土地利用、その土地らしさが感じられる場所においては、観光が悪影響をおよぼさないよう配慮している。破損や、損壊、価値を損なう行為は規制され、対策が講じられている。	観光地は、文化遺産の価値や「ほんもの」であることが、観光によって悪影響を受けていない状態であることを、どのように保証しているかを説明する。	文化的に価値のある場所などのリストを添付する。「悪影響を受けないことを保証している状態」を証明するのは難しいが、悪影響を受けないようにパトロールやモニタリングをしているその記録を添付するなどでも良い。
15.1	Intangible heritage（無形文化遺産の保護）	無形文化遺産や地域の生活文化を敬い、適切に保護している。	どのように無形文化遺産(お祭りやアイヌ文化等)が保護されているかを説明する。 方針、管理計画、法律、条例においてどのような悪影響が指摘されているかを説明する（対象外の場合もある。その時はN/A（Not Applicable:対象外と書く）	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。
15.2	Respecting authenticity（本物への敬意）	地域の生活文化、伝統を敬い保護し地域の行事を支援するとともに、観光はそれらを阻害しない。こうした文化や伝統を観光で見学する場合は、誠意と敬意を払っている。伝統行事を再現する場合には、真正性を重視する。	観光がその地域の生活文化に悪影響を与えないように、何をしているかを説明する。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。
16.5	Protection of people（人権の保護）	法に則り、商業的、性的、その他あらゆる形態の搾取またはハラスメントを防ぐ方針がある。特に児童、青少年、女性、マイノリティ、その他の社会的弱者に対して配慮している。	人権保護に関する最近の課題は何かを説明する。 人権保護について、方針、実施計画とその評価について説明する。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。
17.2	Residents informed about sustainable tourism（地域住民の観光への理解）	地域住民は、観光開発による機会の創出、課題、持続可能性についての議論に、定期的に参加している。	「地域住民の観光への理解」に関する方針とアクションについて説明する。	証拠書類として、住民会議や観光協会総会の議事録を添付する。
17.4	Inhabitant satisfaction（地域住民の満足度）	観光開発と観光地管理に対する住民の満足度について、定期的なフィードバックがあり、その結果は適宜報告し公開している。	地域住民の満足度はどのようにモニタリングされているかを説明する。	満足度調査の報告書や、他者(大学の研究など）が実施した研究報告書などを添付する。それが公開されているWebのリンクを張る。
17.5	Community Empowerment（地域社会の地位向上）	地域資源の運営において、地域コミュニティとの協働を積極的にはかり、観光地の内外で地域の世話役が育成されることを目指している。	観光によって、地域住民の地位向上やはどのようになされてるかを説明する。	世話役として活動している人、候補者のリストがある。地域活動の記録や、地位向上と考えられる調査結果を添付する。
18.1	Optimising private sector contribution（民間部門の貢献）	民間部門が地域経済に貢献できるよう対策を講じている。とくに地元の中小企業に対し、配慮と支援を行っている。	地域の起業家をどのようにサポートしているかを説明する。自治体の制度や、商工会の支援事業や制度も対象と考えられる。	商工会の支援事業のチラシや、実績を添付する。
18.2	Promoting local products and services（地域の特産や特色あるサービスの奨励）	フェアトレードの方針に基づき、観光のバリューチェーンに地元の職人、生産者、サービス提供者を加えることを支援している。地域の自然や文化、地域性、地域経済に貢献する特産品と持続可能な商品を奨励している。この中には食品、飲料、工芸品、芸能、農産品なども含まれる。	経済貢献に留まらず、どのような「地域に責任ある貢献」がなされているかを説明する。適切な対価を払うことで職人の技術を継承するなども想定される。	DMOや観光協会でガイドラインなどがあれば添付する。個別の活動の場合は、その記録やイベントのチラシなどを添付する。

19.1	Optimizing social impacts（社会に与える影響の最適化）	旅行者が、地域住民や他の旅行者に与える影響について適切にモニタリングし、旅行者の地域経済への貢献を最大化させる手段を講じている。	旅行者の不適切な行動を最小化する方策を説明する。研究機関との共同研究や、大学生の論文のテーマとして取り上げてもらうことも考えられる。 旅行者の地域経済への貢献を最大化する方策を説明する。 それらをどのようにモニタリングしているかを説明する。	調査報告書を添付する。
19.2	Real estate exploitation（不動産開発）	不動産開発が地域社会に与える影響について適正にモニタリングしており、地域経済への貢献を最大化させる手段を講じている。	不動産開発の現状について説明する。 負の影響をどのように回避しているかを説明する。（対象外の場合もある。その時はN/A（Not Applicable:対象外と書く）	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。
20.10	Health & safety prevention and responce（健康と安全の為の対策と対応）	犯罪、違法行為、健康被害、あらゆる危険に適切な対応ができるよう、情報提供を行っている。	現状の犯罪、安全、健康に関するリスクをあげる。 それらを防ぐためにどのような対策が取られているかを説明する。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。
21.1	Sustainability standards（持続可能性の基準）	GSTCの観光産業向け指標に準拠した国際的に認知されている持続可能性の基準を、観光地やビジネス部門が推進している。	民間事業者に対して、どのように持続可能性の基準を推進しているかを説明する。	GSTCの研修会に参加した人のリストや、それ以外の研修会の実施報告書を添付する。
22.3	Visitor behavior at sensitive sites（配慮が必要な観光地における旅行者の行動）	配慮が必要な観光地への悪影響を最小限にとどめ、旅行者のふさわしい行動を促すためのガイドラインが作成されており、入手可能である。ガイドライン作成には、地元のステイクホルダーが関わっている。	配慮が必要な観光地でどのように旅行者の行動が管理されているかを説明する。	①法律・条例、②実行計画、③実行、④モニタリング結果などの書類を添付する。

阿寒湖温泉についてもニセコ町同様に今後取り組む上では、下記について留意し具体的なアクションプランの策定に向けて取り組まれることを期待する。

ヒアリング時に得られた情報から具体的なアクションプランに含めたい要素
・阿寒湖温泉においては、阿寒湖のまりもを復活させた取り組みや、まりもと共存する地域として水資源やその他の環境資源に関する取り組みをしてきた実績がある為、それらを「見える化」することが必要。 ・アクションプランに策定される内容の多くは町の観光振興計画や観光を含む釧路市や DMO の長期計画に集約されている必要がある。 ・地域内に環境省阿寒摩周国立公園が存在し、その資源保全の為の条例等がある為、そうした条例や条例に紐づく取り組みもアクションプランに含められると考える。文化財保護法に準拠した取り組み等もこれにあたる。こうした条例等への対応は観光行政の管理下にあるとは限らない為、各幹事課や関係行政との連携も必要となる。 ・環境資源保護について「猛禽類保護の取り組みがある」「えぞしか管理」や「ひぐま対応マニュアルがある」等もこれにあたる。 ・地域の不動産管理や文化財保護の取り組みとして、前田一歩財団の取り組みやアイヌ文化への取り組みなども含めることができる。 ・「まりも保護会がある」「地域の子どもたちに対して継続に実施している学習」等、地域内に資源の持続可能性を担保しようとする活動がある場合、これも取り組みとしてアクションプランに含められる。この場合、活動の証跡等がその実績に値する。 ・天然資源に関しては、阿寒湖へ注ぐ水源や「くしろ阿寒百年水」等の水源に関する取り組み等、水源や水産資源に関する取り組みも条例や実績等を含めることができる。 ・地域の事業者においては、阿寒湖の環境資源に配慮したカムイルミナ等の運営方針や計画、実績記録などもアクションプランに反映することができる。 ・サービス業において、域内調達率や顧客へ提供する価値について一定のガイドライン等に沿った制限遵守、品質管理などを実施している場合も取り組みとして含めることができる。

また、ヒアリングの場では、阿寒湖温泉から今後検討を進めるにあたり、何らかの認証は取得したい意向はあるが、今回の事業をきっかけに GSTC 基準で認証取得を目指すのか、現在検討中の日本版指標を待つのかについて議論となった。釧路市および DMO の NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構としては、日本版指標が策定されていないヒアリング時点では、GSTC 基準で認証取得を目指した場合の対応コスト（人や予算）や時間、取得した場合の効果、日本版指標へはどう対応できるのか等を総合的に考え、今後の情報収集に努め、阿寒地域としての進め方について判断したいとの結論に至った。

４．ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業

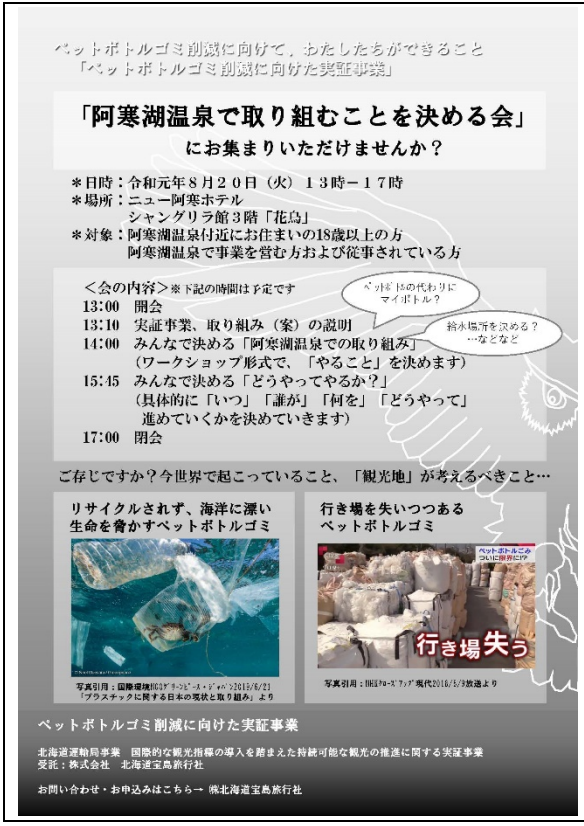
ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業においては、事業の前提として阿寒湖温泉側の実施意欲の高まりがあったことから、地域側の意向を反映する形で、実証事業を実施することとした。

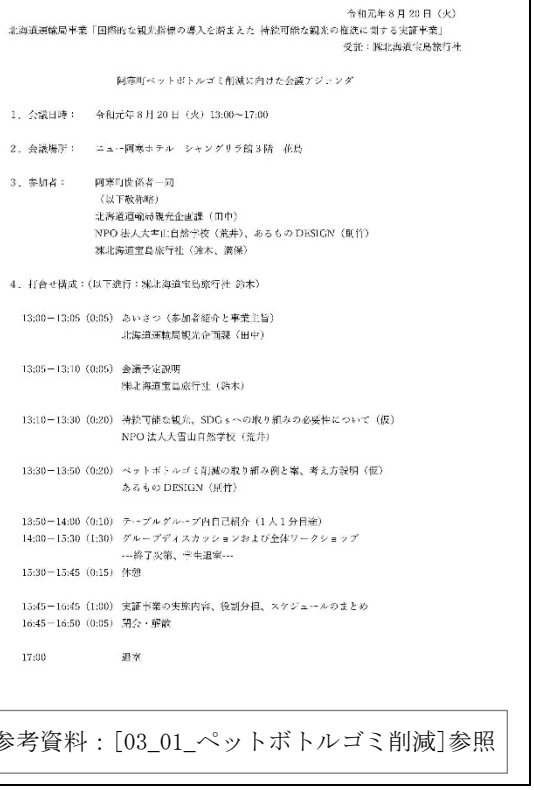
(1) 実証事業内容の検討プロセス

7 月 17 日に実施した、GSTC トレーニングやアクションプラン案作成を含む本事業の事前説明の場においても参集された方々より本事業の提案段階での案を踏まえ取り組みの方向性について下記の意見をいただいていたが、これらの意見を踏まえ地域でできることを考える場として、下記のとおり 8 月 20 日に「阿寒湖温泉で取り組むことを決める会」として実施した。

事前説明会（7/17）の場で得られた意見	
8 月 20 日の全体 WS・検討会について	・大学生等若手に参加してもらえることについて賛成する。 ・地域内の参加者については、観光協会から参集をかける。
給水スポットの取り組みについて	・給水スポットの取り組みについて賛成する。継続的に実施するには無料で展開はできないかもしれない。有料で展開するには外国人向けにはいいかもしれないが、日本人向けには難しい。 ・給水スポットの取り組みはどこでやるかについて協議が必要。
取り組み全体について	・こうした取り組みを実施するにあたって、いつも観光サイドだけで進めてしまう傾向にある為、地域の人を巻き込んだ取り組みにしたい。

＜8 月 20 日阿寒町で取り組むことを決める会の地域案内用チラシと当日アジェンダ＞




令和元年８月20日（火）
北海道運輸局事業「国際的な観光指標の導入を踏まえた 持続可能な観光の推進に関する実証事業」
受託：㈱北海道宝島旅行社

阿寒町ペットボトルゴミ削減に向けた会議アジェンダ

1．会議日時：　令和元年８月20日（火）13:00～17:00

2．会議場所：　ニュー阿寒ホテル　シャングリラ館３階　花鳥

3．参加者：　阿寒町役場各一司
（以下敬称略）
北海道運輸局観光企画課（田中）
NPO法人大雪山自然学校（荒井）、あるものDESIGN（眞竹）
㈱北海道宝島旅行社（鈴木、満保）

4．打合せ構成：（以下進行：㈱北海道宝島旅行社 鈴木）

13:00－13:05（0:05）あいさつ（参加者紹介と事業主旨）
北海道運輸局観光企画課（田中）

13:05－13:10（0:05）会議予定説明
㈱北海道宝島旅行社（鈴木）

13:10－13:30（0:20）持続可能な観光、SDGｓへの取り組みの必要性について（仮）
NPO法人大雪山自然学校（荒井）

13:30－13:50（0:20）ペットボトルゴミ削減の取り組み例と案、考え方説明（仮）
あるものDESIGN（眞竹）

13:50－14:00（0:10）テーブルグループ内自己紹介（１人１分目途）
14:00－15:30（1:30）グループディスカッションおよび全体ワークショップ
---終了次第、学生退室---
15:30－15:45（0:15）休憩

15:45－16:45（1:00）実証事業の実施内容、役割分担、スケジュールのまとめ
16:45－16:50（0:05）閉会・解散

17:00　退室

参考資料：[03_01_ペットボトルゴミ削減]参照

大学生等若手の参加者については、ある程度地域への思い入れを感じていると思われる近隣地域の大学のうち、地域振興やコミュニティ等に興味のある学生を対象に声掛けを行うこととした（釧路公立大学）。また、阿寒地域内の観光関係者を含む地域事業者や住民等を巻き込むにあたり、前提として取り組みの必要性について理解が必要である為、SDG s の視点や持続可能な観光の推進、ペットボトルゴミの現状についてのセミナーを含めた形式にて実施した。

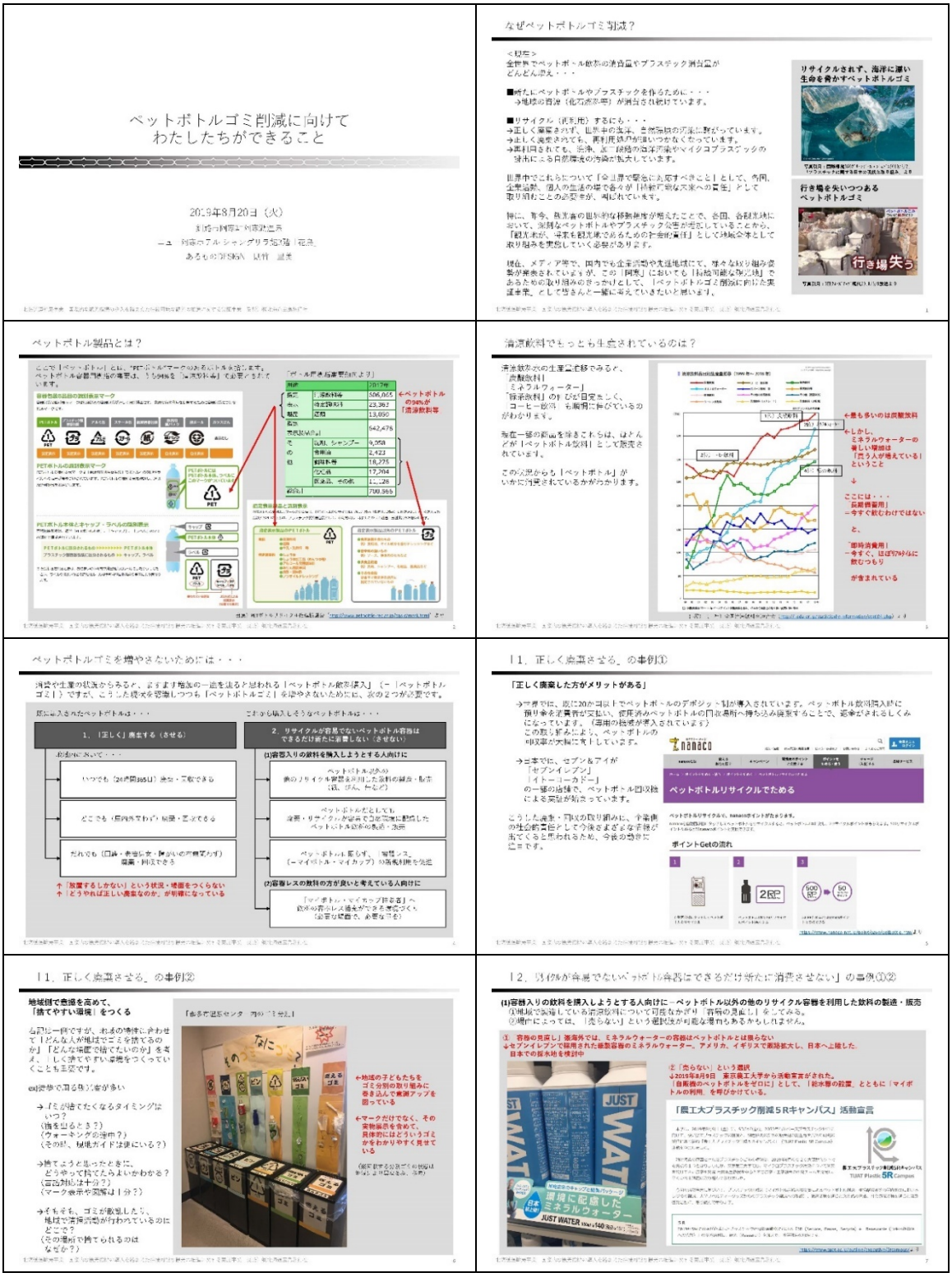
① セミナー（持続可能な観光、SDGｓへの取り組みの必要性について）

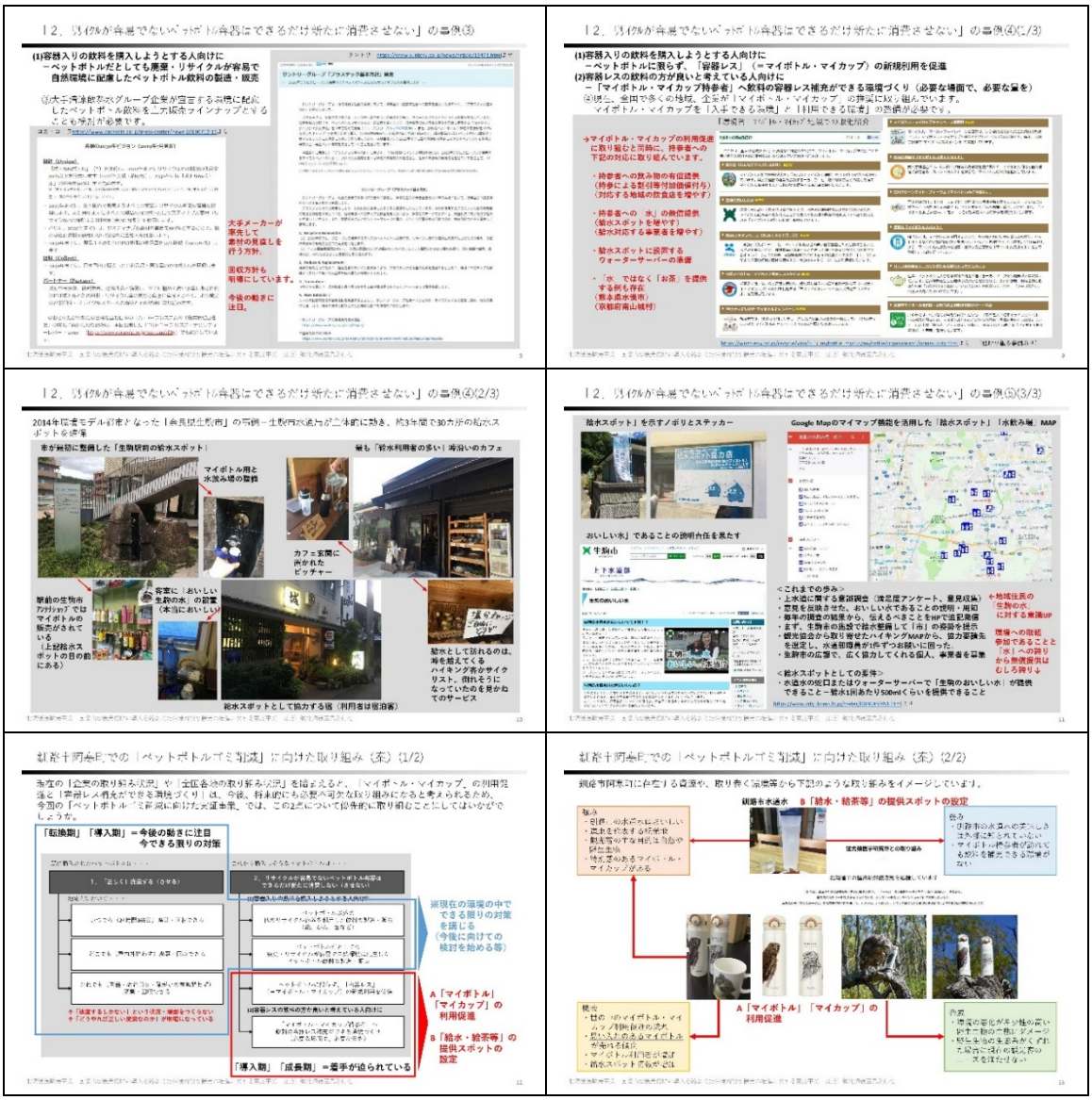
セミナーでは、本事業の GSTC トレーニング講師でもある荒井氏が講師を務めた。参加者全員で共通認識を持たせる為、SDGｓについての説明に始まり、SDGｓ17 の目標のうち、持続可能な観光がどう位置づけられるかについても説明がなされた。現在、世界中から選ばれる観光地の要件として「持続可能な観光地域づくりがなされている」という現状を踏まえ「持続可能な観光地」である為の取り組みが必要であることを説明した。



② ペットボトルゴミ削減の取り組み例と案、考え方説明

セミナー後、なぜペットボトルゴミ削減の意識が必要なのかについて説明を行い、取り組み例の提示や考え方を整理しワークショップに繋げた。ペットボトルゴミ削減といった場合に、「ペットボトル飲料自体を否定する」という極論に行きつくことのないよう、「無責任な廃棄を減らしリサイクル可能な流れを作ること」の必要性についても説明し、また「シングルユース資源の消費をしない」と決めている人への対応策として給水スポットの有効性について説明した。





取り組みの案としては、まず着手可能なこととして、「マイボトルの利用促進」「給水等の提供スポットの設定」とすることを提案した。マイボトル利用促進では、阿寒地域の自然資源と親和性の高い「猛禽類医学研究所」の取り組みを紹介した。

③ グループディスカッションおよび全体ワークショップ

まず、着手できる案として提示した取り組み案をもとに、グループディスカッションを行い、全体での意見交換を行った。その様子について以下に記載する。





今回、夏休み期間にて集まりにくいと思われた学生等若手の参加については、釧路公立大学から学生 2 名が参加するに至り、グループワークや全体ワークショップに参加し、地域に在住してはいないものの真摯に阿寒湖温泉の立場で考え積極的な発言が見られた。また猛禽類医学研究所からも 1 名参加があり、こうした外部からの積極的な発言や思考に触発され、各グループでの協議の様子は非常に前向きなものであったと思われる。全体ワークショップを経て、実証事業では「マイボトル利用者を増やす」「マイボトル利用者に対して「飲める・汲める」場所を増やす」「ペットボトルゴミやゴミ全般について正しい廃棄やリサイクルについて地域の意識を上げる」の 3 点で実施していくことが決定し、今後受託者側より具体的な事業案を提示する流れとなった。

ワークショップの結果については、参加者に送付し欠席者への対応や地域内への声掛けを依頼した。また具体的な実施内容については、次回参集の場（10 月 24 日）にて提示し、決定することとした。

（参考資料：[03_01_ペットボトルゴミ削減]参照）

④ 実証内容に関する会議（10 月 24 日）

実証内容について決める場として 10 月 24 日にニュー阿寒ホテルにて会議を実施した。

実証内容については、以下資料のとおり整理し次の 3 点について実施する案を提示した。

実証内容案	
(1)給水スポットに「美味しい」「飲める」が伝わる案内表示を設置する	・「美味しい」「飲める」は「ご当地名水的表示」で解決 ・給水スポットに案内設置 ・宿泊施設にＰＯＰ設置 ・「アプリ」への登録で地域外からも検索可能にする Ex)Refill My Bottle/MyMizu アプリ
(2)猛禽類医学研究所とサーモスコラボのマイボトルの展示販売	・コラボボトルの催事販売とくしろ阿寒百年水試飲ｲﾍﾞﾝﾄｱﾝｹｰﾄ回答者へのﾎﾞﾄﾙ抽選ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾄ(10 名) Ex)氷上ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ初日 2/1 予定 ・コラボボトルの常設販売
(3)「飲める」「汲める」ことがわかる案内表示を宿内や地域内に設置	・地域内でどこで給水が可能かの表示 ・ＱＲマップコード表示のある展示(ローソン等コンビニエンス店舗、観光協会、その他) ・宿泊施設のフロントにＰＯＰ設置

（参考資料：[03_02_ペットボトルゴミ削減]参照）





会議では、特に宿泊事業者から訪日外国人との接客が多いことから、給水スポットや汲めることのアピールは必要との意見が挙がった。POP 等で「くしろ阿寒百年水」と PR していくことについて参加者全員に異論はなく、給水スポットとしてまず協力できる場所と給水スポットに設置するデザイン、また MAP の案内様式も提示案のとおり決定した。マイボトル利用者を増やす取り組みであり、地域の野生生物を保護することにも繋がる猛禽類医学研究所のマイボトルについては、まずは観光協会（阿寒湖まりむ館）で常設展示販売していくこととし、「くしろ阿寒百年水」の PR とマイボトルの催事販売のイベントについても実施することとなった。

その他会議で挙げられた声や会議の様子について以下に記載する。

実証内容案
・社長がすでにﾏｲﾎﾞﾄﾙを利用しており、またﾁｪｯｸｱｳﾄ時にｲﾝﾊﾞｳﾝﾄﾞ観光客からは水の補充ﾆｰｽﾞがある。そうした声に応えられるようにしたい。（宿泊事業者） ・阿寒湖温泉が目指すのは、お客様を取り込むだけでなく地域で環境教育に向かっていきたいと思っている。（阿寒温泉女子部まりもクラブ） ・給水スポット以外にもﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙｺﾞﾐが湖に浮かんでいることがある為、そうならないよう持ち込み禁止ﾙｰﾙなどｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝを策定したい。（宿泊事業者） ・こうした取り組みが話し合いだけでなく何か結果を残していきたい。（宿泊事業者）



(2) 実証事業の実施結果

① 給水スポットに「美味しい」「飲める」が伝わる案内表示を設置する

給水スポットはまず始めに協力できる場所として下記の場所が挙げられたが、冬季に閉鎖するスポットもあることから、夏季と冬季（通年）に分けて選定した。

夏季（概ね 5 月～10 月）	冬季（概ね 11 月～4 月）および通年
阿寒湖まりむ館 阿寒湖アイヌシアター「イコロ」 阿寒湖バスセンター 阿寒湖畔エコミュージアムセンター 阿寒湖畔キャンプ場 阿寒湖温泉第１駐車場 阿寒湖温泉第２駐車場	阿寒湖まりむ館 阿寒湖アイヌシアター「イコロ」 阿寒湖バスセンター

提供方法については、実証期間において機材投資は難しいことから現時点で飲用可能な水道や既存の給水器を使用することとした。来訪者から給水スポットとして認識してもらう為に「給水スポット」「給水所」などの記載はせず、「美味しい」「飲める」がわかる案内表示を設置することとし、統一デザインのもと屋外設置用と屋内設置用の 2 種類を用意した。



ア．阿寒湖まりむ館での掲示（通年）





イ．阿寒湖アイヌシアター「イコロ」での提示（通年）





ウ．阿寒湖バスセンターでの掲示（通年）





夏季、冬季問わず案内掲示については、水場での掲示となり時間経過とともに劣化することが想定される。その為、地域で差し替えができるようデザイン様式を地域側へ提示した。

エ．阿寒湖畔エコミュージアムセンターでの提示（夏季の使用イメージ）





オ．阿寒湖温泉第１駐車場での掲示（夏季の使用イメージ）

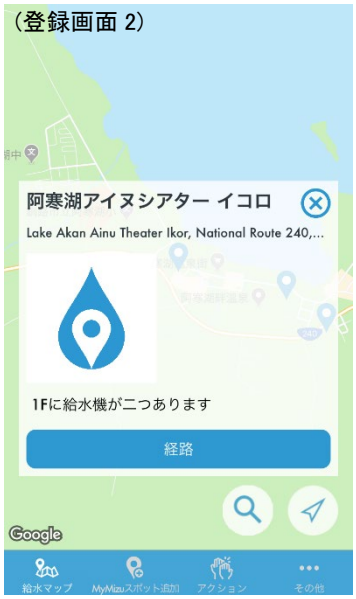


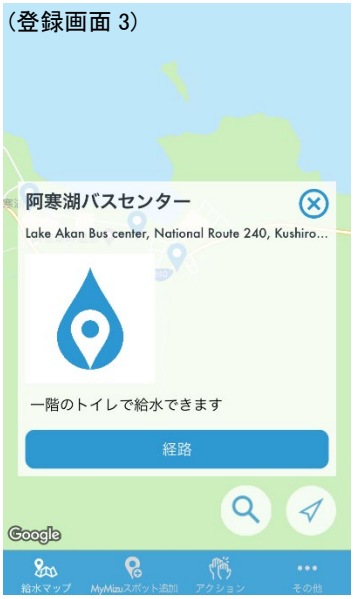


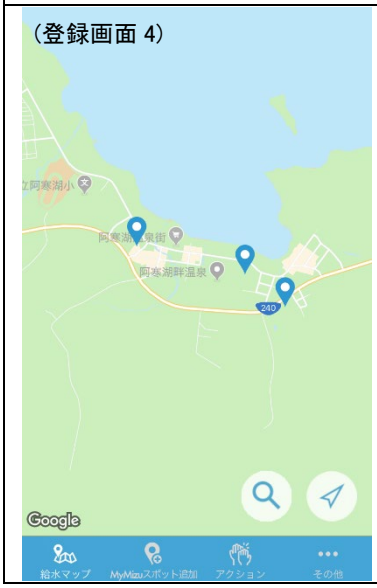
案内掲示日程が、10 月下旬から 11 月初旬を予定していた為、冬季閉鎖となる直前に掲示イメージを確認した。給水スポットでの案内については上記のとおりであるが、事前に給水スポットを探したい場合に備え、「給水スポットが表示されるアプリ」への登録を行った。

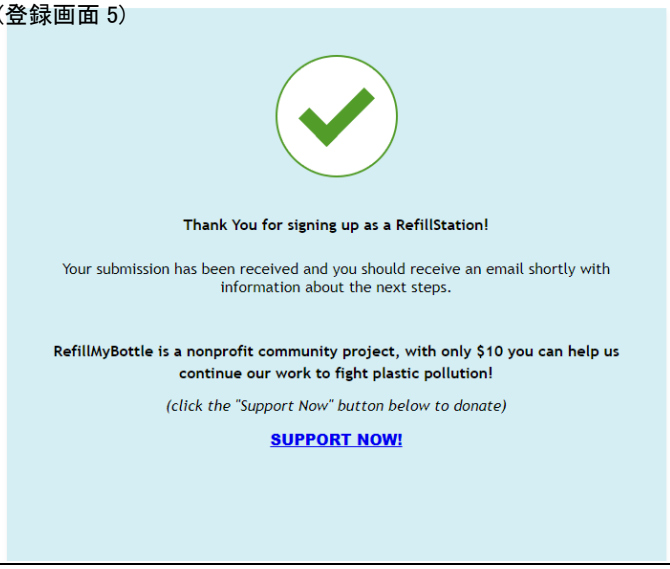
登録は、「Refill My Bottle」アプリ(以下登録画面 5)と「MyMizu」アプリ(以下登録画面 1～4)に対して実施した。











② 猛禽類医学研究所とサーモスコラボのマイボトルの展示販売

マイボトルの利用促進の一環で行う、猛禽類医学研究所とサーモスのコラボレーションマイボトルは、売上の一部が猛禽類医学研究所における希少猛禽類の保護活動に充てられる。阿寒湖温泉地域においてもシマフクロウやオジロワシといった希少猛禽類の飛来生息地域であり、これらを目的に道東ルートを周遊する観光客も多く存在する為、持続可能な観光地域づくりという意味でもマイボトルの利用促進という意味でも親和性が高いと考え、この取り組みをきっかけに展示販売を行うに至った。展示販売は通年販売する常設展示と一時的な催事展示で行うこととした。

ア．常設展示

常設展示は、まず始めに実施する場所として「阿寒湖まりむ館（観光協会カウンター)」とした。



設置した 11 月初旬当初、阿寒湖まりむ館の 1 カ所だけで始めたが、10 月 24 日の会議で参加した宿泊事業者（鶴雅グループ、ホテル阿寒湖荘）が売店で取り扱うことを決め、その後地域内で続々と取扱い事業者が出始めている。令和 2 年 2 月時点では以下の事業者により取扱いがなされ、常設展示場所は 7 カ所に増加した。

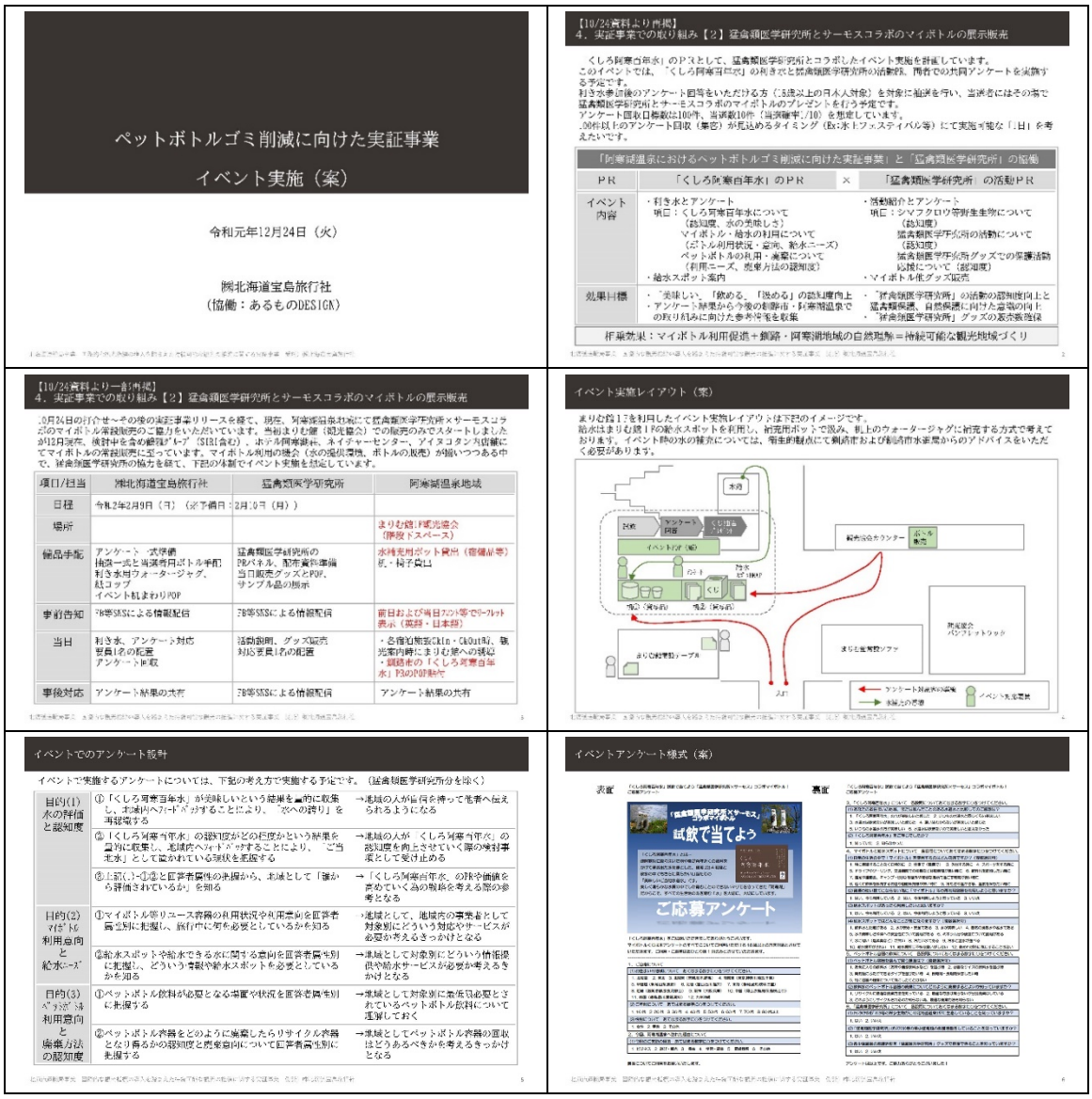
11 月時点の取り扱い事業者（1 件）
阿寒湖まりむ館

2 月時点の取り扱い事業者（7 件）
阿寒湖まりむ館、あかん湖鶴雅ウィングス内売店、鶴雅ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰﾍﾞｰｽ「SIRI」、 ホテル阿寒湖荘、阿寒ネイチャーセンター、チニタ民藝店、新妻商店

イ．催事展示

「くしろ阿寒百年水」が「美味しい」「飲める」「汲める」ことの認知度向上と猛禽類医学研究所の活動認知度向上、マイボトル利用や自然保護の意識向上を目指した試飲イベントを行うことについて阿寒湖温泉地域と相談し実施することとした。

（参考資料：[03_04_ペットボトルゴミ削減]参照）



試飲イベントは以下の日程・体制のもと実施した。

日程	令和２年２月１日(土)14:00－18:00、２月２日（日）10:00－12:00	
場所	阿寒湖まりむ館１Ｆフロア	
体制	所属	役割
	㈱北海道宝島旅行社	・イベント準備と当日の来訪者対応
	あるもの DESIGN	・イベント体制調整と POP・ｱﾝｹｰﾄ類準備
	NPO 法人大雪山自然学校	・イベント備品協力
	猛禽類医学研究所	・イベント準備と当日の来訪者対応
	釧路市	・会場控室準備、実施場所調整、当日運営補助
	NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構	・実施場所調整、補助要員調整、当日運営補助
	阿寒湖温泉地域（宿泊事業者等）	・当日のイベント案内、誘導、当日運営補助

試飲イベントの地域内での誘導用 POP 日本語版と英語版を準備し以下のとおりとした。



会場での POP も日本語版と英語版を準備し貼付した。

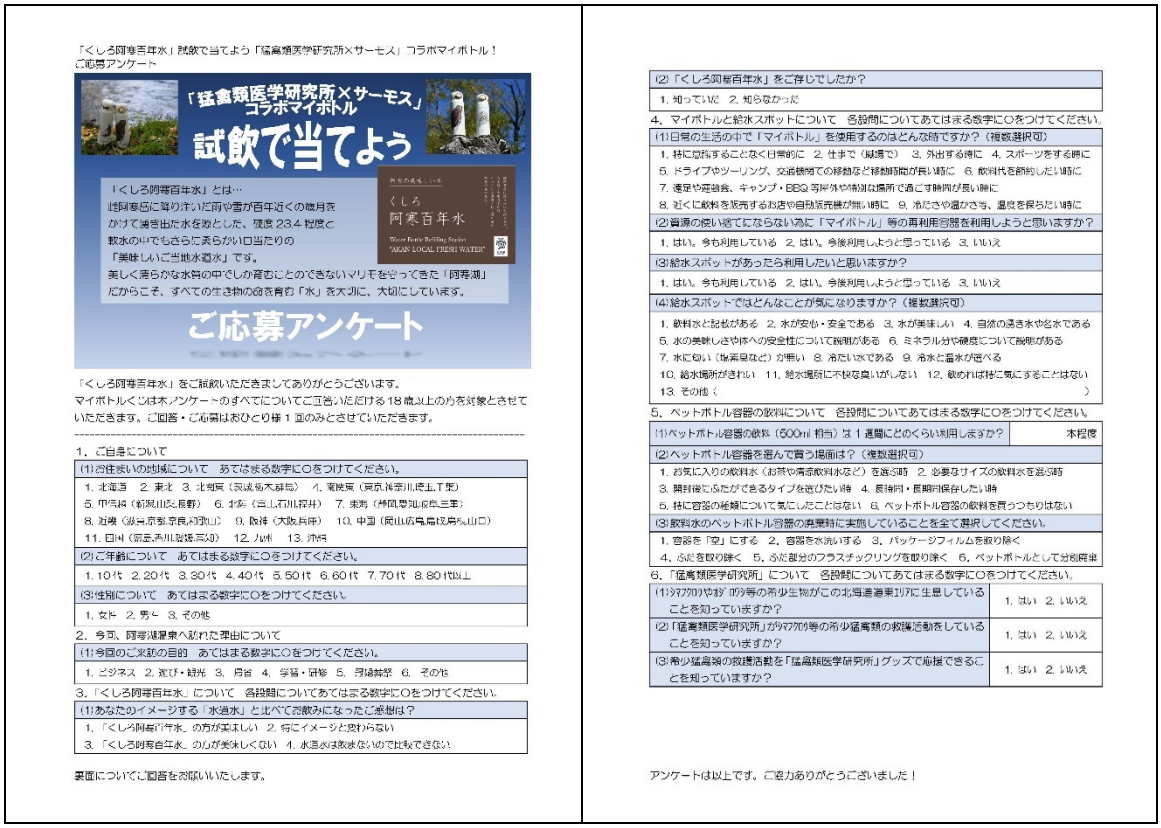


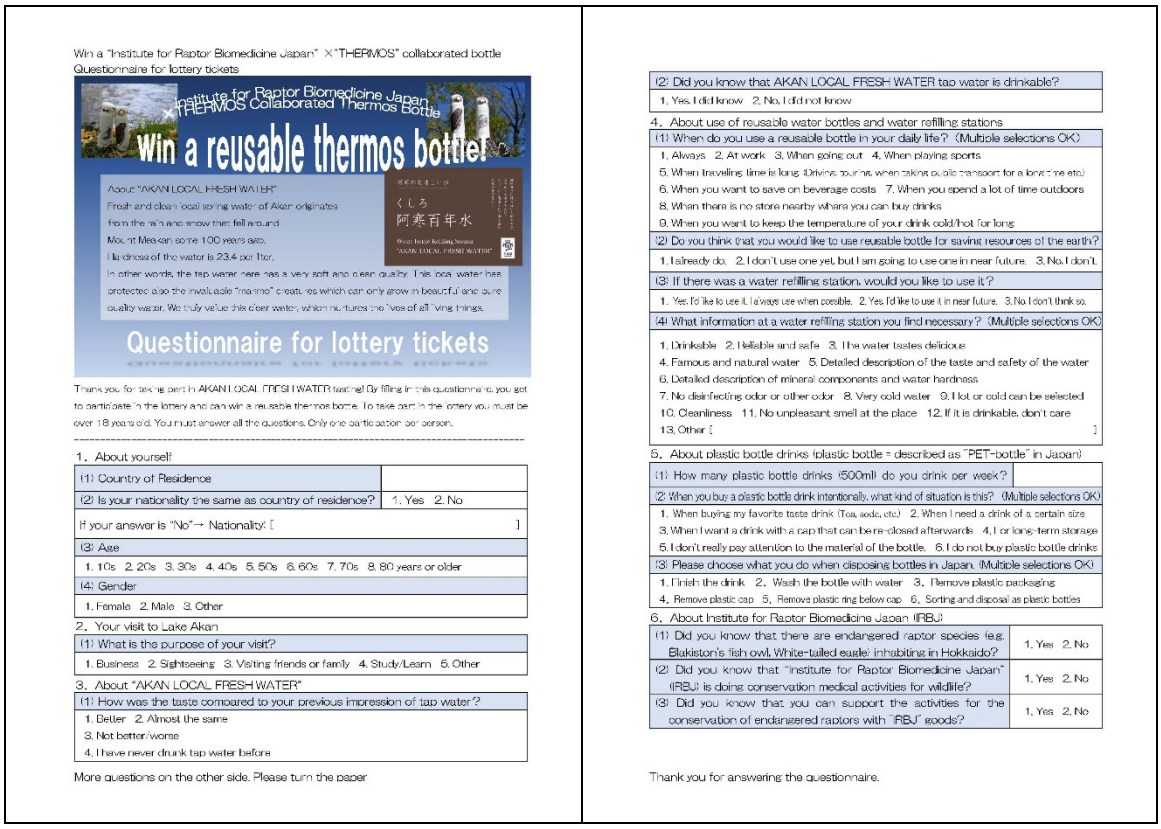
誘導用ではイベント実施の周知とともに「イベントの場所がわかる」表示とし、会場用は「外れても買うことができる」ことを PR した。

また、会場ではプレゼントとなる現物がいかに魅力的か、価値のあるものかについて見せ、試飲およびアンケート回答を促すとともに、買える場所についても以下のとおり情報提供した。



試飲後のアンケート様式については、A4 サイズ両面にて以下のとおり日本語版と英語版を準備した。





Win a "Institute for Raptor Biomedicine Japan" ×"THERMOS" collaborated bottle
Questionnaire for lottery tickets

Institute for Raptor Biomedicine Japan ×THERMOS Collaborated Thermos Bottle

Win a reusable thermos bottle!

About "AKAN LOCAL FRESH WATER"
Fresh and clean local spring water of Akan originates from the rain and snow that fell around Mount Meakan some 100 years ago.
Hardness of the water is 23.4 per liter.
In other words, the tap water here has a very soft and clear quality. This local water has protected also the invaluable "marimo" creatures which can only grow in beautiful and pure quality water. We truly value this clear water, which nurtures the lives of all living things.

くしろ 阿寒百年水

Questionnaire for lottery tickets

Thank you for taking part in AKAN LOCAL FRESH WATER tasting! By filling in this questionnaire, you get to participate in the lottery and can win a reusable thermos bottle. To take part in the lottery you must be over 18 years old. You must answer all the questions. Only one participation per person.

1. About yourself

(1) Country of Residence	
(2) Is your nationality the same as country of residence?	1. Yes 2. No
If your answer is "No"→ Nationality: [ ]	
(3) Age	
1. 10s 2. 20s 3. 30s 4. 40s 5. 50s 6. 60s 7. 70s 8. 80 years or older	
(4) Gender	
1. Female 2. Male 3. Other	

2. Your visit to Lake Akan

(1) What is the purpose of your visit?
1. Business 2. Sightseeing 3. Visiting friends or family 4. Study/Learn 5. Other

3. About "AKAN LOCAL FRESH WATER"

(1) How was the taste compared to your previous impression of tap water?
1. Better 2. Almost the same 3. Not better/worse 4. I have never drunk tap water before

More questions on the other side. Please turn the paper

(2) Did you know that AKAN LOCAL FRESH WATER tap water is drinkable?	
1. Yes, I did know 2. No, I did not know	

4. About use of reusable water bottles and water refilling stations

(1) When do you use a reusable bottle in your daily life? (Multiple selections OK)
1. Always 2. At work 3. When going out 4. When playing sports 5. When traveling time is long (Driving tourism, when taking public transport for a long time etc) 6. When you want to save on beverage costs 7. When you spend a lot of time outdoors 8. When there is no store nearby where you can buy drinks 9. When you want to keep the temperature of your drink cold/hot for long
(2) Do you think that you would like to use reusable bottle for saving resources of the earth?
1. I already do. 2. I don't use one yet, but I am going to use one in near future. 3. No, I don't.
(3) If there was a water refilling station, would you like to use it?
1. Yes, I'd like to use it. I always use when possible. 2. Yes, I'd like to use it in near future. 3. No, I don't think so.
(4) What information at a water refilling station you find necessary? (Multiple selections OK)
1. Drinkable 2. Reliable and safe 3. The water tastes delicious 4. Famous and natural water 5. Detailed description of the taste and safety of the water 6. Detailed description of mineral components and water hardness 7. No disinfecting odor or other odor 8. Very cold water 9. Hot or cold can be selected 10. Cleanliness 11. No unpleasant smell at the place 12. If it is drinkable, don't care 13. Other [ ]

5. About plastic bottle drinks (plastic bottle = described as "PET-bottle" in Japan)

(1) How many plastic bottle drinks (500ml) do you drink per week?	
(2) When you buy a plastic bottle drink intentionally, what kind of situation is this? (Multiple selections OK)	
1. When buying my favorite taste drink (Tea, soda, etc) 2. When I need a drink of a certain size 3. When I want a drink with a cap that can be re-closed afterwards 4. For long-term storage 5. I don't really pay attention to the material of the bottle. 6. I do not buy plastic bottle drinks	
(3) Please choose what you do when disposing bottles in Japan. (Multiple selections OK)	
1. Finish the drink 2. Wash the bottle with water 3. Remove plastic packaging 4. Remove plastic cap 5. Remove plastic ring below cap 6. Sorting and disposal as plastic bottles	

6. About Institute for Raptor Biomedicine Japan (IRBJ)

(1) Did you know that there are endangered raptor species (e.g. Blakiston's fish owl, White-tailed eagle) inhabiting in Hokkaido?	1. Yes 2. No
(2) Did you know that "Institute for Raptor Biomedicine Japan" (IRBJ) is doing conservation medical activities for wildlife?	1. Yes 2. No
(3) Did you know that you can support the activities for the conservation of endangered raptors with "IRBJ" goods?	1. Yes 2. No

Thank you for answering the questionnaire.

会場設営は以下のとおりとした。協働者である猛禽類医学研究所の協力により大型パネルやディスプレイ備品なども置かれ、コンパクトながらもイベントブースらしさは創出することができた。イベント当日は中国の春節にあたる日程であったが、中国で発生した新型コロナウィルスの予防対策としてアルコール消毒の準備やマスク装着など関係者全員で衛生面への配慮を行い設営に臨んだ。



試飲イベントの様子について以下に記載する。阿寒観光協会まちづくり推進機構の協力も得て、阿寒湖まりむ館を訪れた全ての人に対して、イベントブースへの誘導を行いほぼ 100%の人に試飲および試飲後のアンケートの協力が得られた。



阿寒湖温泉全体として本来であれば阿寒湖氷上フェスティバルが開始され、冬の阿寒を楽しむ観光客で賑わう想定であったが、新型コロナウィルスによる影響を受け、中国からの団体旅行客の一斉キャンセルや自粛によるキャンセルが相次ぎ、イベント当日の客足は例年に比べ非常に少ない状態となっていた。

一部の外国人や道内観光客など、比較的来訪しやすかった観光客がイベント会場に訪れたが、それぞれが楽しんで参加され、当りが出たタイミングでは会場内に歓声が上がった。



今回のイベントへの参加者は以下のとおりとなった。当初予定した試飲協力者および回答数100 人は観光客の減少により達成することができなかった。また、様々な地域からの観光客を想定していたが上記事情により地域に偏りのあるサンプル数となった。　（以下整数：人）

国籍	居住地	試飲協力者数	ｱﾝｹｰﾄ回答数	回答回収率
国内	北海道	63	63	100.0%
	東北	1	1	
	南関東	5	5	
	東海	1	1	
	（国内 計）	70	70	
国外	China（中国）	11	11	
	Hongkong（香港）	1	1	
	Indonesia（ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ）	2	2	
	Thailand（タイ）	1	1	
	France（フランス）	2	2	
	Japan（日本）	3	3	
	（国外 計）	20	20	
	総計	90	90	100.0%

今回のイベントでは、前述で示した相乗効果として期待した直接的な目的以外に、アンケートの設問項目から来訪者自身が「自らを取り巻く課題や自らのあるべき姿」を感じ取ることができ、こうしたイベントを実施していること自体が、来訪者側から見た場合に「あるべき地域の姿」として阿寒湖温泉地域を高く評価した可能性がある。少なくとも上記 90 名は「くしろ阿寒百年水」の美味しさを認識し、マイボトル利用や自然保護、持続可能な社会の一員であること等、各個人の意識に何らかの変化があったと期待したい。

アンケートの結果詳細については、以降「(3)阿寒湖地域に向けての提言」にて記載する。

③ 「飲める」「汲める」ことがわかる案内表示を宿内や地域内に設置

11 月 20 日より給水スポットとして 3 箇所（阿寒湖まりむ館、阿寒湖ｱｲﾇｼｱﾀｰ「ｲｺﾛ」、阿寒湖ﾊﾞｽｾﾝﾀｰ）を選定し、地域内の給水スポットがどこにあるかを地域内で知らせる方法として、以下の給水スポット MAP を地域内に設置した。MAP には QR コードを記載し、スマートフォンで読み取れるようにした。MAP を設置するにあたっては、阿寒湖まりむ館（観光協会）での案内の他、阿寒湖地域内に 2 店舗あるローソンにて展示協力を得た。ローソン等コンビニエンスストアは、オーナーの判断で決定できることに制限がある為、阿寒湖地域のローソン 2 店舗での協力については、ローソン北海道本部と調整し了解を得た。



2 月 1 日～2 日に開催した試飲イベントのアンケートの結果、「くしろ阿寒百年水」の美味しさが認識されたことや給水スポットの利用が高評価であったから、翌年 5 月以降は新たに 4 箇所（阿寒湖畔ｴｺﾐｭｰｼﾞｱﾑｾﾝﾀｰ、阿寒湖畔ｷｬﾝﾌﾟ場、阿寒湖温泉第 1 駐車場・第 2 駐車場）設置し、合計 7 箇所に拡大する予定である。

案内表示の掲示状況については、下記のとおりとなっている。



給水スポット MAP については、今後宿泊事業者や地域事業者、他のコンビニエンスストアでの掲示協力等、地域内で拡がっていくことを期待する。

(3) 阿寒湖地域に向けての提言

① 試飲イベントのアンケート結果

2 月 1 日、2 日に実施した試飲イベントのアンケート結果について以下に記載する。

ア．回答者の属性（居住地と国籍と年代）

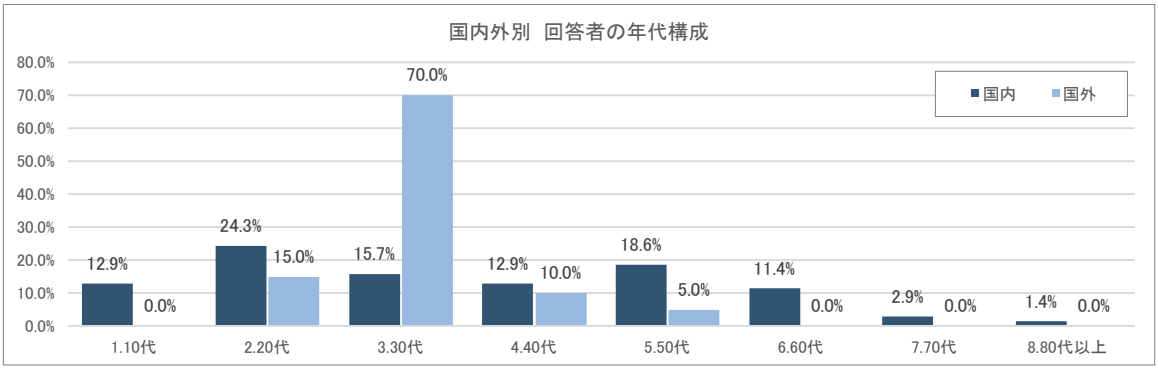
（表 4-1）　（以下単位：人）

区分	現住所・地域	国籍	1.10代	2.20代	3.30代	4.40代	5.50代	6.60代	7.70代	8.80代以上	総計
国内			9	17	11	9	13	8	2	1	70
	1.北海道	---	9	13	11	8	12	7	2	1	63
	2.東北	---	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	4.南関東	---	0	4	0	1	0	0	0	0	5
	7.東海	---	0	0	0	0	0	1	0	0	1
国外			0	3	14	2	1	0	0	0	20
	China	China	0	2	8	0	1	0	0	0	11
	Hongkong	Hongkong	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	Indonesia	Indonesia	0	0	1	1	0	0	0	0	2
	Thailand	Thailand	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	France	France	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	Japan	Germany	0	0	1	0	0	0	0	0	1
		Spanish	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		U.S.A	0	0	1	0	0	0	0	0	1
総計			9	20	25	11	14	8	2	1	90

（表 4-2）　（以下単位：人/構成比は回答数 90 名に占める割合）

区分	現住所・地域	性別	1.10代	2.20代	3.30代	4.40代	5.50代	6.60代	7.70代	8.80代以上	総計	構成比
国内	国内　計		9	17	11	9	13	8	2	1	70	77.8%
		1.女性	4	7	6	5	4	2	2	0	30	33.3%
		2.男性	4	10	5	4	9	6	0	1	39	43.3%
		9.無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	北海道		9	13	11	8	12	7	2	1	63	70.0%
		1.女性	4	6	6	4	4	2	2	0	28	31.1%
		2.男性	4	7	5	4	8	5	0	1	34	37.8%
		9.無回答	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
	東北		0	0	0	0	1	0	0	0	1	1.1%
		1.女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2.男性	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1.1%
	南関東		0	4	0	1	0	0	0	0	5	5.6%
		1.女性	0	1	0	1	0	0	0	0	2	2.2%
		2.男性	0	3	0	0	0	0	0	0	3	3.3%
	東海		0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.1%
		1.女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2.男性	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.1%
国外	国外計		0	5	14	2	1	0	0	0	20	22.2%
		1.女性	0	2	6	1	1	0	0	0	10	11.1%
		2.男性	0	1	8	1	0	0	0	0	10	11.1%
	China		0	2	8	0	1	0	0	0	11	12.2%
		1.女性	0	1	4	0	1	0	0	0	6	6.7%
		2.男性	0	1	4	0	0	0	0	0	5	5.6%
	Hongkong		0	0	1	0	0	0	0	0	1	1.1%
		1.女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2.男性	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1.1%
	Indonesia		0	0	1	1	0	0	0	0	2	2.2%
		1.女性	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1.1%
		2.男性	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1.1%
	Thailand		0	0	0	1	0	0	0	0	1	1.1%
		1.女性	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1.1%
		2.男性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	France		0	2	2	0	0	0	0	0	2	2.2%
		1.女性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		2.男性	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2.2%
	Japan		0	1	2	0	0	0	0	0	3	3.3%
		1.女性	0	1	1	0	0	0	0	0	2	2.2%
		2.男性	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1.1%

（図 4-3）



イ．阿寒湖温泉へ訪れた理由

国内の（※3）地域別、性別、年代別の阿寒湖温泉へ訪れた理由は下記のとおりとなった。

（※3）以降、国内と国外にて集計する場合は、下記のとおりとする。
「国内」…概ね日本国籍で国内の居住地域の回答がある（北海道、東北等）
「国外」…外国籍で居住地(国)の回答がある（居住地(国)表示で Japan の場合は外国籍で現在日本在住）

（表 4-4）　（以下単位：人）

地域	性別	年代	1.ビジネス	2.遊び・観光	4.学習・研修	5.冠婚葬祭	6.その他	総計
1.北海道			11	27	1	1	23	63
	1.女性		3	12	1	1	11	28
		1.10代	0	3	0	0	1	4
		2.20代	1	3	0	0	2	6
		3.30代	1	2	1	1	1	6
		4.40代	1	1	0	0	2	4
		5.50代	0	2	0	0	2	4
		6.60代	0	0	0	0	2	2
		7.70代	0	1	0	0	1	2
	2.男性		7	15	0	0	12	34
		1.10代	0	1	0	0	3	4
		2.20代	0	5	0	0	2	7
		3.30代	1	2	0	0	2	5
		4.40代	1	1	0	0	2	4
		5.50代	3	3	0	0	2	8
		6.60代	2	3	0	0	0	5
		8.80代以上	0	0	0	0	1	1
	9.無回答		1	0	0	0	0	1
		1.10代	1	0	0	0	0	1
2.東北			0	0	1	0	0	1
	2.男性		0	0	1	0	0	1
		5.50代	0	0	1	0	0	1
4.南関東			0	4	1	0	0	5
	1.女性		0	1	1	0	0	2
		2.20代	0	1	0	0	0	1
		4.40代	0	0	1	0	0	1
	2.男性		0	3	0	0	0	3
		2.20代	0	3	0	0	0	3
7.東海			0	1	0	0	0	1
	2.男性		0	1	0	0	0	1
		6.60代	0	1	0	0	0	1
		総計	11	32	3	1	23	70

国外の居住地別、性別、年代別の阿寒湖温泉へ訪れた理由は下記のとおりとなった。

（表 4-5）　（以下単位：人）

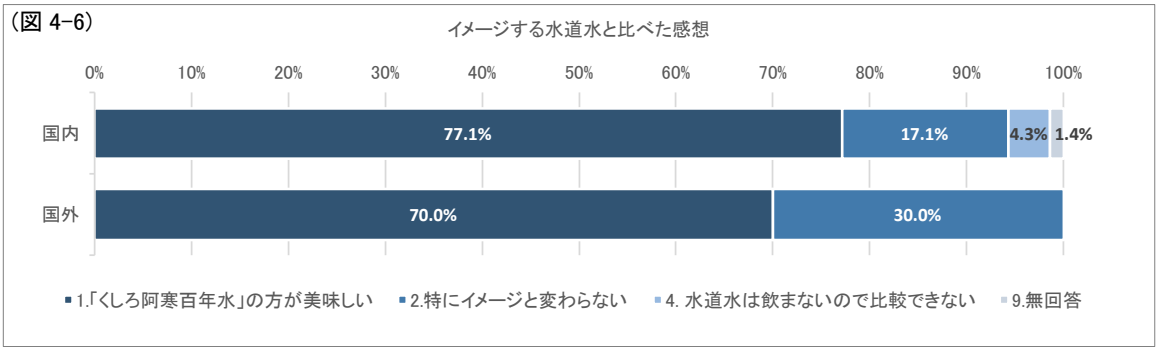
居住地	性別	年代	1.Business	2. Sightseeing	3. Visiting friends or family	4. S tudy/ L earn	5. Other	総計
China			0	10	1	0	0	11
	1.女性		0	6	0	0	0	6
		2.20代	0	1	0	0	0	1
		3.30代	0	4	0	0	0	4
		5.50代	0	1	0	0	0	1
	2.男性		0	4	1	0	0	5
		2.20代	0	1	0	0	0	1
		3.30代	0	3	1	0	0	4
Hongkong			0	1	0	0	0	1
	2.男性		0	1	0	0	0	1
		3.30代	0	1	0	0	0	1
Indonesia			0	2	0	0	0	2
	1.女性		0	1	0	0	0	1
		3.30代	0	1	0	0	0	1
	2.男性		0	1	0	0	0	1
		4.40代	0	1	0	0	0	1
Thailand			1	0	0	0	0	1
	1.女性		1	0	0	0	0	1
		4.40代	1	0	0	0	0	1
France			0	2	0	0	0	2
	2.男性		0	2	0	0	0	2
		3.30代	0	2	0	0	0	2
Japan			2	0	0	0	1	3
	1.女性		2	0	0	0	0	2
		2.20代	1	0	0	0	0	1
		3.30代	1	0	0	0	0	1
	2.男性		0	0	0	0	1	1
		3.30代	0	0	0	0	1	1
		総計	3	15	1	0	1	20

前述の「イ.催事展示」でも触れたとおり、例年とは異なる観光客構成となっており、試飲イベントおよび回答についても極端な偏りがあり、居住地や性別、年代構成についてクロス集計できるほどのサンプル数とバラつきが無い為、属性集計では「この時期に来ていた人はどんな人か」「どんなバランスで来ていたのか」という意味で参考にしたい。

ウ．イメージする「水道水」と比べて

回答者がイメージする（飲んだことのある）水道水と比べた時の感想は下記のとおりとなった。「1.「くしろ阿寒百年水」の方が美味しい」と回答した人は、国内回答で 8 割弱、国外回答では 7 割となっていた。

（図 4-6）



居住地別、性別、年代別には下記の結果となった。8 割以上が「1.「くしろ阿寒百年水」の方が美味しい」と回答した対象について色枠にて示している。国内の集計では「女性もしくは 40 代以上」で、国外では日本在住者とタイ在住者以外でその傾向が見られた。

（表 4-7）　（以下%：各対象別総計に占める割合）

地域	性別	年代	1.「くしろ阿寒百年水」の方が美味しい		2.特にイメージと変わらない		3.「くしろ阿寒百年水」の方が美味しくない		4. 水道水は飲まないので比較できない		9.無回答		総計	
			回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
1.北海道			49	77.8%	11	17.5%	0	0.0%	2	3.2%	1	1.6%	63	100.0%
	1.女性	1.10代	**4**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%
		2.20代	**6**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%
		3.30代	3	50.0%	3	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%
		4.40代	**4**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%
		5.50代	**4**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%
		6.60代	**2**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
		7.70代	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
	2.男性	1.10代	1	25.0%	3	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%
		2.20代	5	71.4%	1	14.3%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	7	100.0%
		3.30代	3	60.0%	2	40.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
		4.40代	3	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	25.0%	0	0.0%	4	100.0%
		5.50代	**7**	**87.5%**	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%
		6.60代	**5**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	100.0%
		8.80代以上	**1**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
	9.無回答	1.10代	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%
2.東北	2.男性	5.50代	**1**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
4.南関東			3	60.0%	1	20.0%	0	0.0%	1	20.0%	0	0.0%	5	100.0%
	1.女性	2.20代	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
		4.40代	**1**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
	2.男性	2.20代	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	33.3%	0	0.0%	3	100.0%
7.東海	2.男性	6.60代	**1**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
総計			54	77.1%	12	17.1%	0	0.0%	3	4.3%	1	1.4%	70	100.0%

（表 4-8）

地域	性別	年代	1.「くしろ阿寒百年水」の方が美味しい		2.特にイメージと変わらない		3.「くしろ阿寒百年水」の方が美味しくない		4. 水道水は飲まないので比較できない		9.無回答		総計	
			回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
China			8	72.7%	3	27.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	100.0%
	1.女性	2.20代	**1**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
		3.30代	3	75.0%	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%
		5.50代	**1**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
	2.男性	2.20代	**1**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
		3.30代	2	50.0%	2	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	100.0%
Hongkong	2.男性	3.30代	**1**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
Indonesia			2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
	1.女性	3.30代	**1**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
	2.男性	4.40代	**1**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
Thailand	1.女性	4.40代	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
France	2.男性	3.30代	**2**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
Japan			1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%
	1.女性	2.20代	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
		3.30代	**1**	**100.0%**	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
	2.男性	3.30代	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
総計			14	70.0%	6	30.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	20	100.0%

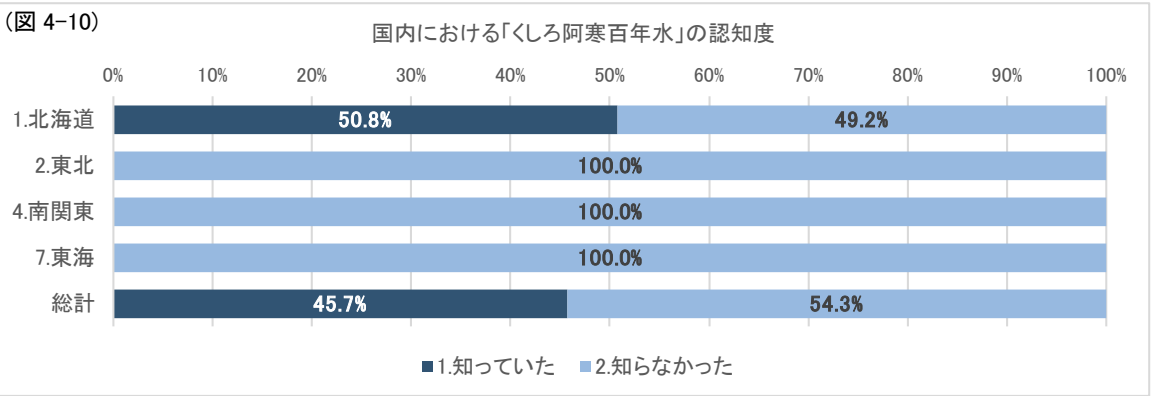
エ．「くしろ阿寒百年水」の国内における認知度

国内にて「くしろ阿寒百年水」が知られていたかどうかについては、以下の結果となった。道内からの今回の回答者の中では 2 人に 1 人が知っていたという結果となっている。道外については今回の回答者の中ではまったく知られていなかったことがわかる。

(表 4-9)

地域別＼国内回答	1.知っていた		2.知らなかった		総計	
	回答数	回答数に占める割合	回答数	回答数に占める割合	回答数	回答数に占める割合
1.北海道	32	50.8%	31	49.2%	63	100.0%
2.東北	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%
4.南関東	0	0.0%	5	100.0%	5	100.0%
7.東海	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%
総計	32	45.7%	38	54.3%	70	100.0%

(図 4-10)



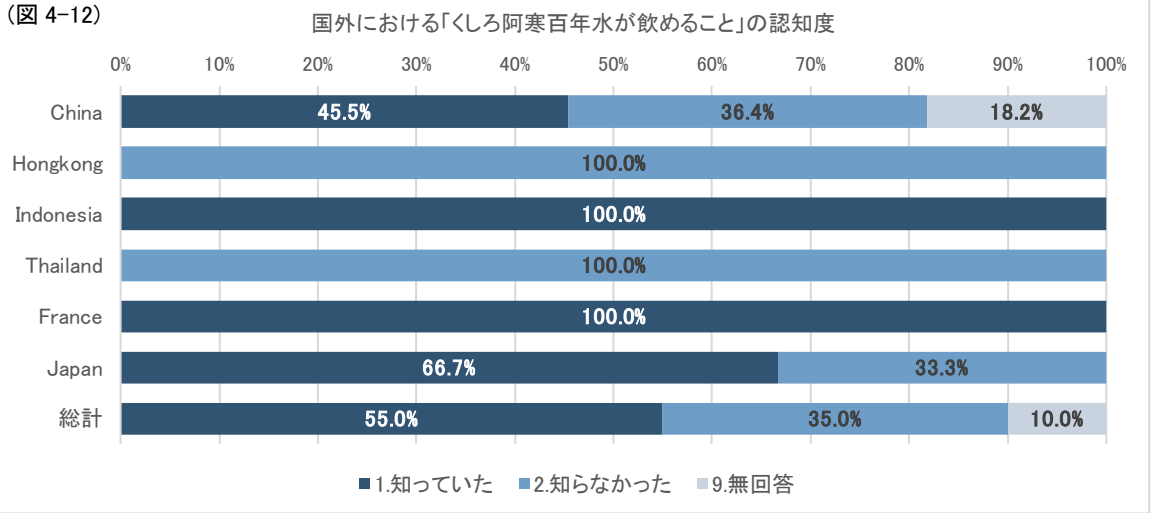
オ．「くしろ阿寒百年水が飲めること」の国外における認知度

「飲用可能なこと」については、下記のとおり居住地毎にバラつきが見られるが分母として少数な為、以下に示すのみとする。

(表 4-11)

地域別＼国外回答	1.知っていた		2.知らなかった		9.無回答		総計	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
China	5	45.5%	4	36.4%	2	18.2%	11	100.0%
Hongkong	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%
Indonesia	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
Thailand	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100.0%
France	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
Japan	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%	3	100.0%
総計	11	55.0%	7	35.0%	2	10.0%	20	100.0%

(図 4-12)



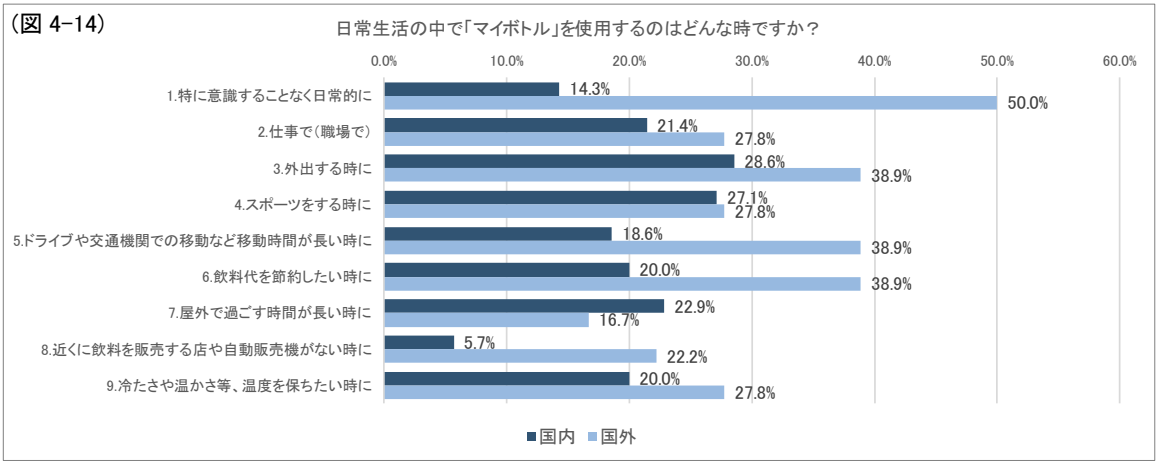
カ．日常生活の中でマイボトルを利用する場面

国内、国外で下記の違いが見られた。国外では 2 人に 1 人が日常的にマイボトルを利用しているのに対し、国内での日常利用は 14%程度に留まっていた。

（表 4-13）　（以下無回答を除く）

日常生活の中で「マイボトル」を使用するのはどんな時？	国内（70名による回答）		国外（18名による回答）	
	選択数	回答者に占める割合	選択数	回答者に占める割合
1.特に意識することなく日常的に	10	14.3%	9	50.0%
2.仕事で（職場で）	15	21.4%	5	27.8%
3.外出する時に	20	28.6%	7	38.9%
4.スポーツをする時に	19	27.1%	5	27.8%
5.ドライブや交通機関での移動など移動時間が長い時に	13	18.6%	7	38.9%
6.飲料代を節約したい時に	14	20.0%	7	38.9%
7.屋外で過ごす時間が長い時に	16	22.9%	3	16.7%
8.近くに飲料を販売する店や自動販売機がない時に	4	5.7%	4	22.2%
9.冷たさや温かさ等、温度を保ちたい時に	14	20.0%	5	27.8%

（図 4-14）



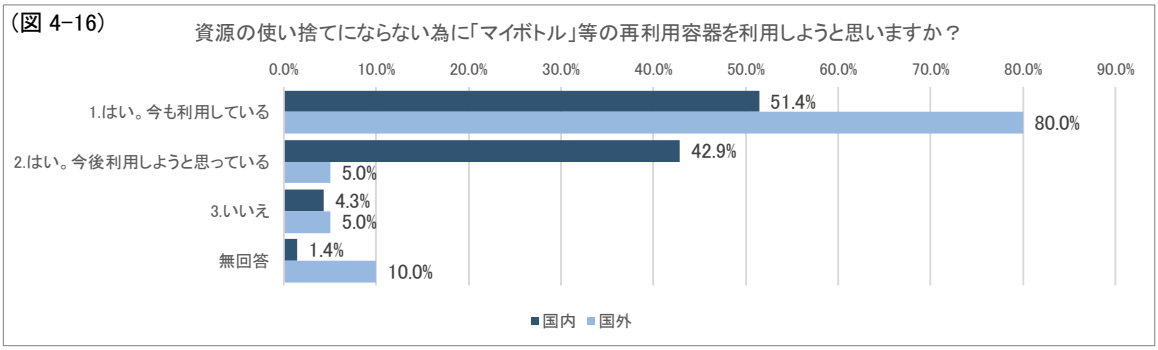
キ．資源を使い捨てにしない為の「マイボトル」等の再利用容器の利用意向

下記の利用意向から、国内では「今後利用しようと思っている」ものの、現時点で国外の利用状況（利用意識）には到達していないことがわかる。

（表 4-15）

資源の使い捨てにならない為に「マイボトル」等の再利用容器を利用しようと思うか？	国内（70名による回答）		国外（20名による回答）	
	回答数	回答者に占める割合	回答数	回答者に占める割合
1.はい。今も利用している	36	51.4%	16	80.0%
2.はい。今後利用しようと思っている	30	42.9%	1	5.0%
3.いいえ	3	4.3%	1	5.0%
無回答	1	1.4%	2	10.0%
計	70	100.0%	20	100.0%

（図 4-16）

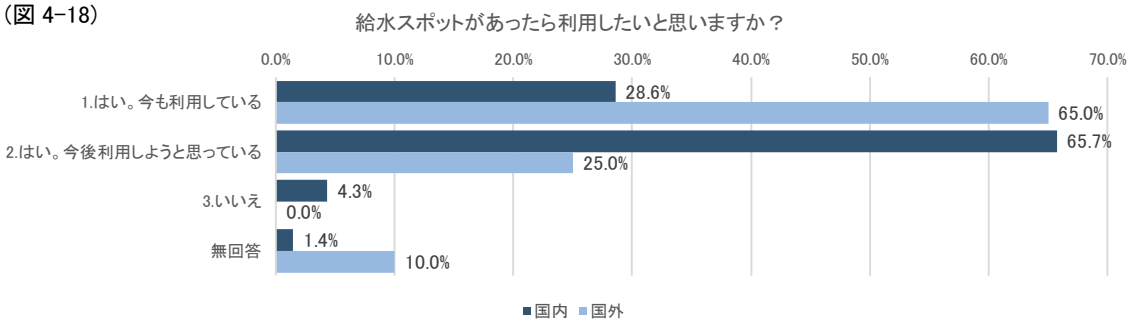


ク．給水スポットの利用意向

給水スポットについても国内では国外の利用状況（利用意識）には到達しておらず、無回答を除くと国外では「はい(Yes)」と利用意向がある回答で100%となった。

(表 4-17) 給水スポットがあったら利用したいと思うか？	国内(70名による回答)		国外(20名による回答)	
	回答数	回答者に占める割合	回答数	回答者に占める割合
1.はい。今も利用している	20	28.6%	13	65.0%
2.はい。今後利用しようと思っている	46	65.7%	5	25.0%
3.いいえ	3	4.3%	0	0.0%
無回答	1	1.4%	2	10.0%
計	70	100.0%	20	100.0%

(図 4-18)

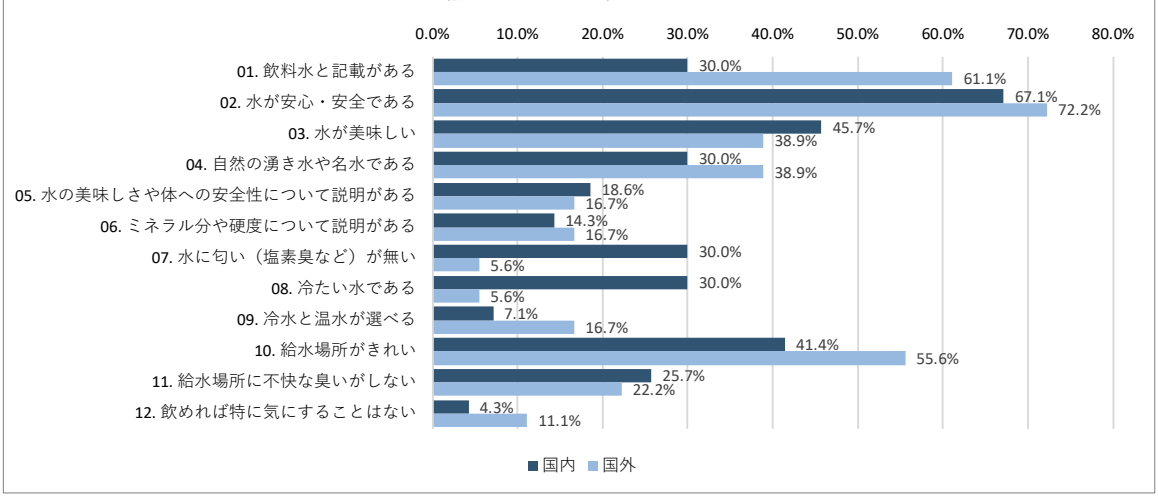


ケ．給水スポットで気になること

既に利用している人が多い国外回答では、給水スポットについて「安心・安全」「飲めることの記載」「給水場所がきれい」が目立つ結果となった。　(以下無回答を除く)

(表 4-19) 給水スポットで気になること	国内(70名による回答)		国外(18名による回答)	
	選択数	回答者に占める割合	選択数	回答者に占める割合
01. 飲料水と記載がある	21	30.0%	11	61.1%
02. 水が安心・安全である	47	67.1%	13	72.2%
03. 水が美味しい	32	45.7%	7	38.9%
04. 自然の湧き水や名水である	21	30.0%	7	38.9%
05. 水の美味しさや体への安全性について説明がある	13	18.6%	3	16.7%
06. ミネラル分や硬度について説明がある	10	14.3%	3	16.7%
07. 水に匂い(塩素臭など)が無い	21	30.0%	1	5.6%
08. 冷たい水である	21	30.0%	1	5.6%
09. 冷水と温水が選べる	5	7.1%	3	16.7%
10. 給水場所がきれい	29	41.4%	10	55.6%
11. 給水場所に不快な臭いがしない	18	25.7%	4	22.2%
12. 飲めれば特に気にすることはない	3	4.3%	2	11.1%
13. その他	0	0.0%	0	0.0%

(図 4-20)



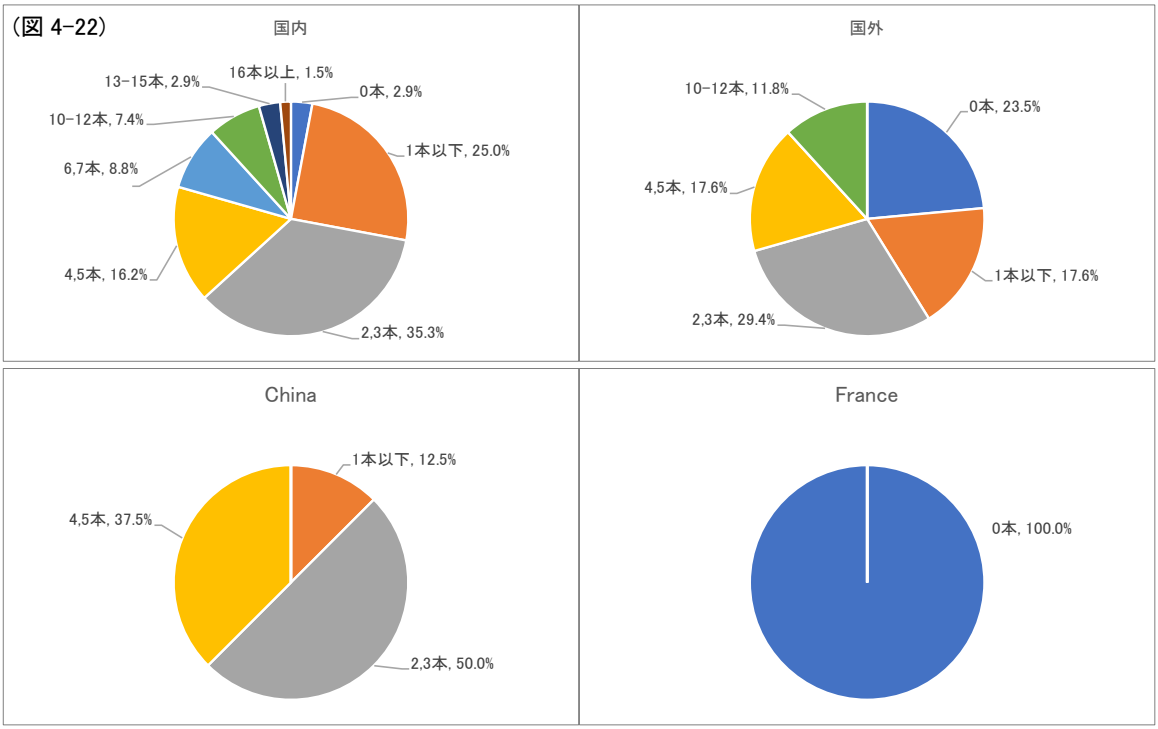
コ．1週間あたりのペットボトル容器飲料(500ml 相当)の利用数

1 週間あたりの利用数は、0 本との回答があった。国内回答でも 2 名存在するが 68 人中の 2 名である。フランスの 2 名中 2 名という結果とは意味合いが異なると思われる。

(表 4-21)　(以下無回答を除く)

地域＼利用数		0本		1本以下		2,3本		4,5本		6,7本		10-12本		13-15本		16本以上		総計	
		回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%	回答数	%
国内		2	2.9%	17	25.0%	24	35.3%	11	16.2%	6	8.8%	5	7.4%	2	2.9%	1	1.5%	68	100.0%
国外		4	23.5%	3	17.6%	5	29.4%	3	17.6%	0	0.0%	2	11.8%	0	0.0%	0	0.0%	17	100.0%
	China	0	0.0%	1	12.5%	4	50.0%	3	37.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%
	Hongkong	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
	Indonesia	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
	Thailand	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%
	France	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
	Japan	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%
	総計	6	7.1%	20	23.5%	29	34.1%	14	16.5%	6	7.1%	7	8.2%	2	2.4%	1	1.2%	85	100.0%

(図 4-22)



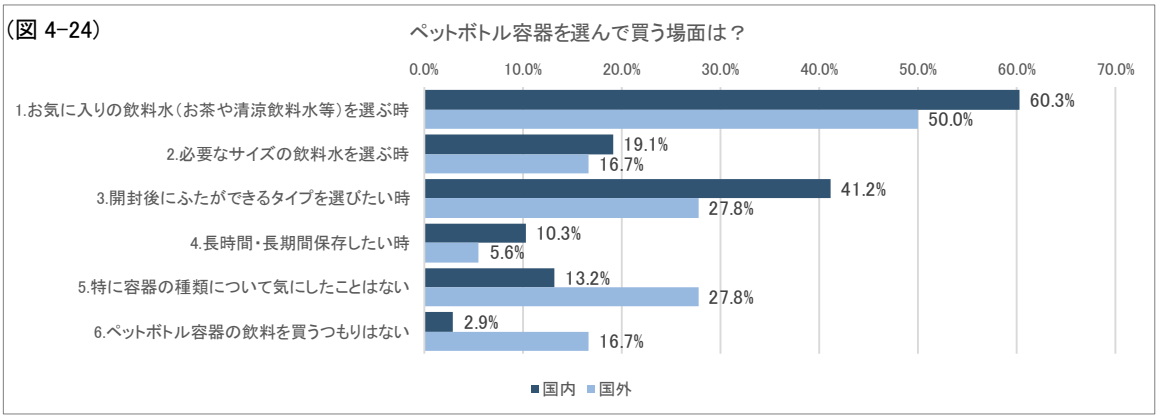
サ．ペットボトル容器を選んで買う場面

ペットボトル容器を故意に選ぶ時は、国内、国外ともに「お気に入りの飲料水を選ぶ時」となっていた。また国外においては「ペットボトル容器の飲料を買うつもりはない」という回答もみられた。

(表 4-23)　(以下無回答を除く)

ペットボトル容器を選んで買う場面は？	国内(68名による回答)		国外(18名による回答)	
	選択数	回答者に占める割合	選択数	回答者に占める割合
1.お気に入りの飲料水(お茶や清涼飲料水等)を選ぶ時	41	60.3%	9	50.0%
2.必要なサイズの飲料水を選ぶ時	13	19.1%	3	16.7%
3.開封後にふたができるタイプを選びたい時	28	41.2%	5	27.8%
4.長時間・長期間保存したい時	7	10.3%	1	5.6%
5.特に容器の種類について気にしたことはない	9	13.2%	5	27.8%
6.ペットボトル容器の飲料を買うつもりはない	2	2.9%	3	16.7%

(図 4-24)



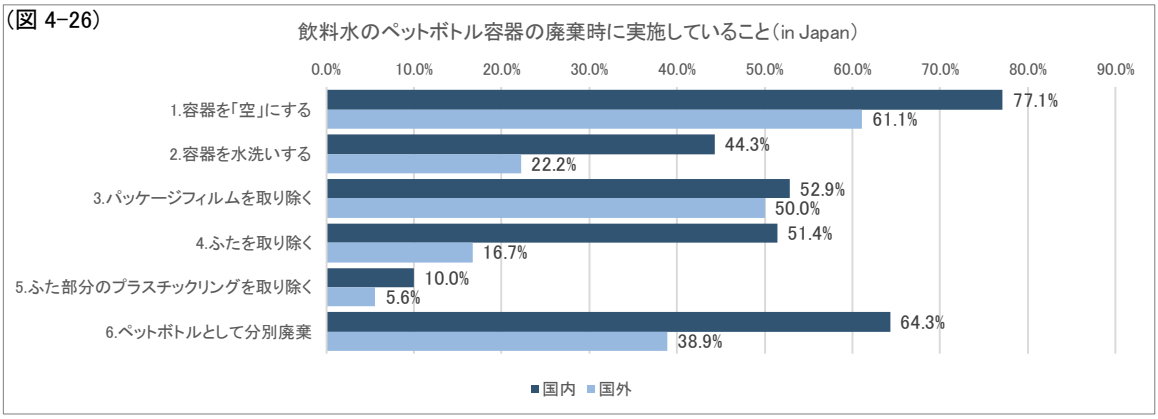
シ．日本で飲料水のペットボトル容器の廃棄時に実施していること

ペットボトル廃棄時に実施していることについては、いずれも国内が国外を上回っているが、国内の分布と同じ傾向となっている。この問いでは日本での廃棄について聞いているが日本人の捨て方に倣って実施していると思われる為、正しい分別方法を見せていく必要がある。

(表 4-25)　(以下無回答を除く)

飲料水のペットボトル容器の廃棄時に実施していること（外国籍者には「日本滞在中に」として設問）	国内（70名による回答）		国外（18名による回答）	
	選択数	回答者に占める割合	選択数	回答者に占める割合
1.容器を「空」にする	54	77.1%	11	61.1%
2.容器を水洗いする	31	44.3%	4	22.2%
3.パッケージフィルムを取り除く	37	52.9%	9	50.0%
4.ふたを取り除く	36	51.4%	3	16.7%
5.ふた部分のプラスチックリングを取り除く	7	10.0%	1	5.6%
6.ペットボトルとして分別廃棄	45	64.3%	7	38.9%

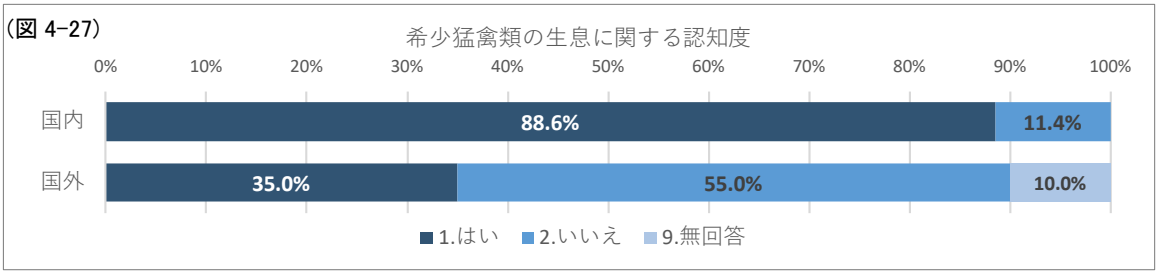
(図 4-26)



ス．シマフクロウやオジロワシ等の希少生物の生息に関する認知度

アンケートは猛禽類医学研究所との協働で実施した為、希少猛禽類が生息していることの認知度について調査した結果となっている。国内では 9 割弱が「知っていた」と回答し、国外の認知度は 3 割程度となっていた。

(図 4-27)



アンケートでは、猛禽類医学研究所の取り組みや支援グッズの存在に関する認知度についても聞いていたが、結果について猛禽類医学研究所に共有し、本事業側で集計はしないものとする。

② アンケート結果の考え方

今回は、新型コロナウイルスによる旅行客が減少する中でのイベントおよびアンケートの結果となっている為、下記の見方が適切であろうと考える。

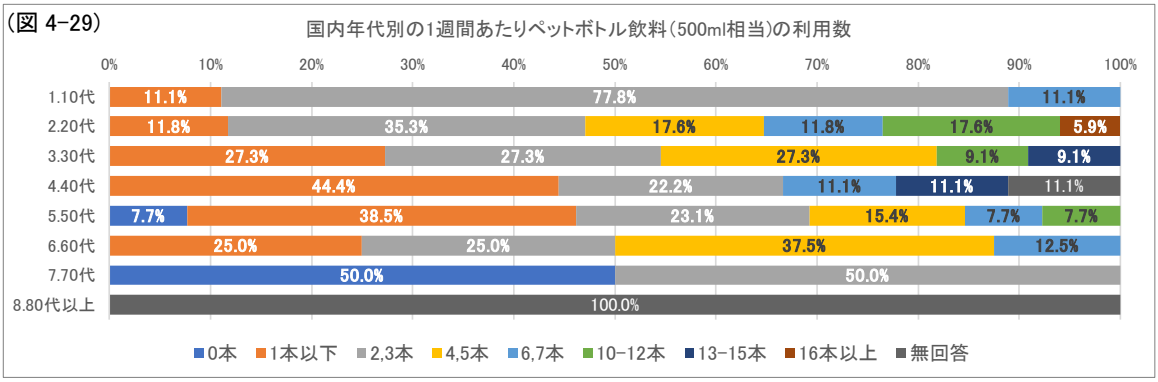
（以下表中(※4)…回答に地域住民や声掛けした特定層が含まれていないことが前提）

集計参照先	データの見方
(表 4-1, 4-2)回答者の属性	・今回のイベント時期における世界事情の中で、来訪前、当日にキャンセルしなくてよかった人達 ・アンケート回答者の居住地および年代構成は当日の地域全体の観光客の構成と考えられる（※4）
(図 4-3)回答者の年代	・事情に関係なく、当日時点の地域全体の観光客の年代構成と考えられる（※4）
(表 4-4, 4-5)訪問理由	・事情に関係なく、当日時点の地域全体の来訪者の来訪理由と考えられる（※4）
(図 4-6, 表 4-7, 4-8)水の評価	・事情が影響している。道外の国内旅行客や、訪日客が激減していた為、結果の割合はすべての属性での結果ではない。 ・回答者の属性として道内観光客が最も多い為、国内の結果については道内の観光客が感じた結果と言える。 ・表 4-7 の居住地北海道の回答結果については、信頼できる。（※4）
(表 4-9, 図 4-10)くしろ阿寒百年水の認知	・居住地北海道の回答結果については、信頼できる（※4） ・北海道以外の国内については、回答数が少ないものの道外での普及状況からみても概ね結果どおりと考える。
(表 4-11, 図 4-12)くしろ阿寒百年水が飲めることの認知	・日本の水道水に関する認識の有無や、〇〇の水等のように名前が付いたものに対する認識の有無が反映されている可能性がある。
(表 4-13, 図 4-14)マイボトルの利用場面	・国内と国外で考えた場合の結果としては、傾向として概ね結果どおりと考える。国内や国外で対象を細分化して別途調査した場合には、細かくは別の結果があると思われる。 (ex:サイクリスト、アウトドア、スポーツを趣味とする等) (ex:居住国でのﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙや飲料用水に関する制度や意識の違い等)
(表 4-15, 図 4-16)再利用容器の利用意向	
(表 4-17, 図 4-18)給水スポットの利用意向	
(表 4-19, 図 4-20)給水スポットで気になること	・国内と国外で対象を細分化した場合、異なる要件ﾆｰｽﾞが出てくる可能性はある。(ex：地域性や嗜好等) ・国内の結果は「日常利用していない」前提での意向であり、国外の結果は「日常利用していることが多い」前提での意向と考える。
(表 4-21, 図 4-22)ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙ飲料の利用数	・国によってどういう容器の飲料を日常消費しているかにもよるが、回答サンプル数が多い場合に傾向が把握できると思われる。国内では年代別に傾向が異なる（以下表 4-28, 図 4-29）のとおり。赤線は 6, 7 本以上(毎日 1 本程度)を区切るﾗｲﾝ。

（表 4-28）

利用数 / 年代	0本		1本以下		2,3本		4,5本		6,7本		10-12本		13-15本		16本以上		無回答		総計	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
1.10代	0	0.0%	1	11.1%	7	77.8%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	100.0%
2.20代	0	0.0%	2	11.8%	6	35.3%	3	17.6%	2	11.8%	3	17.6%	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	17	100.0%
3.30代	0	0.0%	3	27.3%	3	27.3%	3	27.3%	0	0.0%	1	9.1%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	11	100.0%
4.40代	0	0.0%	4	44.4%	2	22.2%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	1	11.1%	0	0.0%	1	11.1%	9	100.0%
5.50代	1	7.7%	5	38.5%	3	23.1%	2	15.4%	1	7.7%	1	7.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	100.0%
6.60代	0	0.0%	2	25.0%	2	25.0%	3	37.5%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	100.0%
7.70代	1	50.0%	0	0.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%
8.80代以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	1	100.0%
総計	2	2.9%	17	24.3%	24	34.3%	11	15.7%	6	8.6%	5	7.1%	2	2.9%	1	1.4%	2	2.9%	70	100.0%

（図 4-29）



（表 4-23, 図 4-24）ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙを選んで買う時	・全世界的にペットボトル飲料は販売されている為、選んで買う場面については、国内、国外も含めた全体の傾向と考えることができる。 ・「容器について気にしたことはない」「買うつもりはない」としている回答に注目したい。これはサンプル数が一定数あった場合に国別等で異なってくると思われる。
（表 4-25, 図 4-26）日本でのペットボトル容器の廃棄	・事情に関係なく、結果については国内と国外の違いとして信頼できる。 ・国内については、居住地北海道の傾向と考えることができる。（※4）
（図 4-27）希少猛禽類の生息に関する認知度	・国内は居住地北海道の結果であると考える。道外のサンプル数が多い場合には違う傾向が見られる可能性がある。 ・国外はｼｰｽﾞﾝや国によって異なる可能性がある。 （ex：ﾊﾞｰﾄﾞｳｫｯﾁﾝｸﾞや Wildlife 目的の来訪者が多い時期等）

③ 今回の取り組みを踏まえ、地域で継続していきたいこと

今回の取り組みを経て、給水スポットの協力や案内掲示の協力、猛禽類医学研究所ボトルの常設販売展示場所の増加や会議での発言など、少しずつではあるが、地域内に意識の変化が見られている。この事業をきっかけにさらに地域側で推進できることとして、下記例として提示する。

給水スポットおよび案内掲示	・アンケート結果を踏まえ「飲めること」「安全、安心であること」「きれいであること」はまず伝えられるよう整備を心掛けたい。その他の給水スポットニーズについても順次整備することを検討したい。 ・宿泊施設や地域事業者の給水可能な場所については今回の共通ロゴを使用し、地域全体で「くしろ阿寒百年水」として美味しい水の PR に努めたい。 ・冬季より開始したが、夏季に可能なスポットについては、次年度から開始できるよう案内掲示の更新も含め進められるとよい。

	・給水スポットの案内掲示は、紙面とアプリ登録はしたものの、その他のメディアからの発信はできていない状況にある為、観光協会や行政、宿泊事業者や地域事業者の HP や SNS 等で給水スポットの案内をしたり、事業者自らが給水スポットを提供している場合は、そういうサービスを提供していることが伝わるよう発信したい。 ・実証事業ではローソンの協力を得て給水スポット MAP の掲示を行ったが、阿寒湖温泉地域にはセブンイレブン、ファミリーマート、セコマ等、他のコンビニエンスストアも存在する為、声掛けをし全店で掲示されることを期待したい。
リサイクル可能な資源として正しく廃棄させること	・実証期間内において、ペットボトル飲料メーカーに対し、リサイクル可能な正しい廃棄の仕方について地域内でのセミナーができないか検討を依頼していたが、各社組織内にて協力する事業のタイトルが「ペットボトル飲料の不買運動」と見なされることを懸念し、実施には至らなかった。しかし地域が個別に別のタイトルで依頼する場合、各社からの協力の可能性は非常に高いと思われる。ペットボトルの正しい廃棄方法を地域が身につけ、それを行動で示していくことで、アンケート結果でも記載した国外観光客の廃棄行動が変わってくる可能性がある。 ・リサイクル可能な正しい廃棄の仕方については、個別メーカーに製造責任としてセミナー協力依頼する方法もあるが、個別メーカーが加盟する連盟、組合等の団体に依頼する方法もある。 ・会議の中で発言のあった「湖に浮かぶペットボトルゴミ」等への対応として、地域の中で廃棄ルールやゴミの取り扱いに関するご当地ガイドラインを作ることも時間をかけて検討したい。またそうした取り組み姿勢を「わたしたちはこんな取り組みをしています」という形で、地域内や観光客に見せていくことで、次第に定着していくものと考える。

この他、3 月現在全世界的に蔓延している新型コロナウィルスによる影響を受け、阿寒湖温泉地域だけでなく全域にて、さまざまな事業者が事業運営に困窮している現状がある。おそらく非常に多くの事業者が運営の見直しをしていると思われるが、「リスクに備えて事業運営計画を立てる＝事業運営全体での BCP (Business Continueity Plan：持続可能な事業計画)」を見直している今だからこそ、さまざまな「持続可能性」への対応について併せて検討していく必要があると考える。

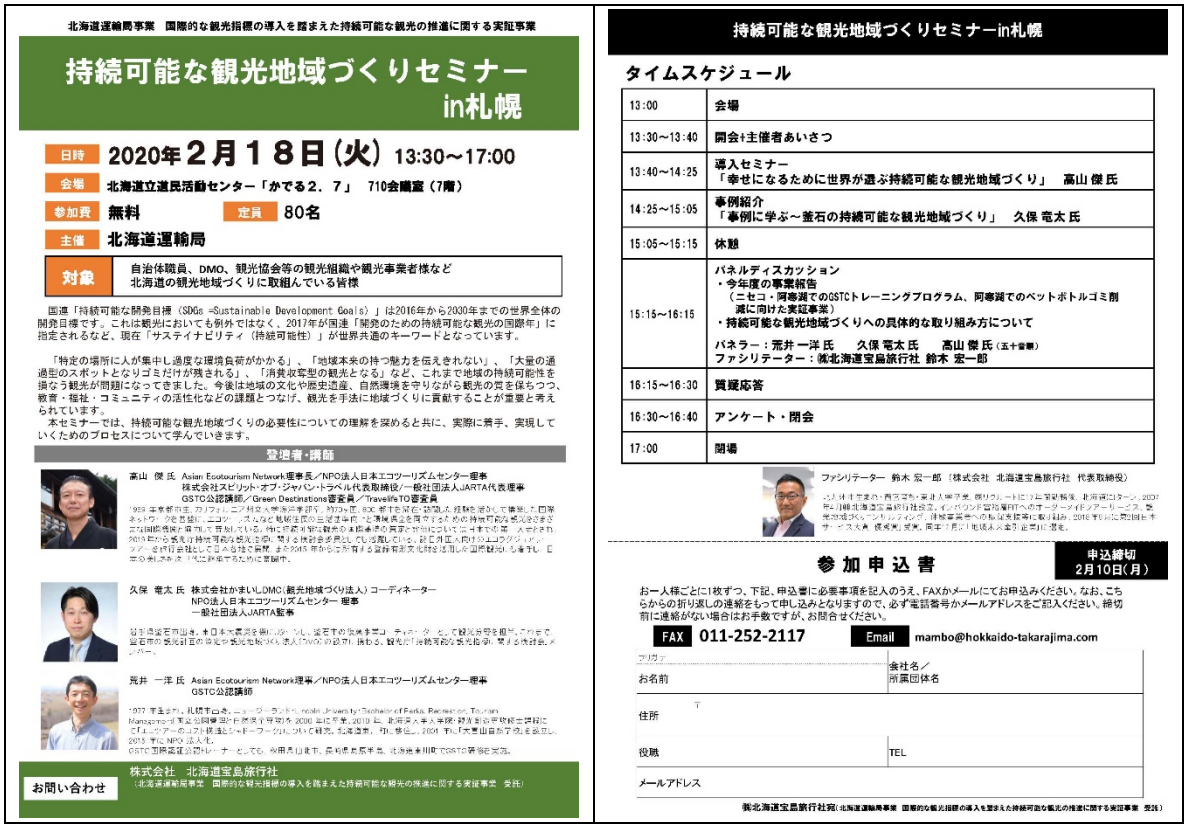
５．セミナーの開催

持続可能な観光地域づくりの必要性についての理解を深め、各地域での具体的な取り組みに繋がるよう、以下のとおりセミナーを開催した。

(1) セミナーの構成と申込状況

セミナーは以下の構成で予定し告知・募集を行ったが、申込と参加の状況は下記の表のとおりとなった。

（参考資料：[04_01_セミナー]参照）



北海道運輸局事業　国際的な観光指標の導入を踏まえた持続可能な観光の推進に関する実証事業

持続可能な観光地域づくりセミナー
in札幌

日時　2020年２月１８日（火）13:30～17:00
会場　北海道立道民活動センター「かでる２．７」 710会議室（7階）
参加費　無料　定員　80名
主催　北海道運輸局
対象　自治体職員、DMO、観光協会等の観光組織や観光事業者様など
北海道の観光地域づくりに取組んでいる皆様

国連「持続可能な開発目標（SDGs =Sustainable Development Goals）」は2016年から2030年までの世界全体の開発目標です。これは観光においても例外ではなく、2017年が国連「開発のための持続可能な観光の国際年」に指定されるなど、現在「サステイナビリティ（持続可能性）」が世界共通のキーワードとなっています。

「特定の場所に人が集中し過度な環境負荷がかかる」、「地域本来の持つ魅力を伝えきれない」、「大量の通過型のスポットとなりゴミだけが残される」、「消費収奪型の観光となる」など、これまで地域の持続可能性を損なう観光が問題になってきました。今後は地域の文化や歴史遺産、自然環境を守りながら観光の質を保ちつつ、教育・福祉・コミュニティの活性化などの課題とつなげ、観光を手法に地域づくりに貢献することが重要と考えられています。

本セミナーでは、持続可能な観光地域づくりの必要性についての理解を深めると共に、実際に着手、実現していくためのプロセスについて学んでいきます。

登壇者・講師

高山 傑 氏　Asian Ecotourism Network理事長／NPO法人日本エコツーリズムセンター理事
株式会社スピリット・オブ・ジャパン・トラベル代表取締役／一般社団法人JARTA代表理事
GSTC公認講師／Green Destinations審査員／TravelifeTO審査員

久保 竜太 氏　株式会社かまいしDMO（観光地域づくり法人）コーディネーター
NPO法人日本エコツーリズムセンター 理事
一般社団法人JARTA監事

荒井 一洋 氏　Asian Ecotourism Network理事／NPO法人日本エコツーリズムセンター理事
GSTC公認講師

お問い合わせ　株式会社　北海道宝島旅行社
（北海道運輸局事業　国際的な観光指標の導入を踏まえた持続可能な観光の推進に関する実証事業　受託）

持続可能な観光地域づくりセミナーin札幌

タイムスケジュール

13:00	会場
13:30～13:40	開会+主催者あいさつ
13:40～14:25	導入セミナー 「幸せになるために世界が選ぶ持続可能な観光地域づくり」　高山 傑 氏
14:25～15:05	事例紹介 「事例に学ぶ～釜石の持続可能な観光地域づくり」　久保 竜太 氏
15:05～15:15	休憩
15:15～16:15	パネルディスカッション ・今年度の事業報告 （ニセコ・阿寒湖でのGSTCトレーニングプログラム、阿寒湖でのペットボトルゴミ削減に向けた実証事業） ・持続可能な観光地域づくりへの具体的な取り組み方について パネラー：荒井 一洋 氏　久保 竜太 氏　高山 傑 氏（五十音順） ファシリテーター：㈱北海道宝島旅行社 鈴木 宏一郎
16:15～16:30	質疑応答
16:30～16:40	アンケート・閉会
17:00	閉場

ファシリテーター　鈴木 宏一郎（株式会社 北海道宝島旅行社 代表取締役）

参加申込書　申込締切 2月10日（月）

お一人様ごとに1枚ずつ、下記、申込書に必要事項を記入うえ、FAXかメールにてお申込みください。なお、こちらからの折り返しの連絡をもって申し込みとなりますので、必ず電話番号かメールアドレスをご記入ください。締切前に連絡がない場合はお手数ですが、お問合せください。

FAX 011-252-2117　Email mambo@hokkaido-takarajima.com

お名前	会社名／所属団体名
住所 〒	
役職	TEL
メールアドレス	

㈱北海道宝島旅行社宛（北海道運輸局事業　国際的な観光指標の導入を踏まえた持続可能な観光の推進に関する実証事業　受託）

＜申込みと参加の状況＞　（以下単位：人）

事前申込と当日参加の状況	事前申込者数	参加者数
事前申込－参加	57	57
事前申込－当日欠席	5	0
事前申込－直前キャンセル	1	0
当日参加	0	6
計	63	63

＜全参加者の内訳＞　（以下単位：人）

「持続可能な観光の推進」「観光振興」における立場	ｱﾝｹｰﾄ回答者	左記以外(※2)	計
1. DMO や観光協会にて主体的に関わりがある	5	0	5
2. 宿泊事業者として関わりがある	0	0	0
3. 道の駅や特産品、土産品等、販売事業者として関わりがある	1	0	1
4. 行政として関わりがある	24	11	35
5. ガイド等、滞在サービス事業者として関わりがある	6	2	8
6. ツアー造成等、旅行代理店として関わりがある	2	0	2
7. 地域商工団体・組合等として関わりがある	1	0	1
8. 地域住民として関わりがある	1	0	1
9. その他	8	2	10
計	48	15	63

（※2：アンケート回答者以外は参加者の所属より想定）

(2) セミナー実施の様子

セミナーはほぼ満席に近い状態となり、北海道運輸局大高局長の挨拶から開始された。





① 導入セミナー

タイトル	「地球規模で求められる持続可能な観光地域づくり」
講師	**高山 傑氏**：Asian Ecotourism Network 理事長／NPO 法人日本ｴｺﾂｰﾘｽﾞﾑｾﾝﾀｰ理事 株式会社ｽﾋﾟﾘｯﾄ・ｵﾌﾞ・ｼﾞｬﾊﾟﾝ・ﾄﾗﾍﾞﾙ代表取締役／(一社)JARTA 代表理事 GSTC 公認講師／Green Destinations 審査員／TravelifeTO 審査員

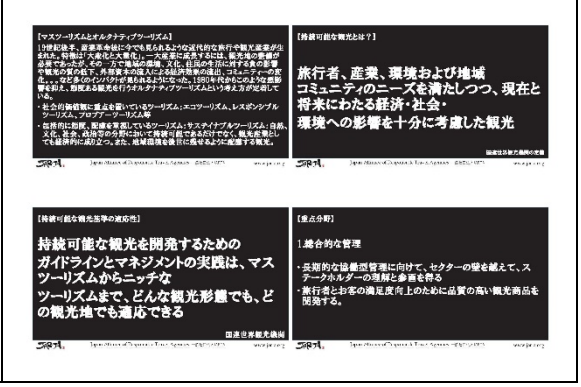














② 事例紹介

タイトル	「事例に学ぶ～釜石の持続可能な観光地域づくり」
講師	**久保 竜太氏**：㈱かまいし DMC（観光地域づくり法人ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ） NPO 法人日本ｴｺﾂｰﾘｽﾞﾑｾﾝﾀｰ理事／（一社）JARTA 監事





高山氏、久保氏の説明資料は、SDGｓの観点から「紙配布をできるだけ行わない」というポリシーのもと投影資料のみで説明が行われたが、ほぼ満席に近い配席であったことや、会議室の投影スクリーンが会場規模に反して小さかったこともあり、参加者にとって少々見づらい環境であったと思われた。その為、参加者の中で資料を希望する場合は、講師から送付が許可されたスライドについて事務局側から後日送付する形で共有することした。

③ 今年度の事業報告とパネルディスカッション

今年度の事業報告とパネルディスカッションファシリテーター	
説明	**鈴木　宏一郎氏**：㈱北海道宝島旅行社　代表取締役社長
パネルディスカッション講師	
講師	**高山　傑氏**：（上記に同じ） **久保　竜太氏**：（上記に同じ） **荒井　一洋氏**：Asian Ecotourism Network 理事／NPO 法人日本ｴｺﾂｰﾘｽﾞﾑｾﾝﾀｰ理事 GSTC 公認講師／NPO 法人大雪山自然学校代表理事





（参考資料：[04_01_セミナー]参照）

(3) セミナーのアンケート結果

セミナーのアンケートについては以下の様式にて実施した。

北海道運輸局事業　国際的な観光指標の導入を踏まえた持続可能な観光の推進に関する実証事業
持続可能な観光地域づくりセミナーin 札幌　参加者アンケート　　令和２年２月 18 日
受託：㈱北海道宝島旅行社

１．ご所属等

ご所属名：	お名前：

２．「持続可能な観光の推進」「観光振興」におけるお立場（主として該当する数字に１つだけ○をつけてください）

１．DMO や観光協会にて主体的に関わりがある　２．宿泊事業者として関わりがある
３．道の駅や特産品、土産品等、販売事業者として関わりがある　４．行政として関わりがある
５．ガイド等、滞在サービス事業者として関わりがある　６．ツアー造成等、旅行代理店として関わりがある
７．地域商工団体・組合等として関わりがある　８．地域住民として関わりがある
９．その他（　　）

３．今回のセミナーを知ったきっかけ（該当する数字に○をつけてください）

１．地域の行政や観光協会等からの案内　２．受託事業者からの案内（メール・電話・対面・SNS 等）
３．北海道運輸局の HP 告知　４．新聞　５．知人・友人からの案内
６．その他（　　）

４．今回のセミナーに参加した理由を自由にお書きください。

５．セミナー参加によって「SDGｓや持続可能な観光の推進」への取り組み意識はどのように変化しましたか
（参加前、参加後それぞれ該当する数字に○をつけてください）

参加前）取り組んでいくことについて		参加後）取り組んでいくことについて
１．まったく意識していなかった		１．今も特に取り組む意識はない
２．少し意識し始めていた	→	２．少し意識し始めた
３．意識して検討を始めていた		３．意識して検討してみようと思う
４．検討し具体的な行動をイメージしていた		４．検討して、具体的な計画を立てたいと思う
５．イメージした行動を実行していた		５．意識は高まり、実行現場で役立てたいと思う

６．セミナー参加後、ご自身や地域、ご所属でどんなことに取り組みたいと思われましたか。

７．セミナー参加のご感想（それぞれ該当する数字に１つだけ○をつけてください）

１．とてもよかった　２．まあまあよかった　３．ふつう　４．あまりよくなかった　５．よくなかった

選択された理由

８．今後ご自身もしくはご所属で取り組むにあたり、どんなサポートが必要ですか（該当する数字に○をつけてください）

１．地域内での今日のようなセミナー開催　２．ニセコや阿寒で実施したような GSTC トレーニングの地域開催
３．具体的な取り組みに関する相談　４．国際基準の動向や内容の説明機会
５．その他（　　）

９．今回のセミナーに対するご意見・今後の同様の取り組みに向けてのご要望を自由にお書きください。

お疲れ様でした。アンケートへのご協力ありがとうございました。

アンケートの回収状況は下記のとおりとなった。

参加者 63 名の内訳	対象人数	回収率
回答提出者	48	76.2%
回答未提出者	7	11.1%
対象外（回答不要者）	8	12.7%

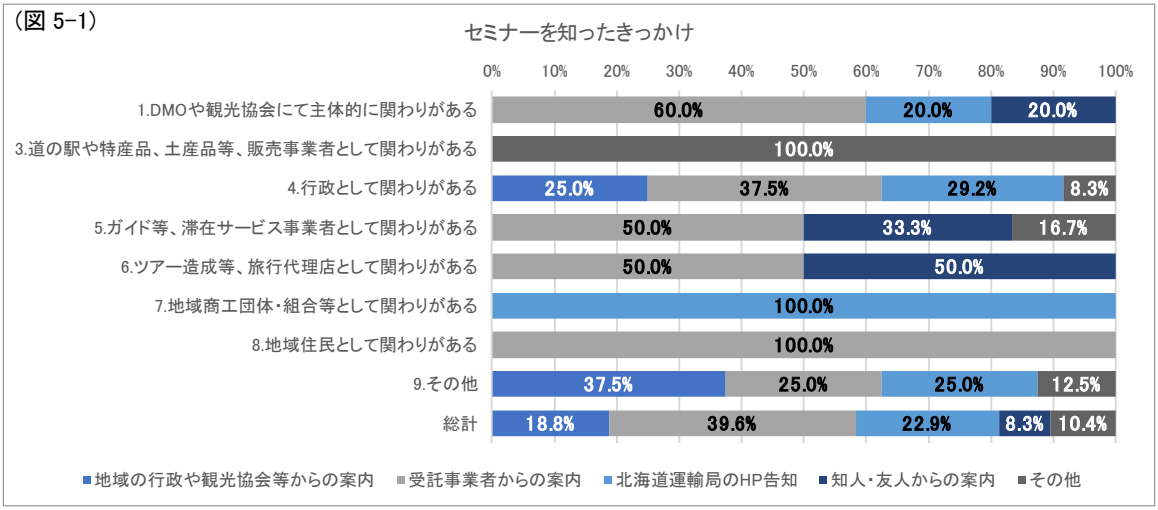
① セミナーを知ったきっかけ

今回のセミナーを知ったきっかけについては、下記のとおりとなった。

（以下単位：人）

セミナーを知ったきっかけ ／「持続可能な観光の推進」「観光振興」における立場	地域の行政や観光協会等からの案内	受託事業者からの案内	北海道運輸局のHP告知	知人・友人からの案内	その他	無回答	総計
1.DMOや観光協会にて主体的に関わりがある	0	3	1	1	0	0	5
2.宿泊事業者として関わりがある	0	0	0	0	0	0	0
3.道の駅や特産品、土産品等、販売事業者として関わりがある	0	0	0	0	1	0	1
4.行政として関わりがある	6	9	7	0	2	0	24
5.ガイド等、滞在サービス事業者として関わりがある	0	3	0	2	1	0	6
6.ツアー造成等、旅行代理店として関わりがある	0	1	0	1	0	0	2
7.地域商工団体・組合等として関わりがある	0	0	1	0	0	0	1
8.地域住民として関わりがある	0	1	0	0	0	0	1
9.その他	3	2	2	0	1	0	8
＜不要・未提出等による無回答＞	0	0	0	0	0	15	15
総計	9	19	11	4	5	15	63

（図 5-1）



セミナーの告知については、総計として「受託事業者からの案内」が最も多く、次いで「北海道運輸局の HP 告知」となっていた。今回の事業の中で GSTC ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞの告知募集時は対象を地域および地域周辺に絞っていた為、観光協会等一定の繋がりの中での参加となっていたが、広く道内に呼びかけをするにあたっては、「北海道運輸局の HP 告知」があったことで受託事業者や講師等と繋がりの無い人もこのセミナー情報を見つけることができた。

② セミナーに参加した理由

「1.DMO や観光協会にて主体的に関わりがある」人の回答
・運輸局事業成果の確認 ・村の新しい観光メニューづくりの参考に ・荒井さんに紹介をいただいたため ・持続可能な観光の推進に興味があった
「3.道の駅や特産品、土産品等、販売事業者として関わりがある」人の回答
・自らの事業へのフィードバックをはかるため。SDGs の推進に向けた勉強
「4.行政として関わりがある」人の回答
・地域に情報を持ち帰り、次の振興策へ繋げるため ・観光まちづくり推進協議会に事務局として関わっており地域づくりをすすめていくための参考とさせていただきたかったから ・「持続可能な地域」について理解を深めたかったため ・観光施策への SDG s の活用について探るため／地域で観光の持続可能性が大きな問題意識であるため ・自地域にて持続性ある観光地を目指しているため ・GSTC についての情報収集のため ・ATWS に向け、行政として取り組む事業の参考にするため ・町の観光振興、インバウンドを含む取り組みのための参考として ・観光事業に対しての成果を求められる傾向にあるため ・町の観光についてもう一度考えたかった ・DMO に対する関心があったため ・観光地域づくりを学ぶため ・当課で進めている農村ツーリズムに関連があるから ・持続可能な観光とは？聴いてみたかったので ・研修内容に興味があったため ・観光を地域産業として確立したく、その切り札が GSTC と考えている為／知識、先行事例等の獲得のため ・農泊事業を進めており、進める中でのヒントになればと思ったので ・釜石の取り組みと日本版指標について理解を深めるため ・日頃お世話になっている宝島旅行社がコーディネートするセミナーに興味があったから
「5.ガイド等、滞在サービス事業者として関わりがある」人の回答
・札幌での開催で「持続可能な観光地域づくり」を専門家がどのように進めているのか興味があったため ・GSTC について学ぼうと思ったため ・今後の世界に必要なことだと思い、興味があったから ・アドベンチャーツーリズム、SDG s といった観光業界のムーブメントについて理解を深めたかったため ・持続可能な観光地を目指していきたい為 ・SDG s に興味があった。
「6.ツアー造成等、旅行代理店として関わりがある」人の回答
・昨年末頃から SDG s に関心があったため ・自社の方向性を SDG s に沿わせるために何かヒントとなる事例を知りたいと思ったので
「9.その他」の人の回答
・知見を広げるため ・ニセコ町で行われた GSTC セミナーの内容に興味があった ・建設コンサルとしてできることがないか考えている/観光の考え方を学びたいと思って ・行政主体で AT の推進が叫ばれている中、現場の声を聞きたかった ・持続可能な観光地域づくりについて具体的な取り組みについて興味があった ・地域活性について勉強中のため

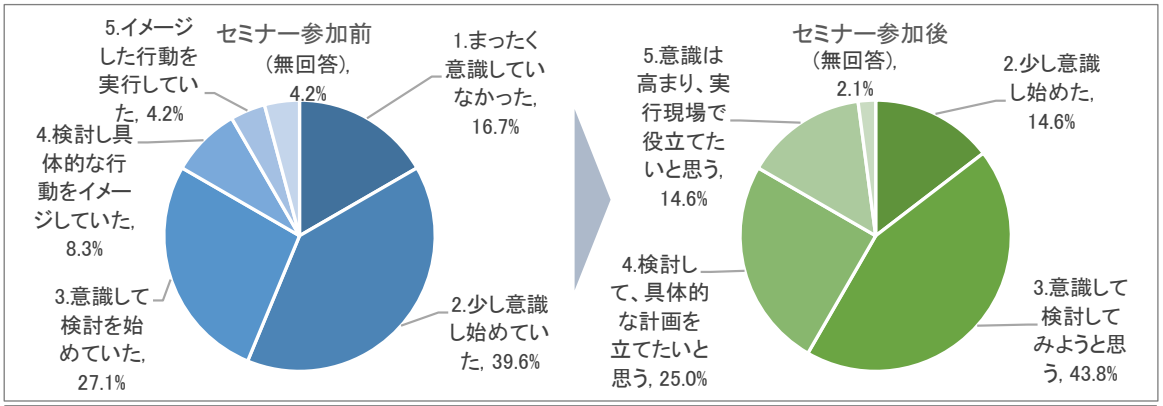
③ セミナー参加による「SDGｓや持続可能な観光の推進」への取り組み意識の変化

「SDGｓや持続可能な観光の推進」への取り組み意識について、「参加前」と「参加後」の回答は、下記のとおりとなった。　（以下整数：人）

セミナー参加前の取り組みへの意識	回答数	回答に占める割合
1. まったく意識していなかった	8	16. 7%
2. 少し意識し始めていた	19	39. 6%
3. 意識して検討を始めていた	13	27. 1%
4. 検討し具体的な行動をイメージしていた	4	8. 3%
5. イメージした行動を実行していた	2	4. 2%
（無回答）	2	4. 2%
総計	48	100. 0%

セミナー参加後の取り組みへの意識	回答数	回答に占める割合
1. 今も特に取り組む意識はない	0	0. 0%
2. 少し意識し始めた	7	14. 6%
3. 意識して検討してみようと思う	21	43. 8%
4. 検討して、具体的な計画を立てたいと思う	12	25. 0%
5. 意識は高まり、実行現場で役立てたいと思う	7	14. 6%
（無回答）	1	2. 1%
総計	48	100. 0%

(図 5-2)セミナーの「参加前」→「参加後」の取り組み意識の変化



参加後の取り組みへの意識 ＼ 参加前の取り組みへの意識	1.まったく意識していなかった	2.少し意識し始めていた	3.意識して検討を始めていた	4.検討し具体的な行動をイメージしていた	5.イメージした行動を実行していた	無回答	総計
1.今も特に取り組む意識はない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
2.少し意識し始めた	75.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.6%
3.意識して検討してみようと思う	25.0%	78.9%	23.1%	0.0%	0.0%	50.0%	43.8%
4.検討して、具体的な計画を立てたいと思う	0.0%	5.3%	69.2%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%
5.意識は高まり、実行現場で役立てたいと思う	0.0%	10.5%	7.7%	50.0%	100.0%	0.0%	14.6%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	2.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(図 5-2)のとおり参加前、参加後の「無回答」を除き、参加者全員が「SDGｓや持続可能な観光の推進」の取り組みへの意識が向上した結果となった。

④ セミナー参加を経て取り組みたいこと

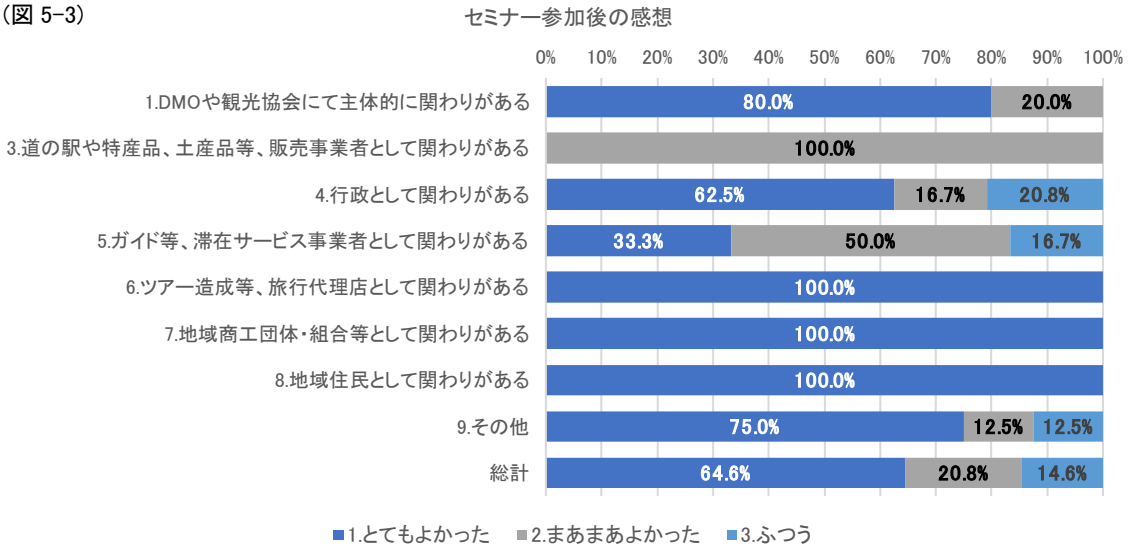
「1.DMO や観光協会にて主体的に関わりがある」人の回答
・ペットボトルや CO2 の環境について皆で共有したい。地域住民に愛される観光地域づくりをしたい。 ・ペットボトル削減、マイボトル化の更なる推進。GSTC を考慮した長期観光まちづくり計画 2030 の策定。 ・セミナーの中でも自分の地域に置き換えながら話を聞くことができましたので、すぐに取り組みたい事がいくつか頭に浮かびました。まずは既に話に出ていた蛍の保全と環境を守りながら行えるツアーを実現したいと思います。誓約書のサインも真似したいと思います。 ・地元の観光物産協会やサイクルツーリズム協議会へ GSTC やグリーンディスティネーションについて紹介したいと思います。
「3.道の駅や特産品、土産品等、販売事業者として関わりがある」人の回答
・事業の環境インパクトの測定などを実施。今後の戦略を考えたい。地元 DMO との連携。
「4.行政として関わりがある」人の回答
・まずは地域の一体感を作る。 ・我が町は自然豊かな地域でもあり、観光と自然保護との兼ね合いに悩むところもあります。高山さんのお話にあった 100 年後のことを考えた観光という意識をもって取り組みたいと思いました。 ・地域で小さなグループで話し合いや意見交換を始める。 ・単に観光というだけでなく、環境や福祉など部門が多岐にわたるので、まずは全庁的な意識の共有が必要。 ・開発コントロールと投資誘導の取組の加速。 ・GSTC の項目や SDG s ゴールなど、まずは自地域がどの状態なのか比較してみたい。 ・どのような落とし込み方ができるのか考えていきたい。 ・ペットボトルの削減、地元に還元する意識 ・観光地域づくりを推進するため、様々なケースを学ぼうと思います。 ・職場内の意識共有、啓発。地域の方と話す際に、環境の視点をより意識すること。家族にも共有する（特に子供） ・自分自身で取り組むことができるマイボトル等やれることをやりたいと思います。 ・外国人の方が SDG s の意識が高いという事を地域住民に伝えていきたい。加えて SDG s とは何なのかという事も伝えていきたい。 ・現在活動している小樽運河清掃ボランティア（毎週実施）のゴミ袋の量を定量的に測定する。 ・日本版評価指標ができたらぜひやってみたい。可視化できる資料ができあがるのが楽しみ。 ・SDG s の取り組みの普及。
「5.ガイド等、滞在サービス事業者として関わりがある」人の回答
・イメージはできていても時間、人的に難しかった部分も実行していきたい。 ・惣菜等プラスチックの消費を減らす。 ・100 の基準を見て、自分の事業に照らし合わせたいと思いました。 ・今まで SDG s とは意識せずに実行していた中で、実際は SDG s につながる行動もあり、それを続けたい。
「6.ツアー造成等、旅行代理店として関わりがある」人の回答
・十勝の 100 年後のビジョンをチームで考えてみようと思います。ペットボトル廃止宣言を家族にしてみます。 ・自社のツアーを基準に沿って、評価しなおしてみたい。会社内での脱プラを呼びかけたい（まずは内から）
「9.その他」の人の回答
・私は交通計画が専門ですので、交通、まちづくり、観光を持続可能にしていきたい。 ・GSTC を地域づくりのツールとして利用できるかの検討 ・地域のゲームチェンジャーを探すためにも、いろんな人に GSTC について話してみます。それで 6 か月以内に小さくともチームを作ってみようと思います。

⑤ セミナー参加の感想

今回のセミナー参加後の感想として 5 段階評価形式の結果は下記のとおりとなった。

参加後の感想	回答数	回答に占める割合
1. とてもよかった	31	64. 6%
2. まあまあよかった	10	20. 8%
3. ふつう	7	14. 6%
4. あまりよくなかった	0	0. 0%
5. よくなかった	0	0. 0%

(図 5-3)



上記(図 5-3)のとおり、全体では「1. とてもよかった」と回答した人が 6 割強、「2. まあまあよかった」と回答した人と合わせて「よかった」と満足回答した人の割合は 8 割強となった。立場別に、「1. とてもよかった」「2. よかった」を合わせた満足回答を見ると「1. DMO や観光協会」「3. 道の駅や特産品、土産品等、販売事業者」「6. ツアー造成等、旅行代理店」「7. 地域商工団体・組合等」「8. 地域住民」の 5 つの立場で 100%となっていた。

セミナーの感想コメントとしては下記のとおりとなっている。

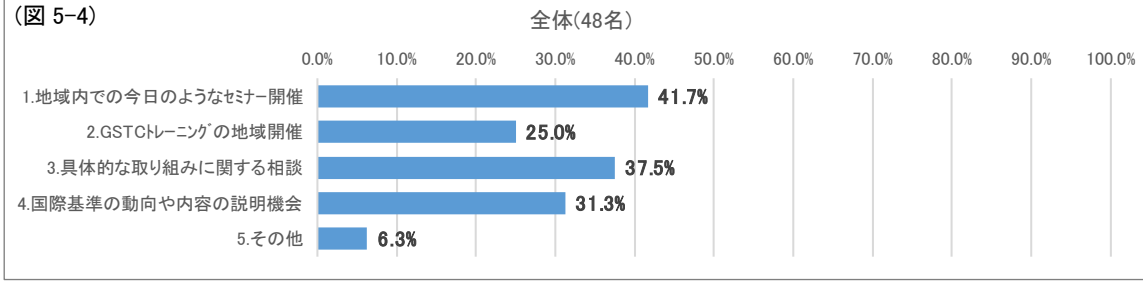
「1. DMO や観光協会にて主体的に関わりがある」人の感想
◎今後の取り組みの参考となった。 ◎特化した内容でわかりやすかった。 ○今日参加している人は少なくとも多少の予備知識があってのことと思うので、もう一歩踏み込んだ内容だと嬉しかった。
「4. 行政として関わりがある」人の感想
◎理解がとても深まった ◎未来志向な人や地域は数年先の取り組みをしていると感じた。 ◎SDG s は少し意識していましたが、もう少し具体的に考えていかなくてはならないと思いました。 ◎今までそもそも「持続可能な観光」というのが、どういったことを指すのか理解していなかった為。 ◎実際のお話を聞けてよかった。 ◎具体的な話が聞けた（特に講師が貴重）。ファシリテートがスムーズで内容が濃かった。 ◎農泊事業を進める中で、観光地域づくりのヒントになった。 ◎観光は地域づくりのツールであるため、地域のステークホルダーの理解を得ることができた。 ◎様々なステージで活躍されている方の話を聞けて面白かったです。

○持続可能な観光地域について受講前よりも詳しくなったから。 ○意識改革につながった。 △セミナーで言っていることは分かるし、既に知っていることも多い。問題意識は理解できるただしオーバーツーリズムに近い課題に対して、実際に行うべき取り組みへの示唆には至っていないと感じる。(アクションについて→実際に欲しいのはここなのだけど) △基礎的な内容を理解していなかったことから、内容でわかりづらいことがあった。 △導入セミナーまで参加の為。
「5. ガイド等、滞在サービス事業者として関わりがある」人の感想
◎新しいテーマだった。今まで知らないことが多かった。 ◎意識が高まりました。グリーンディスティネーション、目指したいです。 ○Top of the Top の方々の熱さが伝わったので △なぜ GSTC なのかというところがよくわからなかった。世界の状況がわかるとよかったかもしれないですね。環境の面だけが強調されていたが、働く人の福利厚生、組織のダイバーシティなど評価項目にないのが疑問に思いました。
「6. ツアー造成等、旅行代理店として関わりがある」人の感想
◎高山さんの話、とてもよかったです。今日をきっかけに GSTC について考える（真剣に）機会となりました。 ◎具体的に何をすれば良いか、すぐに取り組めそうな事例を知ることができたので。
「9. その他」の人の感想
◎参加前と比べ、様々な知見を得られました。今度どこで関われるかこれから考えてみたいと思います。 ◎分野が違って勉強になりました。 ○もう少しじっくり詳細を伺えれば幸いでした。 △事例紹介の部分はもう少し具体的な取り組みや導入にあたっての経過などを知れるとよかった。

⑥ 今後必要と考えるサポート

今後、取り組むにあたっての必要なサポートについては、下記の結果となった。

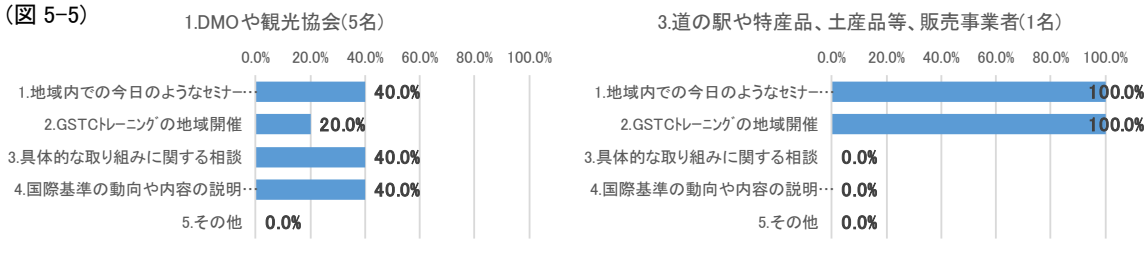
(図 5-4)



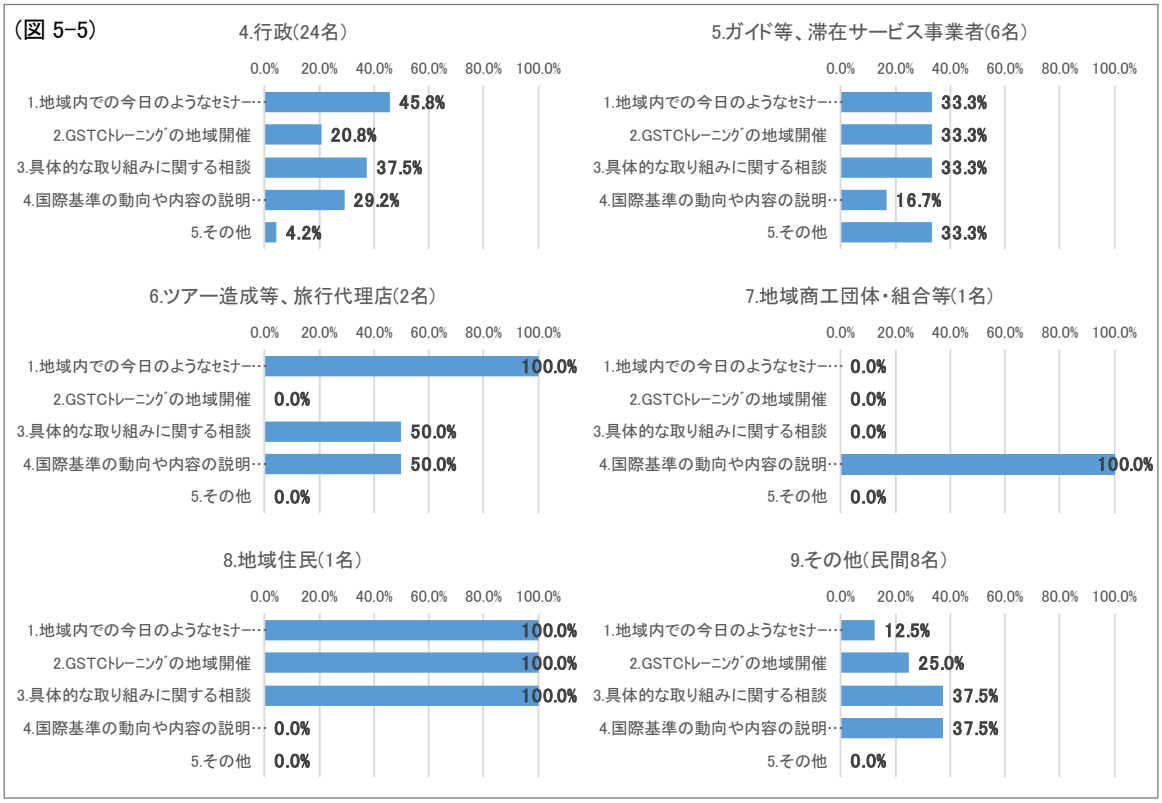
「1. 地域内での今日のようなセミナー開催」が最も多く、次いで「3. 具体的な取り組みに関する相談」「4. 国際基準の動向や内容の説明機会」となった。

それぞれ立場別の必要と考えるサポートは、下記(図 5-5)のとおりとなった。

(図 5-5)



（図 5-5）



その他の要望としては、以下に記載する。

- 継続的な実施が必要と思います。日本版の情報開示をお願いします。
- 現状の調査（現状把握、理解、洗い出し）等、具体的に人数、人材育成方法、成果を成功、失敗問わず例として知りたい。
- 地方開催（根室、釧路）をお願いしたい。観光従事者のみならず、地域住民向けのセミナーのようなものの開催が必要。
- 小さな観光事業者がどのように取り入れる、関われるのかイメージできるセミナー
- 意識の高い人と低い人の差が激しいように思います。地方の町村で、地元との合意形成をするのが難しいと感じているので、その辺りの情報交換やディスカッションの機会があるとありがたい。
- 国内外の色々な取り組みを知りたい。
- 地域住民ならびに行政の理解を得るにはどうしたら良いか悩んでます。GSTC トレーニング、11 月の阿寒は別件出張で参加できず、オンラインで参加などご検討いただければ非常にありがたいです。

６．事業実施結果から考える今後の取り組み

各事業の実施結果から見えてきたことについて以下に整理する。

GSTC トレーニングプログラムの実施（アクションプラン案作成含む）/セミナー開催より

・GSTC トレーニングの場では、「3 日間」を空けることができない人や声が多く見られたが、GSTC トレーニングや持続可能な観光への取り組みについて、ある程度必要性を感じていても「人の不足」や「時間投資できない現状」などの課題があり、すぐに着手できない状況が散見される。

→GSTC トレーニングは研修スタイルが決まっている為、日程を崩す運用は難しいと思われるが、受講認定されないまでもその前段の知識を短時間で幾度かに分割して行うことは可能かと思われる。また、今後日本版の指標が明確になり各地域での学習の機会が提供される際は、この「地域での人の不足」「まとまった時間投資の難しさ」に配慮した取り組みが必要と考える。

・受講できた人は、その内容に高い満足度を示し、同時に各自の地域内で同じ体験をしてほしいと願う。地域内で進めていく為に一人の力だけでは進められない、共通認識が持てる仲間がいないことが課題と感じている。

→単発でのトレーニング機会で、今後のトレーニング予定がない状況では、せっかく高まった意欲も時間経過とともに収縮してしまう。地域内の仲間が同時に受講できることは非常に難しい為、時間をかけて 1 期生、2 期生のような形で地域内での共通認識が持てるような継続的なトレーニング機会が必要と考える。

・トレーニング後のアンケートやセミナー時の声から、トレーニング後にアフターフォローや次のステップとして準備されている場を希望する声が上がっている。また、認証を取る為に段階的な情報収集ができるよう、相談会や相談サイトを希望する声もあった。

→一時的にフルパッケージで実施する形式ではなく、段階に応じて必要な情報や機会を選択できるよう要件を整理した上で、相談会や研修会等を計画し、またその位置づけを明確にした取り組みが望ましい。(ex：受け手側が自分が自地域が今、どのフェーズにいるのかがわかるしくみ)

３．ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業

・実証事業として「地域が取り組むきっかけ」ができたことは成果であると言えるが、「きっかけ」となるか、単年度事業で終わるかについては、地域側のスタンスにも影響を受ける。
単年度の計画で実施する前提の場合、受け取り手の地域側も「単年度付き合う」意識となり、「きっかけ」となれない可能性がある。

→「地域が取り組むきっかけ」として、翌年度以降等に地域が継続的に取り組めるようにするには、こうした実証事業の中に次年度以降の体制や計画づくりを補助するしくみがあると望ましい。(ex：DMO 設立や創業時のような最初のイニシャルコストに相当するコスト（ヒト、モノ、カネ等のリソース支援）を補助事業とする等)

・ペットボトルゴミ削減（不必要な消費の削減、無責任な廃棄の削減）については、使ったペットボトルをいかにリサイクルさせて新たに資源を使用しないということも対応策として必要であるが、北海道内において専用のリサイクルセンターなどが存在していないと聞いており、分別廃棄したペットボトルがどう流れていくのかが見えない状態だという。(業者談) それでは地域や個人として取り組み甲斐がなく、結局分別廃棄しなくてもよいという考えに暗転する可能性がある。

→分別したペットボトルの行く末やリサイクルの流れについてメーカーや回収業者などが説明責任を果たそうとするには、周りの意識を先に高めリサイクルに関する意識偏差値を上げておく必要がある。その為、今回阿寒湖温泉地域で取り組んだことは道内にて浸透させ、道内全体としてペットボトルゴミ削減に向かいたい。

上記２．３．４を通して行った情報提供の場から

事前説明会や GSTC トレーニング、ヒアリングの場、セミナー等で DMO や行政から「この取り組みをやったらどうなるのか？（効果)」、「この取り組みを実施していく為の費用は？（予算)」の問いが多く聞こえた。また GSTC に限らず、様々な情報を必要としているように感じた。

→GSTC 基準での取り組みはまだ国内事例として非常に少ない為、GSTC ﾄﾚｰﾅｰからも明言しにくい状況となっている。各地にて持続可能な観光の推進に着手できるよう、偏った情報提供ではなく検討材料となり得る、ある程度網羅的な情報提供が期待されている。また、道内各地で事の大小はあれど、SDGｓに紐づく何らかの取り組みはされている状況にありながら、それらを共有するような機会は存在していない。「まず着手してみた」程度の取り組みを聞くことで、着手のしやすさから、取り組み意欲が向上したり、相談しあう仲間ができたりという効果も考えられる。今後、持続可能な観光の推進に向かっていく為に、「隣の地域は何をやっているか」「道内の〇〇地域は何をやっているか」等を道内で共有し合う場づくりが必要であると考える。

７．参考資料一覧

［ページインデックス］

［00_事前説明資料］
00_事前説明資料_共通_201907 ..... ［00_00_事前説明］
01_事前説明資料_ニセコ_201907 ..... ［00_01_事前説明］
02_事前説明資料_阿寒_201907 ..... ［00_02_事前説明］

［01_GSTC トレーニング］
00_GSTC トレーニング_共通..... ［01_00_GSTC トレーニング］
01_GSTC トレーニング_ニセコ..... ［01_01_GSTC トレーニング］
02_GSTC トレーニング_阿寒..... ［01_02_GSTC トレーニング］

［02_アクションプラン案作成］
00_アクションプラン説明資料_共通 ..... ［02_00_アクションプラン］
01_アクションプラン案_ニセコ ..... ［02_01_アクションプラン］
02_アクションプラン案_阿寒 ..... ［02_02_アクションプラン］

［03_ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業］
01_セミナーWS_阿寒 ..... ［03_01_ペットボトルゴミ削減］
02_実証内容 MTG_阿寒..... ［03_02_ペットボトルゴミ削減］
03_デザイン DATA_阿寒..... ［03_03_ペットボトルゴミ削減］
04_イベント構成_阿寒 ..... ［03_04_ペットボトルゴミ削減］
05_イベント POP_猛禽類 POP_阿寒 ..... ［03_05_ペットボトルゴミ削減］

［04_セミナー］
01_セミナー資料 ..... ［04_01_セミナー］